

高岡市立博物館年報

第 33 号

平成 30 年度

高岡市立博物館

は じ め に

高岡市立博物館は、当地の歴史・民俗・伝統産業にかかる資料の収集・保管、展示、また調査研究や教育普及など、さまざまな事業の継続と充実に努めています。平成30年度、当館では多岐にわたる事業を実施しました。

まず展示事業として常設展「高岡ものがたり」（通年開催）では、高岡の歴史・民俗・伝統産業の分かりやすい紹介に努め、常設展内のお宝コーナーでは、5回のミニ展示を順次開催しました。前年度末から年度当初にかけて開催した館蔵品展「昔の道具とくらし」では、当館が収蔵する衣・食・住をはじめとした古い生活道具類「民具」に焦点をあて、それぞれの民具がもつ歴史や用途に加え、その時代を生きた人々の暮らしぶりについて展示・紹介しました。特別展「古写真にみる高岡」では、当館が近年新たに収蔵した写真絵葉書を中心に、高岡の古写真を展示・紹介しました。企画展「堀田一族と伏木 ～堀田善衛^{よしえ}生誕100年・日本遺産「北前船寄港地」追加認定記念～」では、国際的視野を持った芥川賞作家・堀田善衛（1918～98）の生誕100年の記念、及び同年伏木が日本遺産に追加認定されたことを記念し、善衛を育んだ伏木と堀田一族（八坂家・稲垣家・野口家）について歴史資料を中心に展示・紹介しました。

教育普及事業としては、郷土学習講座（3講）、古文書講座（6講）のほか、呈茶の会「松聲庵ー博物館で抹茶を楽しみませんかー」（春・秋）などを開催しました。また、高岡テクノドームにおいて博物館サテライトギャラリーを開設しました。

そのほか、高岡の歴史・民俗・伝統産業に関する資料の収集に努めました。調査研究活動では、日ごろ博物館に寄贈される資料の調査・整理に取り組みしました。そして、昨年度に引き続き、国登録有形文化財「高岡鋳物の製作用具及び製品」の重要指定へ向けた当館収蔵の鋳物資料調査を行いました。加えて当館収蔵資料情報のデジタル化を進め、計730件の資料情報をインターネット上で公開しました。

地域の歴史と文化の継承という博物館の任務には、決して終わりはありません。それは幅広い方々のご理解、ご協力があってこそ、初めて可能になります。

職員一同、さらに皆様に親しまれる博物館を目指して努力を重ねて参ります。日頃からのご協力に厚くお礼を申し上げますとともに、今後とも当館事業に一層のご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

令和2年2月

高岡市立博物館
館長 廣瀬 由美子

目 次

I 事業の状況

1 展示事業

- (1) 常設展「高岡ものがたりー楽しく知ろう！ひらめき・ミュージアムー」…1
- (2) 館蔵品展「昔の道具とくらし」……………1
- (3) 特別展「古写真にみる高岡」……………1
- (4) 企画展「堀田一族と伏木 ～堀田^{よしえ}善衛生誕100年・日本遺産「北前船寄港地」追加認定記念～」…………… 11
- (5) 館蔵品展「昔の道具とくらし」…………… 22

2 教育・普及活動

- (1) 郷土学習講座（全3講）…………… 28
- (2) 展示説明会…………… 30
- (3) 古文書講座「初めての古文書教室」（全6講）…………… 31
- (4) ワークショップ等…………… 31
- (5) 刊行物の発行…………… 32
- (6) 団体見学、展示解説対応…………… 33
- (7) 他団体への協力…………… 34
- (8) レファレンス…………… 39
- (9) インターネットによる広報・普及…………… 40

3 収集・保存活動

- (1) 購入資料…………… 40
- (2) 寄贈資料…………… 41
- (3) 保存活動…………… 42

4 調査・研究活動…………… 42

5 高岡市立博物館に親しむ会との連携…………… 43

II 管理運営の状況

- 1 職員名簿…………… 46
- 2 歳出予算…………… 46
- 3 高岡市立博物館協議会…………… 46
- 4 高岡市立博物館条例…………… 47
- 5 高岡市立博物館条例施行規則…………… 48
- 6 入館者数…………… 49
- 7 当館関連記事一覧…………… 50

III 施設の状況

- 1 沿革…………… 52
- 2 施設概要…………… 53
- 3 利用案内…………… 55

I 事業の状況

1 展示事業

(1) 常設展「高岡ものがたりー楽しく知ろう！ひらめき・ミュージアムー」

〔会期〕平成30年4月1日(月)～平成31年3月31日(日)〔307日間・通年開催〕

〔会場〕本館第1・2常設展示室、休憩室

〔趣旨・内容〕

高岡の歴史、祭礼などの民俗、銅器・漆器などの伝統産業について、分かりやすい紹介に努めている。「お宝コーナー」では時宜に合わせて展示替えを行うなど、絶え間ない発信に努め、展示の充実を図った。

①「懐かしのレトロゲーム展」(4月1日～4月15日)

②「新発見！高岡共立銀行宛の渋沢栄一書簡」(6月30日～8月26日)

③「吉田松陰と佐久間象山の動向を伝える坪井信良書簡」(10月6日～12月9日)

④「焼き物を楽しむー高岡ゆかりの陶芸資料ー」(平成31年1月12日～3月10日)

⑤「国産第1号の電気釜ー新収蔵民俗資料ー」(平成31年3月30日～3月31日。次年度6月2日まで開催)

〔展示資料〕(平成19年度年報に掲載)

(2) 館蔵品展「昔の道具とくらし」

〔会期〕平成30年4月1日(月)～5月6日(日)〔32日間〕

〔会場〕新館第1・3企画展示室

〔趣旨・内容〕

当館が収蔵する衣・食・住をはじめとした古い生活道具類「民具」に焦点をあて、それぞれの民具がもつ歴史や用途に加え、その時代を生きた人々の暮らしぶりについて展示・紹介した。(平成30年2月3日より、年度をまたいで開催したもの)。

〔展示資料、ポスター・チラシ画像、展示風景〕(平成29年度年報に掲載)

(3) 特別展「古写真にみる高岡」

〔会期〕平成30年6月2日(土)～8月19日(日)〔68日間〕

〔会場〕新館第1・3企画展示室

〔趣旨・内容〕

当館が近年新たに収蔵した写真絵葉書を中心に、高岡の古写真を展示・紹介した。

〔印刷物〕

・ポスター(B2版、片面1色刷、400枚)

・チラシ(A4版、片面1色刷、5,000枚)

・パンフレット(A4版、1色刷、総頁数16、1,000部)

〔展示資料〕計178件240点

I 写真絵葉書にみる高岡

1 高岡古城公園

No.	資料名称	年代	点数	備考	所蔵
1	「越中高岡城跡」	1907～18年頃	1	大手口から枳形堀を写したもの	当館
2	「高岡公園内堀」	大正期頃	1	古城の滝付近から明丸・鍛冶丸方面を写したもの	高岡市
3	「(高岡名勝)高岡古城公園(其二)」	1907～18年頃	1	本丸東側にある古城の滝付近を写したものの。この滝は1903年頃広瀬万次郎(京都の庭師・小川治兵衛の弟子)の作	当館
4	「高岡古城公園」	1907～18年頃	1	二の丸－本丸間の土橋を歩く女性たち。正面奥には本丸の射水神社が見える	当館
5	「高岡古城公園 本丸」	1942～60年頃	1	射水神社周辺を歩く人々	高岡市
6	「(高岡名勝)射水神社(国幣中社)」	1933～44年頃	1	射水神社は、1875年9月に二上山麓(現・二上射水神社)から本丸に遷座された	当館
7	「雪の射水神社(高岡) / 高岡小唄」	1935～44年頃	1	上は雪が積もる射水神社を神明型の鳥居の外から写した写真。下は「高岡小唄 二」の歌詞が刷られ、「越中美入」の女性が写る。高岡小唄は1935年12月にポリドールレコードから発売され、県内で5,000枚も売れたという(作詞:名部島春作/作曲:野村豊繁/歌:浅草メ香)	当館
8	「高岡公園船見山」	1918～33年頃	1	本丸北隅の高まり「船見山」を写したものの。江戸後期の古記録「瑞龍院様高岡ニ御築城ノ件」には、ここから伏木湊の船の帆形が見えたと記されている。「船見山」とするのはこれとNo9の絵葉書のみ	高岡市
9	「高岡公園(其六) 船見山御慶事記念松」	1907～18年頃	1	現在の本丸北隅辺りを写したものの。当時この高まりは「船見山」とよばれていたらしいことがわかる。「御慶事記念松」とは、1909年の皇太子殿下(後の大正天皇)行啓記念に植樹した松(右上の松か)とのこと	当館
10	「皇太子殿下行啓の児童手旗体操」	1909年	1	行啓に際し、本丸で市内の小学生が整列し手旗体操が行われている様子。他に高岡御車山7基を揃えて上覧していただいた	高岡市
11	「本丸球場」	1947～70年頃	1	本丸球場で野球をする少年たち	高岡市
12	「高岡公園運動場ノ桜」	1918～32年頃	1	明丸前通路から三の丸方面を写したものの。右(現・動物園)は運動場であったことがわかる	当館
13	「高岡古城公園」	1907～18年頃	1	本丸で運動会競技が行われている様子。「船見山」から写したものか。高岡塩谷石版所発行	当館
14	「高岡公園大広場」	1907～18年頃	1	現在の本丸広場の中央より北東方面を写したものの	当館
15	「(高岡名勝)古城公園広場と瑞龍前田公遺徳碑」	1933～44年頃	1	本丸の西側から北東方向を写したものの。右側には「瑞龍前田公遺徳碑」(1918年9月建立)が見える	当館
16	「高岡公園皇太子殿下行啓御野立所」	1909～18年頃	1	1909年10月2日に皇太子殿下(後の大正天皇)が高岡古城公園に行啓した際、本丸北隅に設置された「御野立所」の跡。現在は石碑が立ち、面積は1/3程に縮小されている	当館
17	「高岡公園御野立所」	1909～18年頃	1	写真奥には「皇太子殿下御野立所」跡を囲む鎖の柵がみえる。樹木が少なく見晴らしがよい	当館
18	「(高岡名勝)古城公園の景」	1909～33年頃	1	かつて後の児童公園(本丸北隅)にあった銅像「唐子群像」(戦時中に供出)が載る噴水。写真奥には「御野立所」跡を囲む鎖の柵がみえる	当館
19	「越中 高岡公園(其一)」	1907～18年頃	1	本丸または小竹藪を写したものか	当館
20	「越中 高岡公園(其三)」	1907～18年頃	1	本丸北側を写したもの	当館
21	「(高岡名勝)古城公園の一部」	1909～18年頃	1	本丸北隅にあった四阿2棟を写したものの。左奥のものが1909年の皇太子行啓の際の御野立所と思われる	当館
22	「(高岡名勝)古城公園中の島」	1907～32年頃	1	水堀ではボート遊びをしている	当館
23	「高岡公園(其二)」	1907～18年頃	1	現在の朝陽橋から北を写したものの。中の島は1909年の皇太子行啓に向けて1907年に造成された。遠景に二上山が見える	当館
24	「(高岡名勝)古城公園桜の中ノ島」	1933～44年頃	1	朝陽橋東橋詰辺りから北西方向を写したものの。左側が本丸で、中央の膨らみが櫓(天守)台といわれる張り出しである。右側が中の島	当館
25	「高岡公園(其三)」	1907～18年頃	1	現在の朝陽の滝付近から中の島を写したものの。遠景には二上山も見える	当館
26	「(高岡名勝)古城公園の橋」	1907～18年頃	1	朝陽橋(本丸－梅林)の橋脚の間から中の島方面を写したものの。右(北)の橋台部分には、築城時よりの石積みが見られる	当館
27	「(高岡名勝)古城公園」	1918～32年頃	1	右側手前が現在の中の島に架かる北側の橋「二の橋」、その奥が中の島、左手の高台は小竹藪。この池は以前菖蒲池と呼ばれていた	当館

28	「(高岡名勝)明丸から北東を望む」	1933～44年頃	1	桜花の中、明丸を歩く人々。右は現在の動物園。タイトルに「池の端」とあるが誤りである	当館
29	「高岡公園塵不溜池ヨリ郡衙ヲ望ム」	1907～18年頃	1	現在の古城公園前交差点から博物館のある鍛冶丸方面を望む。左奥には射水郡役所(1881年設置)がみえる。現在と異なり、樹木が少なく、土塁の法面がよく見える。「塵不溜」は杵形堀の別名	当館
30	「高岡公園」	1907～18年頃	1	明丸を博物館方面に向かって写したものか	当館
31	「(高岡名勝)古城公園桜の朝陽橋」	1933～44年頃	1	タイトルに「太鼓橋」とあるが、朝陽橋の誤り。「太鼓(太閤)橋」は二の丸から南西側の園外に架かる「駐春橋」の通称である	当館
32	「古城公園駐春橋」	1918～32年頃	1	現在の二の丸の護国神社付近から大手町方面を写したもの。この橋は湾曲が強く、「太鼓橋」(転じて「太閤橋」)と呼ばれていた	当館
33	「高岡公園駐春橋ノ桜」	1933～44年頃	1	桜咲く駐春橋とその上を歩く人々。南外堀付近から二の丸入口付近を写したもの。棚田書房発行	当館
34	「高岡古城公園」	大正中期頃	1	二の丸の市民会館前より本丸の射水神社を写したもの	高岡市
35	「高岡公園」	1907～18年頃	1		当館
36	「高岡公園池畔ノ桜」	1918～32年頃	1		当館
37	「古城公園前堀」	1918～32年頃	1		当館

2 高岡市内

No.	資 料 名 称	年 代	点数	備 考	所 蔵
1	「高岡桜馬場」	1907～18年頃	1	桜馬場は1609年の高岡開町時に前田利長が造成した馬場に、のち利常が桜を植えたのがはじまり。明治初期から昭和前期まで、北陸有数の桜の名所として賑わった	当館
2	「高岡桜馬場公園」	1907～18年頃	1	桜馬場公園は1902年に公園化され、高岡市民のみならず、県内、県外(金沢や福井など)からも花見客が訪れ、臨時列車が運行されるほどの盛況ぶりだった。高岡学海堂発行	当館
3	「高岡桜馬場の景」	1909～18年頃	1	提灯が飾られ、桜花の下を人々が行き交っている。右隅に、1909年の皇太子行啓の記念事業として創設された「高岡物産陳列場(観覧無料)」の看板が見える	当館
4	「越中高岡市街」	1907～18年頃	1		当館
5	「(越中名勝) 越中二塚村恒性皇子ノ墓」	1912～18年頃	1	原題は「越中方塚村恒生子ノ墓」とある。高岡市二塚・浄誓寺の南東73m、字山作にある。宮内省の実地調査を経て、1912年1月に陵墓として指定・告示された。恒性皇子(1305～33)は後醍醐天皇の皇子。父の討幕計画が発覚し、1332年に二塚に配流された。翌年、越中守護・名越時有に殺害された	当館
6	「(越中名勝) 越中高岡瑞龍寺全景」	1907～18年頃	1	正面向かってやや右から写したもの。手前には蓮などの畑が広がる。左手前から総門、山門、仏殿が見える	当館
7	「高岡山瑞龍寺全景」	1907～18年頃	1	正面向かって右上から写されたもの。広大な畑が広がる。左手前から総門、山門、仏殿、法堂が見える。明治になり藩の後ろ盾を失った瑞龍寺は困窮し、境内地は切り売りされた	当館
8	「桜雲ノ八丁道瑞龍寺ノ遠望」	1933～44年頃撮影	1	八丁道とは、前田利長墓所と瑞龍寺を結ぶ約870mの参道。1646年の利長33回忌の折に、墓所とともに加賀前田家3代当主利常が造営した。松と桜が交互に植樹されている。写真のタイトルが左書きであるので、戦後の増刷と思われる	当館
9	「(高岡名所) 八丁道」	1933～44年頃	1	八丁道を歩く人々	当館
10	「越中 高岡 前田公ノ御廟」	1907～18年頃	1	前田利長墓所を斜め右から写したもの	当館
11	「(高岡名勝) 前田利長公の墓」	1918～32年頃	1	正面奥に墓標とレリーフの基壇、扉と玉垣がみられる。その手前の鳥居(1877年神明鳥居)に至る参道は1913年の墓所整備によるものと思われる。現在との違いは、鳥居の手前下に現在ある石製献花台(梅鉢文入り)が見られないなどが挙げられる	当館
12	「(高岡名勝) 高岡停車場」	1916～45年頃	1	2代目高岡駅の彩色絵葉書。高岡駅は、1897年下黒田に置かれた中越鉄道(株)の黒田仮駅を前史として、翌年1月に同社の、そして11月に完成した官営北陸鉄道高岡駅を初代としている。2代目駅舎は、1916年9月に改築された	当館
13	「(高岡名勝) 停車場構内」	1918～23年頃	1	写真手前側に7本の線路があり、一番左線路には写真奥(金沢方面)に向かって走る列車や、その1本において右の線路には煙を噴く蒸気機関車が見える。写真奥には島式プラットホームと跨線橋があり、中央右側の建物は2代目高岡駅舎。駅手前側の建物は荷物取扱棟	当館

14	「高岡駅前バス待合所」	1950～51年頃	1	高岡産業博覧会開催の歓迎塔が建てられている駅前の様子	『高岡産業博覧会誌』（高岡産業博覧会事務局、1952年）
15	「七本杉（稀代ノ古名木）」	1907～18年頃	1	高岡・末広町通りにあった七本杉を中心に高岡駅方向を写したもの。七本杉は樹齢千年以上の老木といわれ、樹高は38m余りで7本の太枝をのばしていたが、1894年の強風で2本となった。高岡駅前通りの中心にありこの七本杉により交通妨害を引き起こし、また老樹の衰えも進んだことから1927年伐採された	当館
16	高岡七本杉（末広町）通り	明治中～大正期	1	七本杉伐採前の末広町通り	当館
17	「末広町通り」	1930～36年頃	1	七本杉伐採後の末広町通り。写真遠景には高岡駅前にあったグリーンホール（1923年建築の百貨店）が見える	『富山県政史第1巻』（富山県、1936年）より
18	「（高岡名勝）高岡市役所」	1913～45年頃	1	この庁舎は1913年に片原町交差点の東角（現・北陸銀行高岡支店）に建てられた。西欧風ゴシック様式のモダンな建築である。前庭は1948年開通の富山地方鉄道（現・万葉線）により大きく削られ、その軌道となった。	当館
19	「高岡市役所」	1913～36年頃	1	1913年片原町（現・北陸銀行高岡支店）に西欧風ゴシック様式のモダンな庁舎が建てられた	『富山県政史第1巻』（富山県、1936年）より
20	「（高岡名勝）高岡市街の景」	1907～32年頃	1	高岡市御馬出町の様子を写したもの。右奥に見える洋風建築は1912年建築の高岡銀行（北陸銀行の前身）。左手前は高岡郵便局内に置かれた電話交換棟で、高岡で初めて電話交換が開始されたのは1907年11月のことである	当館
21	高岡市御馬出町の防火訓練（高岡税務署前）	1944年頃	1	高岡税務署は、1896年11月に、全国で初めて税務署が設置されたうちのひとつとして、高岡駅前に創設された。1931年1月には御馬出町（元・高岡連隊区司令部跡地。現・御馬出交番）に移り、1963年4月には現在地（博労町）に移転した	個人蔵
22	「高岡市本町通り」	1907年頃	1	高岡市御馬出町から守山町を望む。右手前に見える建物は高岡郵便局内の電話交換棟	当館
23	「高岡銀行」	1907～18年頃	1	1889年4月市制施行と同時に開業した高岡で最初の普通銀行。御馬出町にあった由緒町人・服部嘉十郎家（御本陣）跡に設置され、1900年の高岡大火後、土蔵造りで2階建の行舎に建て替えられた。行舎左角には御馬出町交番が見える	当館
24	「（大一株式会社高岡青果市場全景）」	1918～32年頃	1	高岡・鴨島町にあった大一青果問屋（1918年設立）で、揃いの法被を着た社員11名が事務所内で仕事をする風景	当館
25	高岡市鴨島町 大一青果市場（梨作柄・景況照会状）	1918～40年頃	1	取引先への梨作柄及び景況についての照会状。中央には大一青果市場の写真が入っている	当館
26	「（高岡電灯株式会社）全景」	1934年	1	高岡電灯（株）が本町（のち本丸町）に1934年7月に新築した社屋の全景（設計は清水組の矢田茂）。同社は1951年北陸電力（株）高岡営業所、1960年高岡市役所庁舎となった（80年本丸会館。2012年解体）	当館
27	高岡電灯株式会社内「二階小会議室／一階営業室」	1934年	1		
28	「（雪の高岡）大仏」	1933～44年頃	1	雪の積もる高岡大仏前でお参りをする女子生徒の様子。円光背が付けられるのは1958年である	当館
29	「（観光の高岡）日本三大仏の一 美男におはす高岡大仏／雪の古城公園」	1945年以降	1	円光背が付く（1958年）前の高岡大仏と、雪の積もる古城公園（駐春橋）を写したものの	当館
30	「（観光の高岡）高岡七本山車／筆頭大八車」	1945年以降	1	市内を高岡御車山が曳き回される様子を写したものの	当館
31	「高岡市博労町小学校奉安式」	1921年 11月10日	1	高岡市博労町小学校（現・市立博労小学校）で行われた奉安式の様子。奉安殿には御真影（天皇皇后両陛下の肖像写真）や教育勅語を保管する建物である。戦前の学校には奉安殿があり、児童・生徒、教員らは登下校の際、この前で最敬礼をしなければならなかった	当館
32	「高岡市定塚国民学校奉安殿」	1942年9月21日～ 46年8月3日	1	同校（現・高岡市立定塚小学校）の奉安殿は卒業生らの寄付金により建てられた。落成式は1942年9月21日に行われ、1946年8月3日より取り壊し作業が開始された	当館
33	「（高岡名勝）小矢部川ノ下流」	1907～13年	1	江戸初期より水運の主役を担った「長舟」が見える。富山県一府八県連合共進会（1913年）スタンプあり。角谷発行	当館
34	「戸出物産株式会社」	1896～1909年頃	1	1896年、地元の吉田養五郎らにより創設された繊維工場（前身は1893年設立の戸出物産合資会社）。2014年に事業停止・閉鎖される。戸出町の近郷は、古くから「八講布」といわれる麻布の産地として知られ、明治期に入ると同地ではとりわけ綿織物産業が発展した	『富山県写真帖』（富山県、1909年）

35	「戸出駅」	昭和期	1	戸出駅は1896年10月築。翌年県下で最も早く黒田－福岡間に敷設された中越鉄道(株)の駅。施工は戸出の河合市兵衛と油田の平松達次郎。開業以来、改築はされていない木造平屋建である。2010年「とやまの近代歴史遺産百選」に選定された	『戸出町史』(戸出町史編集委員会、1972年)
36	「豪雪下の中田町」	1963年	1	1963年の三八豪雪で雪に埋もれる中田町の様子	『中田町史』(中田町史編集委員会、1968年)
37	「中田橋竣工式」	1908年8月6日	1	雄神川(庄川)に架かる中田橋の竣工式の写真。この橋は鉄筋の永久橋になるまでに2度も流失した	『中田町史』(中田町史編集委員会、1968年)
38	「福岡駅前通りの桜並木」	昭和初期	1	1898年に福岡駅が開業し、駅前通りが整備された。両側に桜が植えられ、開花時には雪洞(ほんぼり)をつるして賑わったという。大正年間に建てられた町役場も、この道路に面しており、福岡町のメインストリートだった	『福岡町史』(福岡町史編集委員会、2004年)
39	「福岡駅」	昭和期	1	福岡駅は1898年11月1日に、「官営北陸鉄道福岡駅」として営業を開始した。この駅舎は1936年に建設され、現在の駅舎は平成期に建て替えられたもの	『福岡町史』(福岡町史編集委員会、2004年)

3 伏木・雨晴

No.	資料名称	年代	点数	備考	所蔵
1	「越中伏木港 (其二)」	1907～18年頃	1	小矢部川左岸の河口港である伏木港の様子を写したもの。汽船が係留されており、多くの人影が見えるが、これは米や石炭を運ぶ女仲仕(女性の荷役)らであると思われる	当館
2	「(越中) 伏木港」	1907～14年頃	1	突堤の先に灯台(1915年築)はない。富山市総曲輪江尻真生堂発行	当館
3	「(越中名勝) 伏木港」	1918～32年頃	1	数艘の船が伏木港に停泊している様子。煙を上げた蒸気船も見える。伏木築港工事は1900年に開始された庄川河道改修工事の付帯工事として実施され、1912年に完成した。それにより伏木港は大汽船が接岸し、貨客を直ちに鉄道に直結できるという利点をもつ日本海沿岸の最初の近代港湾となった	当館
4	「(嶋尾名勝) 伏木港碇泊帆船露海出漁光景」	1918～32年頃	1	何艘もの船がロシア近海へ向けて出漁に出航しようとしている様子	当館
5	「伏木港」	1907～18年頃	1	伏木の教育・海運・築港などに尽くした藤井能三(1846～1913)は、『伏木築港論』(1891年)の中で伏木港を日本海対岸貿易のできる近代港湾に発展させることを説いた。1899年には能三をはじめ全県をあげての運動が実り、伏木港が全世界と貿易できる開港場に指定された	当館
6	「伏木築港内上流伏木橋」	1918～32年頃	1	小矢部川左岸の伏木港上流(新島通り。旧如意の渡し渡船場)に架かる伏木橋と港に停泊する船が写されたもの(右が海)。伏木橋の前身は1883年築の寺畑橋(貨取橋)。写真の橋は1898年築の県営木造橋。長さ344m、幅4.2m。1909年築港工事のため撤去された。1911年にやや上流の伏木串岡と対岸吉久を結ぶ新しい伏木橋が架けられた	当館
7	「伏木埠頭」	1918～32年頃	1	中央奥の突堤に灯台(1915年築)が見える	当館
8	「突堤より眺たる射水川の全景」	1907～18年頃	1	突堤から射水川(小矢部川下流の古称)を写したもの。川の兩岸(向かって右側が伏木)の間に、大小様々な船が浮かんでいる。北村書店発行	当館
9	「(観光の高岡) 夕陽の伏木港と工場地帯」	1945年以降	1	夕陽の伏木港のなか、数艘の蒸気船などが煙を上げる様子	当館
10	「雪中の伏木国分海岸」	1918～32年頃	1	雪が積もる伏木国分海岸の様子	当館
11	「雪中の伏木市街 (二)」	1918～32年頃	1	雪が積もる伏木市街の様子	当館
12	「義経雨晴 其二」	1907～18年頃	1	義経岩を近景に、女岩を遠景において写されたもの。義経岩付近に家屋がある。伏木港北村書店(伏木中央町)発行	当館
13	「越中 義経雨ばらし」	1900～07年頃	1	義経岩付近に家屋が建つ。海の水色などが彩色された「手彩色絵葉書」。「義経岩」は鎌倉幕府の追捕を受けた源義経主従が奥州へ落ち延びる途中、にわか雨の晴れるのを待ったという岩で、地名「雨晴」の由来となっている。2015年には「おくのほそ道の風景地」の一つとして「有磯海」(義経岩のある雨晴海岸一帯)が国の名勝に追加指定された	当館
14	「(越中氷見郡義経雨晴ノ景)」	1907～18年頃	1	氷見方面から義経雨晴を望む。表題は宛名面に貼られた紙に手書きしてあるもの	当館

15	「越中義経雨晴シ」	1909～18年頃	1	義経岩を近景に、女岩を遠景において写されたもの。避暑であろうか、数十人の人々が集まっている。高岡市棚田書房発行	当館
16	「義経雨晴海岸（二）」	1918～32年頃	1		当館
17	「義経雨晴」	1918～32年頃	1	氷見(右上)・伏木方面それぞれから見た義経雨晴の景	当館
18	「越中 義経雨晴の奇勝」	1918～32年頃	1	伏木方面より義経雨晴を望む。北村書店発行	当館
19	「伏木方面より眺たる雨晴」	1918～32年頃	1	手彩色絵葉書。富山市(総曲輪)江尻真生堂発行印あり	当館
20	「(越中名勝) 義経の雨晴」	1918～32年頃	1		当館
21	「雨晴より岩崎鼻を望む」	1951年以降	1	高岡市の雨晴海岸から見える岩崎鼻台地(1951年築の灯台もある)を遠景に、手前には氷見線の車両が1両走る様子を写したものの。手彩色絵葉書	当館
22	「越中義経雨晴ノ男島」		1	雨晴海岸にある男岩を写したものの。表題には「雄島」とある	当館
23	「夏季の伏木海岸（其ノ二）」	1918～32年頃	1	伏木海岸で海水浴を楽しむ人々	当館
24	「夏季の義経雨晴海岸」	1918～32年頃	1	義経雨晴海岸付近で海水浴を楽しむ人々	当館
25	「義経雨晴出島と忠魂碑」	1907～18年頃	1	写真中央には女岩、右隅の義経岩上には忠魂碑が建つ。女岩は出島と呼ばれていたことや、現在の義経神社(旧・太田小奉安殿)のある岩上に忠魂碑が建っていたことがわかる。伏木北村書店発行	当館
26	「(越中雨晴) 義経の雨晴」	1933～44年頃	1	義経岩周辺で避暑に訪れた人々	当館
27	「(越中雨晴) 雨晴全景」	1933～44年頃	1	高岡市の雨晴全景を伏木側から写したものの。写真右側には義経岩や義経社のほか、現在のJRにあたる国鉄氷見線が確認できる	当館
28	「(越中雨晴) 松田江浜」	1933～44年頃	1	「松田江浜」(松太枝浜)は、氷見市島尾海岸の一端を指す。海水浴に来た人々が見える。英語表記もみられ、外国人向けの土産物でもあった	当館
29	「王子製紙伏木工場第一抄紙室」	1924～32年頃	1	同社は1919年設立の「北海工業(株)」にはじまる。1924年には「王子製紙(株)伏木工場」、1949年8月に「十條製紙(株)伏木工場」と改称した。抄紙機とは、紙を連続的に抄く機械	当館
30	「十條製紙・伏木工場・全景」	1951～52年頃	1	十條製紙伏木工場は、王子製紙(株)伏木工場から1949年8月に改称。1993年日本製紙(株)伏木工場と改称(2008年閉鎖)	当館
31	「越中伏木測候所」	1909～38,39年頃	1	高岡市伏木にある現在の高岡市伏木気象資料館の前身の富山県伏木測候所を写したものの。1909年に現在の伏木中央町から伏木古国府に移転建築された。測候所の屋根には、2017年復元された塔屋が設けられている。北村書店(伏木中央町)発行	当館
32	「(伏木港) 雲龍山勝興寺境内の大雪」	1933～44年頃	1	大雪の積もった勝興寺が写されたもの。右側に宝蔵、中央に手水舎、左側奥に本堂がある	当館
33	「東宮殿下の台覧に供したる獅子舞 其二(伏木休憩所)」	1909年9月29日	1	1909年に東宮殿下(皇太子)嘉仁親王(後の大正天皇)の北陸行啓で、伏木獅子舞を披露した際の写真。伏木商工会の行啓記念スタンプあり	当館

Ⅱ 高岡市営繕課長・武波勝平撮影写真

1 失われた銅像（高岡古城公園）

No.	資 料 名 称	年 代	点数	備 考	所 蔵
1	稲垣 示像	1941年2月	2	1915年園内小竹藪に造立(供出され現存せず)。原型・中野双山(高岡大仏の作者)。鑄造・山岸栄次郎。台座は暫く残った。稲垣(1849～1902)は現・射水市出身の自由党系の政治家	当館
2	上埜安太郎像	1941年2月	1	新発見写真。1937年小竹藪に造立(供出され現存せず)。原型・本保蘇堂。のち2体が造立(小矢部市と生家跡)。原型は高岡市福岡歴史民俗資料館蔵。上埜(1866～1939)は現・高岡市福岡町出身の政治家(衆議院議員、高岡・富山市長)	当館
	〔参考〕上埜安太郎像(小矢部市・城山公園)	2018年	1	1965年造立	当館
	〔参考〕上埜安太郎像(高岡市福岡町・上野公園)	2018年	1	1994年造立	当館
3	「国技」	1941年2月	1	1938年に三の丸・相撲場前に造立、翌年除幕式(供出され現存せず)。原型・長谷川義起。4代立浪親方(滑川市出身の元小結・緑島)の全額負担により造立された	当館
	〔参考〕「国技」(複写)	1933年	1	第14回帝展出品作	『高岡市史』(高岡市、1969年)
	「国技」除幕式	1939年8月1日	1		高岡市

4	「神馬」	1941年 2月	1	戦前に本丸射水神社前に造立(供出され現存せず)。原型・米治一。鑄造・岩坪磯次台座は現存する	当館
	〔参考〕現存する「神馬」の台座	2018年	1		当館
5	噴水「唐子群像」	1941年2月	1	戦前に本丸北隅(現・児童公園北)に造立。年代・作者不明。戦時中に供出され、戦後も暫く台座のみがあった	当館
	像の無い噴水	1951年	1		『高岡産業博覧会誌』(高岡産業博覧会事務局、1952年)
6	「鳳凰塔」	1941年 2月	1	新発見写真。宮城方位指標。戦前、本丸に建立。年代・作者不明。宮城は東京の皇居で、集会の際等には遥拝(敬礼)が行われた	当館

2 市民の暮らしと風景

No.	資料名称	年代	点数	備考	所蔵
1	宮城遥拝	1937～45年頃	1	高岡市大工中町・高蓮寺前。1937年の日中戦争の勃発以後、国旗掲揚や国歌斉唱、宮城遥拝(皇居への敬礼)とラジオ体操等が連続で行われた	当館
2	ラジオ体操	1937～45年頃	3	大工中町。ラジオ体操(当時は国民保健体操)は、銃後を護る国民体力向上と皇国精神徹底のために全国で奨励された	当館
3	整列する子供たち	1937～45年頃	1	高岡市大工中町・高蓮寺。町内の児童らが整列している。これから男女に分かれ、それぞれ勤労奉仕に行くものと思われる	当館
4	勤労奉仕に励む男子たち	1938～45年頃	1	畑の土のためか、男子たちが線路の盛土を削り運んでいる。戦時中は児童も「少国民」とよばれ、勤労奉仕として食料増産のための農作業などに駆り出された	当館
5	勤労奉仕する女子たち	1937～45年頃	1	高岡市大工中町・高蓮寺。畑にするのであろうか境内の石を拾っている。主に女子で、男子に比べ軽作業である	当館
6	大工中町・常会	1941～45年頃	1	常会とは戦時中、国が国民統制のため組織させた、町内会や隣組などにおいて定期的に開かれた集会のこと。大きな日の丸や式次や十則からは当時の世相が窺える	当館
7	洗濯する女性	昭和前期	1	道端の用水で洗濯している女性	当館
8	子供たち	1941年2月8日	1	写真袋には「昭和拾六年式月八日／島 佐吉家子供撮影」とある	当館
9	神社にて(整列)	1945年以前	2	この写真から下2枚は同日の撮影。詳細は不明だが、市内の神社に子供たちをメインに右側に少し大人が整列している。祝祭日のイベントであろうか、日の丸を付けたロープが張られている	当館
10	神社にて(宮城遥拝)	1945年以前	1	宮城遥拝の直前であろうか、皆で同じ方向を向き直立している	当館
11	戦時中の楽しみ	1945年以前	1	もんべ姿の女性が目隠しをして棒を振り下ろしている。何かの行事か、神社で笑顔の人々が大勢集まっている	当館
12	大工中町の子供たち	1937年以降	2	庄川に架かる高岡大橋(高岡市三女子～射水市大島北野)にて。1937年築の同橋は鋼トラス橋で、長さ約430m、幅7.5m。橋の上部に石川島造船所製の曲弦のワーレントラスが5連設置。日本の近代土木遺産2800選。富山近代歴史遺産百選	当館
13	高岡古城公園にて	昭和前期	6	武波氏が家族で古城公園に散歩に來た際の写真であろうか。公園内の各所で撮影されている。写真袋には「古城公園春之景撮影」とある	当館
14	守山城跡		1	二上山の西峰・城山(258.9m)に14世紀に築かれた山城。魚津市の松倉城、砺波市の増山城と共に「越中三大山城」という。麓には小矢部川が蛇行している。樹木が少なく、棚田状になった郭(城内の広場)がはっきりと確認できる貴重な写真	当館
15	二上山から東を望む		1	伏木の工場地帯や、富山湾が見渡せる。「伏木臨港工業地帯」は豊富で安価な電力、豊かな工業用水、整備された良港などのメリットも多く、1908年の北陸人造肥料(のちの日産化学)を皮切りに順次企業進出が続き、一大工業地帯が造成された。	当館
16	臨海教育	1937年以降	6	臨海学校のこと。学校名は不明だが、他の写真・資料から勘案すると市中心部の小学校かと思われる。市内の学校は海(雨晴海岸・松太枝浜)に近い太田小学校に間借りして臨海学校を行っていたという	当館

17	有磯正八幡宮		1	高岡市横田。横田正八幡宮と有磯神社が合祀された。もと有磯海(雨晴岩崎付近)に鎮座したが、波の浸食を避け高岡志貴野の山に遷され、慶長年間(1596～1615)横田正八幡宮に合祀された。初め有磯神社正八幡宮と呼ばれ、1804年に有磯神社となる。72年郷社に列せられ現在名に改称	当館
18	気多神社		1	高岡市伏木一宮にある延喜式内社。創立については諸説あり、能登が越中から分離した757年のあと、能登の気多大社の分霊を勧請して創建したため〈新気多明神〉と伝えられる。また717年に勧請したともいうが定かでない。室町時代の本殿は重文	当館
19	高岡関野神社		1	高岡市末広町。1919年に関野神社(熊野)と高岡神社(稲荷)を合社。加久弥神社(神明)と共に「関野三社」といい、神殿が3つ並んでいる。元は台地上の高岡城枡形堀(当館・動物園周辺)だった辺りにあったといわれ、〈高の宮〉とも呼ばれる。高岡御車山祭は春季例大祭	当館
20	射水神社		1	城内本丸にある延喜式内社。もと二上山麓に鎮座。717年、行基が養老寺を建立。〈二上大権現〉と称し、盛大を極めた。中世の戦乱で衰退。神体は男神坐像(重文)。江戸時代は前田家の祈祷所となる。1875年現在地に遷座。下写真は拝殿	当館
21	護国神社		1	城内二の丸。戦争殉難者等をまつた神社。1932年二の丸に創建された忠魂社が前身。39年内務省令により現在名に改称(射水神社の摂社「志貴野神社」とも)。51年の産業博覧会の際に射水神社境内に移り、62年に現在地に再び遷座された	当館
22	瑞龍寺		1	高岡市関本町にある曹洞宗寺院。山号は高岡山。1613年前田利長が建立した法円寺が前身。翌年没した利長の菩提を弔うため、利常が45年に起工(63年竣工)。1909年に仏殿が、28年に総門・法堂が旧国法に指定(50年に重文)。97年に仏殿・法堂・山門が県内唯一の国宝に指定された	当館
23	寿繊維工業(株)高岡工場	1937～41年	1	高岡市鐘紡町。市の誘致により1936年、日本ブルツウエスラー絹糸高岡工場が創業。翌年寿繊維に改称。41年に鐘淵紡績(株)に吸収合併された。翌年、名古屋陸軍造兵廠高岡工場となるが、戦後、鐘淵(のちの鐘紡)高岡工場となった。2007年、クラシエ(株)高岡工場となる	当館
24	高岡市街	1948～54年頃	1	片原町の消防署(1954年移転)の望楼塔より。右は高岡大和店。1937年開業の丸越百貨店が前身(43年に大和になる)。48年開通の富山地方鉄道(のち万葉線)の線路や遠景に立山連峰が見える	当館
25	大和高岡店の店内	1950年代以降	10	大和は高岡商店街の中心。前身は1937年開業の丸越百貨店(本店は金沢)。43年に宮市大丸と合併し、大和高岡店となる	当館
26	大和高岡店の屋上神社	1950年代頃	1	大和は1994年、店舗の隣に新築されたオタヤ開発ビル〈御旅屋セリオ〉へ移転したが、神社もその屋上に移されている	当館
27	高岡市街	1948～54年頃	2	片原町の消防署(1954年移転)の望楼塔より。上は西を望む。右(北側)の通りは1936年拡幅の昭和通り。左の寺は超願寺。下は北を望む。右は旧市役所(1913～60)、遠景に二上山が見える	当館
28	雨晴海岸での海水浴		2	女岩に多くの人がいるのが見える	当館
29	富山県建築士会講演会	1952年以降	1	同会(1952年設立)の講演会。講師は建築家・岸田日出刀(1899～1966。東京帝大教授。東大安田講堂等を設計)、建築工学者・坂静雄(1896～1989。京都帝大教授。鉄筋コンクリート研究)、建築家・中村伝治(1880～1968。メートル法の普及、工業品規格統一に尽力。三越本店、東京株式取引所新市場等を設計)	当館
30	サンフランシスコ講和条約発効を祝う高岡市庁舎	1952年	1	市役所正門に「祝 平和条約発効」の看板と2本の日の丸を掲げる。サンフランシスコ講和条約(対日平和条約)は第二次大戦を終結させるため、日本と連合国との間で結ばれた条約。1951年9月サンフランシスコで、ソ連など3か国を除く連合国48か国と調印。1952年4月28日に発効し、日本は占領から開放された	当館
31	高岡市役所前にて	1952年	1	上の平和条約の写真と一緒の袋に入っていたので、おそらくその撮影時にいた市職員を写したものと思われる	当館
32	サンフランシスコ講和条約発効を祝う大和高岡店	1952年	1	サンフランシスコ講和条約(対日平和条約)発効(1952年4月28日)を祝うアドバルーンを上げる大和高岡店。片原町の消防署望楼塔からの撮影	当館
33	武波家の姉妹	1941年2月	1	自宅内で武波氏の娘2人を撮影している	当館

34	高岡商工祭ポスター	1950年代頃	1	高岡商工祭は市と商工会議所の共催で、商工都市高岡を象徴する重要な秋祭り。なかでも「ミス高岡」のパレードは大いに盛り上がったという	当館
35	高岡市職員の慰労会	1950年代頃	1	寸劇でもしたのであろうか、それぞれ仮装をしている。最前列中央の丸眼鏡の男性は武波氏である。高岡市管轄課の慰労会などの宴会か、またはポスター写真があるので、商工祭の仮装行列の打ち上げの可能性もある	当館
36	ミス高岡博集合写真	1951年	1	二の丸・迎賓館前。高岡産業博覧会(1951年4～5月)に際し、宣伝も兼ねて全県からミス高岡博を募った。地元3紙の新聞投票により2回の選考を勝ち抜いた13名がミス高岡博として、来賓接待や宣伝などに活躍した	当館

3 高岡市の施設

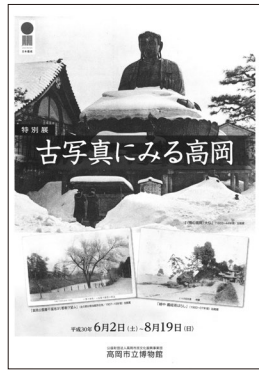
No.	資料名称	年代	点数	備考	所蔵
1	高岡市火葬場完成写真	1948年	2	高岡市四屋に1948年12月7日に完成。日本で最後といわれる寺院を模した木造火葬場。2009年4月、戸出西部金屋に移転した	当館
2	高岡市 高岡母子寮	1953年	1	1953年4月1日、高岡市横田に高岡母子寮が建設された。その関係者の写真であろうか(左から2人目が武波氏)。母子寮とは、戦争で夫や家族、また家を失った母子に対して支援を行う、児童福祉法(1947年)に定められる施設。98年の法改正により、母子生活支援施設に改称	当館
3	建築中の伏木中学校	1947年	1	同年4月1日設立、翌日開校された。92年3月に体育館が、95年9月に校舎が改築された	当館
4	高岡市軍人遺家族授産所	1937～43年	1	戦没者家族への職業訓練所と思われるが、詳細は不明。年代は「九越／写真機部」と印刷されている袋に入っていたことからの推定	当館
5	健康保険高岡市民病院	1951年	2	1951年10月築。当初は向野町三丁目(元ハローワークの場所)に病床50床で建てられた(1966年に現在地の宝町に移転新築)。59年、総合病院。65年、「高岡市民病院」と改称。下写真は開院記念式典	当館
6	庶民住宅	1946～51年	2	戦後、国が建設した応急簡易住宅等のこと。1951年以降は公営(市営)住宅。写真袋に「横田／伏木」とあり、どちらかの写真と思われる	当館
7	建築中の保育所	1945年以降	1	写真袋に「保育所」とだけしか書かれておらず、詳細は不明である	当館
8	建築中の美術館	1950～51年	4	博覧会の美術館パビリオンとして建設され、博覧会終了後の1951年8月に高岡市美術館として開館した。戦後の日本海側初の公立美術館で、全国でも2番目に早い開館であった。武波勝平氏撮影	当館
			1		『高岡産業博覧会誌』(高岡産業博覧会事務局、1952年)
9	美術館完成写真	1951年	1	園内鍛冶丸(現当館常設展示場)。迎賓館(のち公会堂)と並ぶ高岡産業博覧会の恒久施設。会期終了後、市美術館として開館(1994年、現在地の中川1丁目に移転)。鉄筋コンクリート造、一部木造平屋建。設計は木村得三郎(1890～1958。大阪松竹座、京都・先斗町歌舞練場。東京劇場など劇場建築を多く手掛けた)	当館
10	高岡産業博覧会のための木材搬入	1950～51年	2	1951年4～5月の高岡産業博覧会の何らかの建築材を雪の高岡古城公園へ搬入している。	当館
11	「建築を急ぐ迎賓館」	1950年頃	1	1951年「高岡産業博覧会」各種会場として建築。木造3階建て1,500人収容。博覧会終了後は市公会堂となった(左の建物は図書館)。武波勝平氏の撮影と思われる	『高岡産業博覧会誌』(高岡産業博覧会事務局、1952年)
12	迎賓館完成写真	1951～52年	16	園内二の丸。美術館と並ぶ高岡産業博覧会の恒久施設。木造3階建瓦葺。大講堂は1,500人収容。施工は旭日興業(東京)。博覧会終了後は市公会堂として活用された。1963年の豪雪により倒潰(66年、市民会館築)。向って左の建物は市図書館として活用された	当館
13	駐春橋	1950年	2	駐春橋は古城公園二の丸と園外をつなぐ橋。老朽化していたので、1951年11月30日高岡産業博覧会に際して改築された。木造で長さ22.3m、幅5.5m。また太鼓橋(転じて太閤橋)との俗称があるほど勾配が急であったので緩やかに改築され、また両側の道路も拡幅された。1966年、永久橋に改築された	当館
14	中の島「茶房」	1951年	1	高岡産業博覧会に際し、中の島の南端水上(現・緑翠亭)に茶房(茶室)が建てられた。5.85坪で2坪の待合も付属。1951年4月3日竣工。施工は野村政次郎	当館

4 市外の景

No.	資 料 名 称	年 代	点数	備 考	所 蔵
1	砺波町東町商店街	1954年 4～6月	2	砺波町東町(1952年まで出町。現・砺波市本町)商店街。現在の中央町交差点から南西を望む。上の写真左の看板に「富山博 魚津会場」とあり、ここからバスで富山産業大博覧会の魚津会場へ行けるのであろう。また、同博覧会の会期中(1954年4月11日～6月4日)であることもわかる	当館
2	建築中の富山城天守閣	1953年 11～12月	4	1954年4～6月の富山産業大博覧会の恒久施設。年代は鯉がまだ設置されていないことなどからの推察。解説板によると、彦根城や犬山城を参考に設計された鉄筋コンクリート造り。54年11月17日、本県初の市立総合博物館「富山市立郷土博物館」として開館。2003～05年に修復。04年、国登録有形文化財	当館
3	殉職警防団之碑	1941年 1月	1	富山城址公園内に1940年12月に建立された。45年8月の大空襲を奇跡的に免れ現存している。警防団とは1939年、民間の消防や防災・防空のために組織された団体のこと	当館
4	富山市 国際劇場	1950年	1	富山市内の映画館。映画看板は「続・向う三軒両隣 第三話 どんぐり歌合戦」で公開年がわかる。また左下の壁に「喫茶東宝サロン」とある	当館
5	富山県庁舎本館	1941年1月	1	1935年築。設計・大熊喜邦(国会議事堂を設計した大蔵省管轄財政局工務部長)。重厚な外観で富山県戦前期を代表する大規模建築。激しい富山大空襲を奇跡的に免れた。2015年、登録有形文化財	当館
6	富山市 中央通り	1950年	1	総曲輪通り、西町と共に繁華街を形成。1948年に中町・袋町・東四十物町を結ぶ通りを総称して中央通りと呼ぶようになった。中央通りの富山映画会館で上映中の「ブロンディ子守の巻」(1950年公開)の宣伝の着ぐるみが注目を集めている	当館
7	皇居水堀と GHQ	1950年代頃	1	戦後GHQ(連合国軍総司令部)として接收された「第一生命館」(東京有楽町)。1938年築。設計・渡辺仁・松本与作。施工・清水組。DNタワー 21として現存	当館
8	皇居二重橋	1950年代頃	1	二重橋は、実はこの正門石橋のことではなく、この奥にある正門鉄橋のことをいう。江戸時代、木造の二重構造だったことから二重橋の名がついた。武波氏が上京した際に撮影した建築物の写真が何点か残されている	当館
9	帝国ホテル	1945～52年頃	1	皇居の向かいにある帝国ホテル(東京都千代田区内幸町)は1923年築。設計は近代建築の巨匠、フランク・ロイド・ライト(米)。レンガ型枠鉄筋コンクリート造。建物内外は、彫刻された大谷石、透しテラコッタによって様々に装飾されている。中央玄関部は1985年に明治村(愛知県犬山市)に移築された	当館
10	日本勧業銀行本店	1950年代頃	1	日本勧業銀行本店(東京・麹町)は、1929年築。設計・渡辺節、施工・清水組(現・清水建設)。1981年に現在のみずほ銀行本店を新築する際に解体された	当館
11	富国生命ビル	1950年代頃	1	日本勧業銀行本店の向かいにあった富国生命ビル(旧・太平ビル、富国館)。1927年築。設計・吉武建築事務所、施工・戸田組(現・戸田建設)。1977年、新改築のため解体された	当館
12	鳥取県産業観光 米子大博覧会	1950年 4～5月頃	2	鳥取県米子市で開催。戦後米子市の復興に寄与した。上は正門、下は観光館。撮影した高岡市営繕課長の武波氏は翌年に控えた高岡産業博覧会の事務局工営部副部長として、この年に各地の博覧会を視察している。米子、西宮(アメリカ博)のほか、神戸博(日本貿易産業博覧会)の記録写真も残されている	当館
13	アメリカ博覧会	1950年 3～6月頃	2	兵庫県西宮市で開催された、戦後初の本格的博覧会。上は正門(阪急スタジアム)、下は米の議会議事堂のジオラマ。朝日新聞社主催、外務省・国鉄・西宮市等後援。連合軍総司令部(GHQ)の全面的協力によってアメリカの歴史と文明をジオラマ等で紹介された。入場者は約200万人	当館



チラシ・ポスター



パンフレット



展示風景

(4) 企画展「堀田一族と伏木 ～堀田善衛^{よしえ}生誕100年・日本遺産「北前船寄港地」追加認定記念～」

〔会期〕平成30年9月8日(土)～11月25日(日)〔68日間〕

〔会場〕新館第1・3企画展示室

〔趣旨・内容〕

国際的視野を持った芥川賞作家・堀田善衛（1918～98）は、高岡市伏木の廻船問屋「鶴屋^{つるや}」の出身である。本展では堀田善衛の生誕100年の記念、及び伏木が日本遺産に追加認定されたことを記念して、善衛を育んだ伏木と堀田一族（八坂家・稲垣家・野口家）について、歴史資料を中心に紹介した。協力・堀田善衛の会。

〔展示資料〕計175件225点

◆港町「伏木」の歴史

No.	資料名称	年代	点数	備考	所蔵(寄贈者)
1	日本遺産「北前船寄港地」関連紹介パネル		4	平成30年5月24日付で伏木を中心とした高岡の文化財が日本遺産「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間(北前船寄港地・船主集落)」に追加認定された	高岡市HP、文化庁HP
2	パネル「北前船の航路と寄港地」		1	日本各地の北前船航路と寄港地が記載	高岡市伏木北前船資料館
3	金刀比羅社 船絵馬「長永丸」	1926年 (大正15)10月奉納	1	伏木湊町・金刀比羅社に奉納された船絵馬。表面の左隅には「絵馬藤筆」とある。これは江戸後期より栄えた船絵馬業者のことで、大阪北堀江に店を構え、船絵馬のみならず武者絵馬など様々な絵馬に腕をふるったという。額縁の左には「伏木湊町／松本六平」、右には「大正拾五年／拾月十日」とある。裏面には「寄進人／松本与三吉／喜一郎／鶴木平之丞／末子」とある	金刀比羅社
4	矢田神社 船絵馬「永宝丸」		1	矢田神社に奉納された船絵馬「永宝丸」。正和勝之助『越中伏木湊と海商百家』(桂書房、1995年)によると、永宝丸は伏木浦の太田屋与左衛門の持船で、船絵馬の寄進人は、林幸次郎とある	矢田神社
5	古府八幡社 船絵馬	明治期	1	2本のマストをもつ蒸気船を立体的にかたどった船絵馬。左下に墨で「□木□□□／謹製」とある	古府八幡社
6	引札「汽車汽船積取扱所／高岡市源平町／永久組運輸店(ほか)」		1	汽車汽船数48、積荷取扱所5社(永久組運輸店・北陸運輸組合高岡店・海陸保検荷物取扱所・日本運輸株式会社代理店・東京三鱗合資会社代理店)が記載。引札とは、現在の広告チラシのようなもので、年末に取引先などに配られた	高岡市伏木北前船資料館
7	引札「越中国伏木湊中道町柴野平右衛門」		1	「汽船号(10の汽船号名)／諸国旅人御定宿切符荷物周施所／越中国伏木湊中道町／柴野平右衛門」	高岡市伏木北前船資料館
8	「各地米価高低比較表」	1882年(明治15)11月～83年12月	16	東京の洪沢商店(栄一の従兄・喜作が経営)が発行した毎月の米価表。上が正米(現物米取引)相場で東京・大阪等7ヶ所に伏木(越中新米)が含まれる。下が定期(決済)日を定めておく取引。途中の売買可能)米相場	当館 (堀田一善氏)
9	仕切記(繰綿)	1873年(明治6)6月付	1	大坂の三島又三郎が、伏木の3代八坂金兵衛(金平)に、繰綿(種を取っただけの未精製の綿)2種計42本を357円で売却した証文。末尾の「御支配 泉弥平」は大坂堺の商人で、保証人として名を連ねている	当館 (今井昭次氏)

10	売仕切(昆布)	1877年(明治10) 10月9日	1	函館の井村利平が、堀田家持船の徳衆丸の船頭・儀助に、釧路昆布504駄(約13t)を409円14銭7厘で売却した証文	当館 (堀田一善氏)
11	胴鯡送り状	1881年(明治14) 9月14日付	1	堀田善右衛門と高岡袋町・灰屋(平能)五平が古平港(北海道古平町)の歳井旧七、及び徳衆丸儀助(堀田持船船頭)と嘉徳(加得)丸茂平(灰屋持船船頭)に購入させた、胴鯡(食用の身欠鯡を取った後に干した肥料)千束(約7.5t)の納品書。実際の運搬は富山小島町・阿部為義所有の七福丸作之丞が担当している	当館 (堀田一善氏)
12	北海道産物会所用達申付状 (藤井・車屋・鶴屋宛)	1871年(明治3) 8月付	1	開拓使(新潟出張所)北海道産物会所が、いわゆる「御用達」商に命じたもの。宛先は伏木湊の藤井(能登屋)三右衛門(能三)、車屋(八坂)金兵衛、鶴屋(堀田)善右衛門の3名。この3家が当時の伏木を代表する廻船問屋であり、これまで多くの北海道の産物を商っていたことがうかがえる	当館 (今井昭次氏)
13	「船主祈願書」	1876～82年 (明治9～15)	1	堀田家の縁戚・八坂家(車屋)に伝来する文書。高岡市西田の国泰寺(現臨済宗国泰寺派本山)の勧進(航海安全・商売繁盛祈願)に応じた北前船主たちの連名簿。明治9・11～15年の6期にわたり、船名46艘と船主名が列記されており、情報の少ないこの時代の貴重な史料である	当館 (今井昭次氏)
14	表「船主祈願書連名」(複写)		1	上記史料内容を正和氏が表化。明治9年をみると、八坂金平は最多の7艘、堀田善右衛門は平能五兵衛と共に4艘の2位タイである	正和勝之助著 『越中伏木湊と海商百家』(桂書房、1995年) p300表を一部改変
15	船中名号	江戸末～明治前期	6	八坂家資料。船中での本尊。八坂家が所有する北前船5艘の各船名(国栄丸・住恵丸・璣力丸・貴宝丸・大祥丸)が記され、中央・右には六字名号「南無阿弥陀仏」(祐天大僧正)の刷物が貼られている。祐天(1637～1718)は徳川綱吉・家宣らの帰依を受け、1711年増上寺36世・大僧正となった。六字名号を書いて頒布し、奈良・鎌倉の大仏を修補し、多くの廃寺を復興した。生き仏として熱狂的に崇拝されていた	当館 (今井昭次氏)
16	『伏木港』	1939年(昭和14)	1	伏木町役場発行。町の概要から港の詳細なデータ、伏木町全図や町の各種スポットの写真などが一枚に収められている	当館
17	『伏木港平面図』	1939年(昭和11)	1	製図:内務省伏木港修築事務所、発行・印刷:小間義雄。川の深さや碇泊地が黒い船舶の記号で描かれ、臨港工業地帯を背後にした伏木港が小矢部川の「河口港」であった状況がよくわかる	当館
18	「昭和十年主要貨物比較図表」	1939年(昭和11)	1	『伏木港』(昭和11年版、伏木町役場発行)より	当館 (堀田光子氏)
19	「昭和十年伏木港之内国貿易」	1939年(昭和11)	1		当館 (堀田光子氏)
20	「昭和十年伏木港之外国貿易」	1939年(昭和11)	1		当館 (堀田光子氏)
21	引札「旅館／越中伏木停車場真向 岩坂権三郎」		2	「北海道／直江津 各港行／日本郵船会社 各汽船会社／汽船乗客切符并ニ荷物取扱所／旅館／越中伏木停車場真向／岩坂権三郎」	高岡市伏木北前船資料館
22	引札「船荷取扱／越中国伏木湊 辻久左衛門」	1882年(明治15) 11月11日	1	1883年(明治16)の暦付。82年の年末に取引先に配った	高岡市伏木北前船資料館
23	引札「旅館／越中国伏木中道町 上田佐右衛門」		1	「直江津新潟酒田土崎函館／小樽樺太其他各港行／日本郵船会社并ニ諸会社乗客切符／其他貨物取扱所／旅館／越中国伏木中道町／上田佐右衛門」	高岡市伏木北前船資料館
24	引札「伏木中道町 紺谷與右衛門」(複写)		1	「八百屋物／あらもの／砂糖類四十物類／酒蠟燭品々／御茶／并漬物類」「伏木中道町 紺谷與右衛門」	原本:高岡市伏木北前船資料館
25	引札「熊谷旅館 伏木停車場前 あさひ館／米穀肥料仲買・委託販売問屋 熊谷支店回漕部」(複写)		1	「日本郵船会社 北海道行／諸会社汽船 直江津行／来客切符并ニ荷物取扱所／熊谷旅館 伏木停車場前 あさひ館／米穀肥料仲買・委託販売問屋 熊谷支店回漕部」	当館
26	引札「越中伏木港中道町 定塚三右衛門」(複写)		1	「日本郵船会社汽船乗客切符周施所／諸国／廻船問屋／旅人御宿／回漕業／越中伏木港中道町中程／定塚三右衛門／汽船帆前和船扱所」	原本:高岡市伏木北前船資料館
			1	「諸商廻船問屋／日本郵船会社／蒸汽船周旋屋／御定宿／定塚三右衛門」。寄港地が記載	原本:高岡市伏木北前船資料館

27	引札「越中国伏木港中道町 柴野平右衛門」(複写)		1	「汽船／帆船／和船／切符／周旋所／御休宿所／越中国伏木港中道町／でんしんきよく／まえのはしづめ／柴野平右衛門」	原本:高岡市伏木北前船資料館
	引札「越中国伏木湊中道町 柴野平右衛門」(複写)		1	「汽船／帆船／和船／切符／并ニ／荷物取扱所」御休泊所／越中国伏木湊中道町／でんしんきよく／まえのはしづめ／柴野平右衛門」。各地の地名、汽車案内などが記載	原本:高岡市伏木北前船資料館
28	正米・胴鯨等積荷商品相場表(伏木中道町・柴野平右衛門)(複写)		1	正米、胴鯨、石油松、黒砂糖、筵等の相場が記載	原本:高岡市伏木北前船資料館
29	引札「越中伏木本町 中嶋万四郎」(複写)	1898年(明治31)	1	「酒醸造所 越中伏木本町 中嶋万四郎」。1899年の暦付	原本:高岡市伏木北前船資料館
30	引札「越中伏木停車場真向 岩坂権三郎」(複写)		1	「北海道／直江津／各港行／日本郵船会社 各汽船会社／汽船乗客切符并ニ荷物取扱所／旅館／越中伏木停車場真向／岩坂権三郎」	原本:高岡市伏木北前船資料館
31	引札「越中伏木湊 栗田吉左衛門」(複写)		1	「海陸回漕店 越中伏木湊 栗田吉左衛門」	当館
32	引札「越中伏木港 丸田庄吉」(複写)		1	「船問屋并ニ荷物取扱 越中伏木港 丸田庄吉」	当館
33	引札「伏木港海岸通り 定塚三右衛門・同回漕部」(複写)		1	「各汽船会社専属荷客取扱店 漁夫人夫募集依頼ニ応ズ／伏木港海岸通り 上三館 定塚三右衛門・同回漕部」。小包の改正料金表が記載	当館
34	引札「伏木港字港町川キワ 井上才忠」(複写)		1	「日本同盟大旅館／内外各港行来客荷物取扱店／北海道／カラフト／浦塩斯徳／開墾移住民／漁業人夫坑夫周旋所／富山県伏木港字港町川キワ／井上才忠／ステーション真向／日本郵船株式会社フゾク旅館」	原本:高岡市伏木北前船資料館
35	『中越商工便覧』掲載 伏木の商店(複写)	明治21～22年(1888～89)	4	伏木にある29の商店が掲載	高岡市古書古文庫シリーズ第六集『中越商工便覧(高岡市関係)』(発行・高岡市立中央図書館)
36	和磁石		2	逆針と本針。和(船)磁石は、十二支を目盛った指針型で、本針(十二支を子から時計回りに目盛ったもの)と、方位が船の進行方向を指す逆針(本針とは逆回りに十二支を目盛ったもの)の2種類があり、通常は両方が船に備えられていた	当館(本針)、高岡市立伏木小学校
37	遠眼鏡		1	航海の際に使用した望遠鏡。	当館
38	羅針盤		1	磁石の針が南北を示すことを利用して船の進む進路や方角を測るためのもの。木枠の中に入れて常に水平を保つようになっている	向榮一郎氏
39	八角時計(船時計)	明治期	1	(アメリカ)セス・トーマス社製。日本には1873年(明治6)以降に輸入された。揺れる船の中でも、また机の上でも壁にねじれて付けても動くところから、船時計ともよばれた	当館
40	北前船模型(複製)		1	船模型は、船を新造するときに造船所から船主に贈られるものだという	高岡市伏木北前船資料館
41	船額「海龍」		1	堀田家所有の船「海龍丸」の船額と考えられる。堀田家には他に「栄寿」、「積善」の2枚の船額がある	当館(堀田一善氏)
42	海上安全護符	1867年(慶応3)	1	「護摩札」ともいい、航海の無事を祈願した木札	当館(堀田一善氏)
43	写真「幸生銅山 御用銅轆」(複写)	江戸末期	1	幸生銅山(現・山形県寒河江市)から銅を運ぶ際に、加賀藩から命を受けた鶴屋(堀田家)善右衛門の船が掲げたものという	『高岡市史』中巻(1963年)より／原資料:堀田家蔵
44	船往来手形	1870年(明治3)	1	金沢藩が発行し、堀田家(鶴屋)の船が各地の港に入るときに用いた通船許可証。高岡町奉行所から村肝煎へ交付され、船主へと渡された。左側面に「射水郡伏木村 鶴屋善右衛門名代」とある	当館(堀田一善氏)
45	風説書(後欠)	江戸時代末期	1	八坂家(車屋)伝来。元治元年(1864)8月の四国連合艦隊下関砲撃事件について書かれている。長府藩(長州藩の支藩)より「地雷火伏せ」攻撃があったので、異人達に多く損害があり、即死400人ばかり、怪我人の数は知れない。長州側の即死・怪我人は少々などある。しかし、実際の連合艦隊側の死者は12人、負傷者56人である。この史料は後半部が欠損しており、年代・差出・宛先などが不明だが、一部にはこのような情報が流布していた可能性がある	当館(今井昭次氏)

46	本多政質銀子借用証文 (鶴屋善右衛門宛)	享保元年(1716) 7月12日付	1	加賀藩士の最高位「八家」(年寄)の本多家(5万石) 4代・政質の鶴屋(堀田)善右衛門より銀4貫目(約4～500万円)の借用証文。政質は、正徳5年(1715) 12月に安房守に任じられたが、故あって翌年2月に君命により周防守に改めた。その御礼行列の金沢出発、及び江戸入りの豪華さが評判となった(『享保年間記』)。そのため出費がかさんだと思われる。堀田家文書最古の史料	当館 (堀田一善氏)
----	-------------------------	----------------------	---	--	---------------

◆堀田善衛の伏木原像

◇伏木の町と風景

No.	資料名称	年代	点数	備考	所蔵 (寄贈者)
47	伏木地区の居宅絵図(複写)	明治期	1	明治期における伏木地区の商店、廻船問屋等が記載された居宅絵図	正和勝之助著『越中伏木湊と海商百家』(桂書房、1995年)付属図(部分)に加筆
48	大日本職業別明細図のうち「富山県」(高岡市及び周辺地図)	1925年(大正14)	1	高岡市街・伏木・氷見・新湊周辺の商業施設地図。伏木湊町に「堀田」と記載がある	当館
49	絵葉書「(越中伏木)伏木橋附近の工業地其三」(複写)	1918～32年 (大正7～昭和7)頃	1	伏木橋付近に立地する工場が写された写真絵葉書。伏木築港の完成は、港の豊富な水力と安い電源により、数々の伏木臨港工業地帯が形成されていく契機となった	当館
50	絵葉書「伏木港全景 埠頭ヨリ眺タル伏木港」(複写)	大正期	1	港内に大きく帆を広げた北前船と蒸気船が行き来する風景を写した写真絵葉書。北村書店発行	当館

◇堀田家小史

No.	資料名称	年代	点数	備考	所蔵 (寄贈者)
51	写真「伏木神社」(複写)		1	伏木東一宮(1883年神明宮より伏木神社と改称)。伏木港の繁栄により、北前船主らが海上安全を祈って鳥居や灯籠、玉垣などを奉納した	当館
52	写真「伏木神社灯籠に刻まれた寄進者名」(複写)	1819年(文政2) 9月寄進	1	伏木神社の灯籠(1対)に寄進者17名が刻まれる。鶴屋(堀田)善右衛門、車屋(八坂)半兵衛の名が見える。石工は赤間関の小倉清八	当館
53	写真「堀田家菩提寺 孝徳山西念寺」(複写)		1	西念寺は、氷見の南大町にある浄土宗寺院。堀田家の菩提寺。後醍醐天皇の皇子宗良親王ゆかりの創建伝説もある	丸山圭一氏
54	写真「孝徳山西念寺 堀田家の墓」(複写)		2	右は堀田本家、左は分家の墓。本家の墓は、「中興の墓」とされ、大正6年12月、堀田善右衛門(7代)によって建立。分家の墓は、分家の祖・堀田善九郎によって大正7年5月に「累代墓」として建立された。氷見の大火のあと、寺域を貫いて町道が通り、墓域が狭い	丸山圭一氏

◇堀田家の土地と建物

No.	資料名称	年代	点数	備考	所蔵 (寄贈者)
55	「越中国資産較」(複写)	1890年(明治23)	1	越中国(富山県)内における資産家番付表。左列の射水・砺波郡の最上段に「堀田善右衛門」、中央部の「行司」には「八坂金平」の名がある	個人
56	『中越商工便覧』(初版)	1888年(明治21)	1	富山県内の各種商店170店の外観が銅版画により描かれている冊子。商家の表構えとともに、屋号、家印、営業種目や由緒、宣伝文など多くの情報が記載されている。「堀田善右衛門商店」もみられる	当館
57	写真「堀田善右衛門君 米穀肥料商店」(複写)	1910年(明治43)	1	1889年、堀田家は河港近くの伏木湊町に事務所兼倉庫として「堀田善右衛門商店」を開設した。1919年(大正8)には合名会社となった	『富山県官民肖像録』(有終社、1910年)
58	「伏木本町地引絵図」(部分、複写)		1	伏木本町の宅地、地番などが記されたもの。本資料中の本町37・38・39番地には堀田家旧邸があったといわれる	当館
59	「伏木湊町地引絵図」(部分、複写)		1	伏木湊町の宅地、地番などが記されたもの。本資料中の港町30番地には、堀田善右衛門事務所があったといわれる	当館
60	絵葉書「伏木等の諸商標」(複写)		1	伏木地域の商店や問屋などの商標を1枚の絵葉書にまとめたもの。中央には伏木港の写真も入っている	丸山圭一氏
61	写真「丘の上の『新しい家』」(複写)		1	堀田家は、大正末年に伏木郊外の丘の上(一ノ宮高台)に家を建てて引っ越した	丸山圭一氏
62	写真「堀田楽器運動具店」(複写)	1926～34年 (大正15～昭和9)頃	1	1907(明治40)年に創業した伏木・堀田店の金沢支店。主に学校、官庁、軍隊や工場を相手に文具、楽器、運動具などを販売した。当主は堀田呉吉(1870～1934。のちの8代善右衛門)である。1926(大正15)年には合資会社となり、「堀田楽器運動具店」となる	『旧制四高青春譜』(第四高等学校同窓会編、1986年)

◇広告と美術品売立目録

No.	資 料 名 称	年 代	点数	備 考	所 蔵 (寄贈者)
63	引札「諸廻船問屋 越中伏木港 堀田善右衛門」	1886年(明治19)	1	廻船問屋・堀田善右衛門の引札(明治20年の暦付)。取引先に配り、翌年に掲示してもらうことを目的とするため、暦がついている	当館 (堀田一善氏)
64	引札「廻船問屋・回漕店 越中伏木港 麦谷十平」	1888年(明治21)	1	伏木港で、廻船問屋・回漕店を営む麦谷十平の引札(明治22年の暦付)	高岡市伏木 北前船資料館
65	写真「堀田善右衛門商店広告」(複写)	1915年(大正4) 1916年(大正5)	2	発行・伏木商工会。「廻船問屋倉庫業」、「廻船問屋倉庫業・代弁業」とそれぞれ記載がある	『大正四年伏木統計表』(伏木商工会、1915年)、『大正五年伏木統計表』(同会、1916年)
66	写真「合名会社堀田善右衛門商店広告」(複写)	1920年(大正9)	1	発行・伏木商工会	『大正九年伏木統計表』(伏木商工会、1920年)
67	『越中伏木港堀田氏藏品入札勢利目録』	1920年(大正9) 4月	1	堀田家の所蔵品売立目録(写真付)。入札(勢利＝競り)は、同年4月5日に金沢・下近江町にある金沢美術倶楽部で行われた	富山県立伏木 高等学校

◇父野口勝文とその仕事

No.	資 料 名 称	年 代	点数	備 考	所 蔵 (寄贈者)
68	写真「堀田勝文」(慶応大学卒業アルバム)(複写)	1910年(明治43) 3月	1	堀田勝文(1885～1952)は、幕末期、吉久で加賀藩御蔵番役人を務めた野口家の出身。父・野口忠五郎と母・おしの三男。魚津中学を経て、慶応義塾大学の理財科を1907年(明治40)に卒業後、1911年くにの婿になった	原本・慶応義塾 福沢研究センター
69	写真「堀田勝文」(複写)	1952年(昭和27)頃	1	善衛が芥川賞を受賞した際に撮影された家族写真より	高岡 野口家
70	棟方志功書簡(堀田勝文宛)	1950～51年 (昭和25～26)頃	1	当時福光に疎開していた世界的板画家・棟方志功(1903～75)が堀田善衛の父・勝文に宛てた作品鑑賞への礼状。福光出身の日本画家・石崎光瑤(1884～1947)のことを「和善息子先生」としており、伏木に回漕店を出していた実業家・石崎和善と志功、及び堀田家とのつながりもうかがえる。また、善衛の自伝的小説『若き日の詩人たちの肖像』(1968年)には、光瑤が堀田家に長期滞在して、母くにの絵の先生をしていたことや、善衛も習わせられたが、下手で呆れられてしまった逸話がみられる	当館 (堀田一善氏)
71	写真「石油基地前の埋め立て地」(複写)	1948～53 (昭和23～28)年	1	望楼を備えた堀田家が写っていることが今回初めて確認された写真。写真の右端中央に見えるのが、伏木本町38番地で、かつての堀田家邸宅があった場所	『保存版ふるさと高岡』(郷土出版社、2009年)
72	伏木埋立土地株式会社株券	1928年(昭和13) 7月1日付	8	堀田善衛の父・勝文の同社の各種株券8枚、計345株6900円分。勝文は伏木外港(湊町～岩崎の43ha)の埋め立てを構想し、1924年に同志と共に起工を申請し、2年後に認可された。1928年8年、同社は正式に設立された(資本金50万円)。しかし、工事は激浪に何度も阻まれ難航。1935年(昭和10)、予定の2割しか埋め立てられず、施工業者の飛鳥組(現飛鳥建設)にその権利を売却し、同社は解散した	当館 (堀田一善氏)
73	伏木埋立土地株式会社関係資料	1929～30年 (昭和4～5)	4	「混凝土方塊製作数報告」(昭和4年、伏木埋立(株)出張所より同社宛)、「伏木港埋立護岸工事工程御届」(同年、飛鳥組より伏木埋立(株)伏木出張所宛)、「護岸根固用捨石搬出終了届」(同5年、伏木埋立土地(株)より知事宛)、「請求書」(同年、三協組(代表者・八阪金平)より伏木埋立土地(株)宛)	当館 (堀田一善氏)
74	伏木埋立甲種護岸変更設計図	1931年(昭和6)頃	1	1929年5月に着工されたが、激浪に流され変更に次ぐ変更をせざるを得なかった。これはコンクリートブロックを用いた防波堤の断面図。しかしこの防波堤も、1933年12月7日の高波で流された。激浪を和らげる流線形の防波堤に改造された(防波堤の通称が「流線形」となった)。そして1935年7月によりやく新しい防波堤が完成した	当館 (堀田一善氏)
75	「伏木外港埋立計画図」(複写)	昭和初期	1	伏木外港の埋立計画図	『伏木港史』(伏木港史編さん委員会、1973年)
76	埋立工事実施施行変更願	1931年(昭和6)	1	「伏木埋立変更第一期工事実施設計書」のうち。埋立工事は1929年5月に着工されたが、激浪に流され、わずか2ヶ月後に第一期工事予定範囲を半分にするなど、その後も変更に次ぐ変更をせざるを得なかった	当館 (堀田一善氏)

77	写真「石油タンクの並ぶ風景」(複写)		1	「銀の壁」が立ちをはだかって丘の上からも海が見えなくなったという母くのにの嘆きを表す風景。埋立に邁進した勝文の海と格闘したあの努力は何だったのかという思いがこもっているようだ	丸山圭一氏
78	正力松太郎書簡(堀田勝文宛)	1923年(大正12) 4月14日付	1	実業家・政治家の正力松太郎(1885～1969)から勝文宛。当時、警視庁官房主事であった正力が、勝文からの浦田政則という人物の採用依頼に対する回答文である。射水市(旧大門町)出身の正力は、善衛の伯父・淳吉の東大・警視庁の後輩であり、警視庁に勤めた従兄・務の先輩にあたる。正力が1934年(昭和9)日本最初のプロ球団大日本東京野球倶楽部(現・読売巨人軍)を創設した際、務を引き抜き運営を任せ、務は日米野球の実現、野球連盟創設、天覧試合の実現に奔走するなど、生涯プロ野球の振興・発展に尽力した	当館 (堀田一善氏)

◇母くにとその仕事

No.	資料名称	年代	点数	備考	所蔵 (寄贈者)
79	写真「堀田く」(石川県立高等女学校時)(複写)	1901～04年 (明治34～37)頃	1	お嬢さん育ちで、マッチャ一本すったことのなかった彼女もここで実際の判断力を養い、人から頼られる存在となった	北國新聞編集局編『済美に集う一石川県立金沢第一高女の光陰一』(北國出版社、1981)
80	写真「荷役作業に従事する女仲仕たち」(複写)	1935年(昭和10)頃	1	伏木の港で荷役作業に従事する「女仲仕」たちの様子。大正期頃、伏木の港では低賃金で女性たちが石炭や米、肥料などを背負い、倉庫から船へと荷積み作業に従事し、港に動力整備が導入されはじめる昭和初期頃まで続けられた	高岡市
81	写真「土を積み大八車を引く婦女会員ら」	1975年(昭和50)	1	伏木保育園前庭のくのにの胸像横に設置されたレリーフのブロンズ(永原廣作)。1933年(昭和8)、園舎新設のための地盛作業に従事した婦女会員らの様子を表す。託児所開設50周年記念に伏木保育園母の会が寄贈した	当館
82	写真「堀田く」(胸像)	1981年(昭和56)	1	伏木保育園前庭に設置されているくのにの胸像。辻志郎作	当館
83	写真「晩年の堀田く」(複写)		1	くには1981年(昭和56)まで伏木保育園の園長を務めた。「子どもは親の子と同時に『社会の子』」と考えていたくには、保育事業・母子福祉に生涯をささげた。享年97	高岡 野口家蔵
84	写真「念仏堂の託児所」(複写)	1926年(大正15)	1	高岡市伏木東一宮にある念仏堂境内に託児所が開所した際に撮影された記念写真。1923(大正12)年、くには働く母親たちのため、堀田家ゆかりの尼寺・念仏堂に間借りして、子どもを無料で預かり始めた	原本:高岡市
85	写真「現在の伏木保育園」	2018年(平成30)	1	1933年(昭和8)、これまでの念仏堂から現在地(高岡市伏木本町)に移転し、保健師を常駐させるなど健康相談所としても多くの人々に利用された。1958年(昭和33)には「社会福祉法人伏木保育園」と改称	当館
86	伏木町託児所案内(複写)	1926年(大正15)	1	伏木町婦人会により、伏木東一宮の念仏寺境内に設けられた託児所の利用を呼びかける案内チラシ。同年、遊戯室を建て、県内初の施設託児所である「伏木町託児所」を開き、初代所長になった	原本:伏木保育園
87	伏木託児所の葉	1942年(昭和17)	1	伏木託児所の沿革、目的、託児要領などが記載	当館
88	堀田くに著『堀田家の昔話』	1965年(昭和40) 8月27日	1	今回の新発見・初公開となる資料。この前年に、くには勲五等宝冠章を受章した。おそらくそれを機に、何か家の歴史や自分の生涯を振り返る文章を依頼されたのであろうか、その原稿かとも思われる。11ページには善衛が北海道礼文島の宿で堀田家の「こよみ」(引札)が貼ってあるのを見たと言った話も書かれている	当館 (堀田一善氏)
89	正力松太郎書簡(堀田くに宛)	1957年(昭和32) 10月4日付	1	実業家・政治家の正力松太郎(1885～1969)からくに宛(代筆)。前立腺肥大により東大病院に入院した正力に対し、善衛の母・くにが送った見舞状に対する礼状	当館 (堀田一善氏)
90	岩倉規夫書簡(堀田くに宛)	1964年(昭和39) 12月15日付	1	くにの勲五等宝冠章受章を祝う書簡。岩倉(1913～89)は官吏。東京生まれ。小学校から旧制高校卒業まで高岡市で過ごす。内閣書記官、賞勲部長、総務府総務副長官、国立公文書館初代館長などを歴任。富山の歴史・文化などに関心を寄せ、幻の書『越の下草』翻刻・刊行に尽くした	当館 (堀田一善氏)
91	写真「第六代堀田善右衛門」(複写)		1	善衛の曾祖父で、名は八郎平(1826～1905)。八坂家次男として生まれるが、堀田家に養子として入り、堀田の家業を継ぎ、中興の祖と言われるまでになった	正和勝之助著『越中伏木湊と海商百家』(桂書房、1995年)

92	写真「第七代堀田善右衛門」(複写)	1909年(明治42)	1	善衛の祖父。名は善五郎(1846～1924)。活動的な人で家業の拡張だけでなく、伏木の行政にも積極的に関わった	原本:高岡市伏木気象資料館
93	写真「伏木測候所新庁舎完成記念式典」(複写)	1909年(明治42)	1	伏木測候所新庁舎完成記念式典で撮影された集合写真。写真最前列の左から4人目が第7代堀田善右衛門(善五郎)、その右隣が伏木の近代化に貢献した藤井能三。伏木測候所は、1909年(明治42)に伏木町臥浦字享田(現伏木中央町)から伏木町古国府字東館(現高岡市伏木古国府)に移転建築された	原本:高岡市伏木気象資料館
94	写真「伏木銀行」		1	創業1896年(明治29)。6代堀田善右衛門(八郎平)が音頭を取って伏木中道に創設。初代頭取でもあった(取締役は4代八坂金平)。1910年(明治43)、建物は伏木湊町に移転・新築された。高岡市で数少ない和洋折衷スタイルの銀行建築で、現在は高岡商工会議所伏木支所になっている	個人
95	米、鯀相場等に付書簡	年未詳11月13日付	1	堀田善五郎(のち7代善右衛門)から父の6代善右衛門(八郎平)と3代八坂金平(八郎平兄)宛。おそらく大阪にいる善五郎が米や鯀の相場を伝え売買の報告や判断を仰いでいる。堀田家と八坂家が商売上も強いつながりを持っていることを示す。また冒頭に暗号のような片仮名文がある。そして、端裏に堀田家の船標もある	当館 (堀田一善氏)

◆堀田家の親族群

◇親族・八坂家

No.	資料名称	年代	点数	備考	所蔵 (寄贈者)
96	写真「三代八坂金平」(複写)		1	伏木の船卸商。高岡米商会所頭取。俳号喜宣、宗和流の茶人でもあった。生年未詳。1894年(明治27)8月18日没	『富山県官民肖像録』(有終社、1910年)
97	写真「八坂金平氏米穀肥料商店」(複写)	1910年(明治43)	1		『富山県官民肖像録』(有終社、1911年)
98	東北鉄道会社募資依頼状(八坂(坂)金平宛)	1881年(明治14)10月26日付	1	幻の「東北鉄道」計画を示す資料。加賀前田家15代の利嗣が3代八坂金平に宛てた寄付願状。敦賀から富山・新潟方面への路線が計画された、「東北鉄道会社」(京都よりみて東北の意)は、北陸の旧藩主や東西の本願寺門主らが出願し、北陸の人々に寄付を募った。しかし、政府は福井－三国－金沢－伏木間を認可するも、難工事が予想される、敦賀－福井間を不認可とした。そのため福井方面の発起人が脱退し、明治17年に挫折した	当館 (今井昭次氏)
99	宗和流茶礼風炉台子免状	1890年(明治23)10月付	1	金沢の茶道「宗和流」10代・九里歩一蓬(1820～92)より八坂金助(祐)宛。堀田6代善右衛門の二男・金助(1848～1929)は、1862年、3代八坂金平の養子となり、1895年に同家4代金平を襲名する。八坂家文書には宗和流の文書類が多く含まれている	当館 (今井昭次氏)
100	第四代八坂金平編 俳諧連歌撰集『奈呉の浦風』	1895年(明治28)	1	第4代金平は、堀田家7代善右衛門の弟。跋文によれば、一年前に亡くなった先代金平の法事に加え、茶菓と詩歌をもってする盛大な追悼の集まりが催され、これはその折の俳諧連歌の記録である。八坂・堀田両家総動員と推定されるが、残念ながら全員が俳号のため特定できない。発句の喜宜居士は先代の故金平だが、それを受けた松堂が4代金平であることは間違いなからう	高岡市立中央図書館
101	『伏木港八坂金平氏所蔵品売立目録』	1930年(昭和5)	1	高岡片原町の超願寺で行われた八坂家の所蔵品売立目録	当館

◇親族・稲垣家

No.	資料名称	年代	点数	備考	所蔵 (寄贈者)
102	写真「稲垣示」(複写)		1	稲垣 示(1849～1902)は現・射水市出身の自由党系の政治家	櫻木成一著『自由民権先覚者稲垣示物語』(1978年)
103	写真「稲垣示銅像」(複写)		1	1915年(大正4)、園内小竹藪に造立(供出され現存せず)。原型・中野双山(高岡大仏の作者)。鑄造・山岸栄次郎。台座は暫く残った	高岡 野口家
104	記事「稲垣 示氏の創傷」(複写)	1897年(明治30)4月30日付	1	示は1897年4月25日、東京神田にて林田友則(熊本県出身の壮士)に切り付けられ、頭部5ヶ所を負傷した。すぐ神保町の神保病院に入院した(5月11日退院)	『北陸政論』
105	稲垣示宛稲垣篤書簡	[1897年(明治30)]4月27日付	1	稲垣 示が東京で襲われた記事を見て驚いた息子の篤からの見舞状。直ぐに電報で問い合わせると軽傷とのことであつたが、頭部なので、「保養専一」にと伝えていた。封筒の裏には「於伏木」とあるように、当時篤は母の実家・堀田家の持ち家に住まいしていた	当館

106	【参考】稲垣示宛稲垣篤書簡封筒	[1897年(明治30)] 4月27・31日付	2	左封筒(27日付)の裏にはスタンプで「越中国伏木港／堀田商店回漕方」とあり、右封筒(31日付)には、「(墨書)伏木港／(朱印)堀田善九郎(墨書)方」とあるように、当時篤は母の実家・堀田家の分家、善九郎(6代善右衛門息子)が営んでいた堀田商店回漕方に住まいしていたことがわかる	当館
107	仙波兵庫宛稲垣示書簡	1897年(明治30) 5月11日付	1	1897年4月25日、稲垣 示は東京で襲われ、神保医院に入院した。頭部に五か所の傷を負ったが、5月11日に退院した。これは入院中の見舞いお礼と本日退院したことを知らせる葉書である。宛先の仙波兵庫(宛所不明で返送)は現在の茨城県桜川市出身。1884年の加波山事件で逮捕された過激な自由党系政治家	当館
108	記事「稲垣示君の逝去」(複写)	1902年(明治35) 8月10日付	1	稲垣 示の逝去を大々的に報じた記事。遺族と同じ文字の大きさで、堀田・八坂の本分家の名がある	『北陸政論』
109	写真「稲垣八重」(複写)		1	稲垣八重(1852～1919)は、示の妻で、6代堀田善右衛門の長女	高岡 野口家
110	記事 稲垣八重の手記(複写)	1887年(明治20) 9月30日付	1		『大阪日報』
111	写真「稲垣良之助」(複写)		1	稲垣良之助(1868～1917)は、示の弟。父・又平と、母・もとの三男として生れた	高岡 野口家
112	写真「稲垣良之助とその家族」(複写)		1	写真向かって左より、稲垣示の妻・八重(1852～1919)、示の弟・良之助(1868～1917)、示の母・もと(1831～1918)、良之助の妻・るい、良之助の長女・田鶴子	高岡 野口家
113	記事「稲垣篤氏の送別会」(複写)	1899年(明治32) 11月7日付	1	稲垣篤(1877～1933)は示の長男。東京外国語学校ロシア語科で学んだ後、ロシア・樺太島へ渡航するにあたり開かれた送別会について報じた記事	『北陸政論』

◇親族・野口家

No.	資料名称	年代	点数	備考	所蔵 (寄贈者)
114	写真「野口忠五郎」(複写)		1	忠五郎(1840～1920)は能町小学校で校長(1891～96)をし、その前にも後にも伏木小学校の訓導として長年教えた	高岡 野口家
115	写真「野口忠五郎・ゐし夫妻」(複写)		1	広島に住む忠五郎の甥・野口遵(1873～1944)のもとの撮られた写真	高岡 野口家
116	写真「野口三兄弟」(複写)	明治後期	1	写真左より長男・詮太郎、三男・勝文(中央)、次男・淳吉	高岡 野口家
117	写真「軍医監・野口詮太郎」(複写)		1	野口詮太郎(1870～1934)は、忠五郎長男。陸軍幼年学校を出て、第四高等学校医学部を卒業1917年(大正6)には軍医監になり、翌々年予備役。西宮回生病院の経営に関わった	高岡 野口家
118	写真「野口淳吉」(複写)		1	野口淳吉(1880～1919)は、忠五郎二男。1906年(明治39)東京帝大(現・東京大)法学部卒業。警視庁警務部長を務めた。1917年(大正6)10月に分家した	高岡 野口家
119	記事「野口局長逝く」(複写)	1919年(大正8) 9月6日付	1	野口淳吉は、朝鮮総督府警務局長に任命され、東海道線で任地に向う列車内でチフスを発病。途中下車し、兄・詮太郎の病院に入院するが、1919年9月5日死去(享年40)。温厚な人柄や不慮の死をむかえた家族の状況などが紙面から伝わってくる。部下だった正力松太郎が淳吉の子・務と清の手を引いてかけつけた	『高岡新報』
120	写真「野口務」(複写)	1930年代 (昭和5～14年)頃	1	淳吉の長男・務(1907～93)は二つの顔を持っている。一つは、プロ野球巨人軍の礎を築いた人として、いま一つは左翼社会運動の記録者として。前者は、何冊かの著書で知られているが、後者はその全体像の研究がなお待たれている。若き日の早い社会意識の目覚めは、幼年期から青年期にかけての善衛に強い影響を与えた。善衛の11歳上である。『若き日の詩人たちの肖像』の『従兄』はこの人がモデルだが、身近な人だけに虚実交々といったところか。佐野真一『巨怪伝』(正力松太郎伝)にこの人のインタビューがある	高岡 野口家
121	写真 四高ビラ「全学生諸君に檄す」(複写)	1926年(大正15) 4月	1	この時期、務は四高社会科学研究会のリーダーだった。彼はのちに手帳と確かな記憶に基いて少なからぬ回想の文を残したが、かつて彼自身が書いたと推定しうる文はあまりない	原本:石川県立歴史博物館
122	写真「野口家・堀田家の子どもたち」(複写)	大正末期	1	善衛不在が惜しいが、野口家と堀田家の子どもたちが揃った写真。後列右から善朗と善二、市川定興(善衛の父・勝文妹かおるの子)、前列左から信子と清である。くにが「三男一女」と呼んだように、野口家から預かった信子を自分の娘として育て、学校へやり、嫁に出した	高岡 野口家

123	写真「高岡中学校野球部時代の野口清」(複写)	昭和初期	1	善衛と同年で学校でも同期であり家も近く、おそらく一番親しい遊び友達だった。清は野球に熱中した。善衛が金沢の二中で野球部マネージャーをしたことがあるのもその影響かもしれない。『一本の道はるかにて』正・続は、幼少年時代の思い出、先祖探究、高岡市役所での仕事などを描く	野口清『一本の道 はるかにて』(1983年)
124	写真「堀田善衛とともに埋立地を見る」(複写)	1966年(昭和41)頃	2	『週刊朝日』のルポ「ふるさとを行く④高岡篇」(1966年3月発行)を取材するため来高の折、伏木海岸で清といっしょに撮ったものと推定される	高岡 野口家

◇堀田善衛

No.	資料名称	年代	点数	備考	所蔵(寄贈者)
125	写真「堀田善衛」(複写)	1952年(昭和27)頃	1	芥川賞受賞時に撮影された家族写真より	高岡 野口家
126	写真「伏木小学校校舎と藤井能三像」	1922～43年 (大正11～昭和18)頃	1	本写真の銅像(荒井秀山作)は、1922年(大正11)に伏木小学校50周年記念に造立されたが、1943年(昭和18)に戦争のため供出(台座は南砺市出身の建築家・吉田鉄郎)。現在の銅像(米治一作)は、1952年(昭和27)同校の80周年記念に造立された	高岡市
127	写真「伏木小学校1学年学級」(複写)		1	善衛のいここにあたる野口清が1年生の頃の学級写真	高岡 野口家
128	堀田善衛 作文(複写)	昭和初期	1	伏木小学校では作文に力を入れていた。さまざまな題を与えて書かせた。母くには、善衛が新聞の社説などを読む変わった子だったと言っていたが、善衛が幼い頭を絞ったのも、新聞の社説が材料だったのだろうか。ここには早い社会的関心と平和の希求が示されており、それが家業の営みにもつながっている	『伏木の文化(別冊)』(高岡市立伏木小学校、1956年)
129	「ちいさい頃の生活地図－大正6、7年」(複写)	1917～18年 (大正6～7)	1	伏木小学校周辺の様子が描かれた生活地図。善衛の級友・山口義夫が後に学校から請われて描いたもの。山口は小学生の頃から絵が得意だったという。参考資料その他でしばしば利用されている	『伏木の文化(別冊)』(高岡市立伏木小学校、1956年)
130	写真「伏木小学校6学年卒業」(複写)		1	野口清が6年生の頃の卒業写真	高岡 野口家
131	『昭和四年度版 みんなの学校』	1930年(昭和5)	1	伏木小学校が発行する卒業成績文集。毎年度末に刊行され、卒業児童全員が作文・書・絵などを掲載し、それをもって卒業成績を代表させた。善衛卒業の年度のものには残念ながら現存しておらず、本資料はその前年度に発行されたもの	高岡市立伏木小学校
132	写真 伏木小学校「卒業生台帳」(部分、複写)	1931年(昭和6)	1	同校に保管されている卒業台帳の一部。堀田善衛の成績順位「三」と記載がある。母くには、善衛のことを尋ねに來た人に学籍簿(通信簿)を広げ、「操行(素行)」はいま一つだが、成績はいつも二番で、とくに国語と歴史が優れていたのを見せていたという	原本:高岡市立伏木小学校
133	田河水泡『漫画の缶詰』(復刻版)	1969年(昭和44)	1	漫画「のらくろ」の作者・田河水泡(本名:高見澤伸太郎。1899～1989)のそれに先立つ漫画歴を総括した一冊。初版は1930年(昭和5)、善衛が小学5年生の頃で、いまなお斬新である。善衛は出たばかりのこの本を求めて、親に内緒で伏木から高岡への遠い道のり(片道約8km)を往復したという	丸山圭一氏
134	堀田善衛葉書(山口義夫宛)	1931年(昭和6) 6月13日付	1	今回が初公開となる貴重な資料。伏木小学校時代の同級生・山口義夫に宛てた善衛自筆の葉書。末尾に「Zene」とサインをしている。後年善衛に宛てて、改めて自己紹介しながら、長い間大事にしてきた、金沢の二中生になったばかりの善衛のはがきのコピーを送った	個人
135	善興寺 芳名帳(「山峡に ざわめきありて 鮎の宿 蜩声ひびき 故里に近し」)	1959年(昭和34)頃	1	堀田善衛が、中国文学者・随筆家の奥野信太郎(1899～1968)とともに、高岡市中田の善興寺を訪れた際に書き留めたもの。来富の目的、善興寺訪問の目的、ともに不明であるが、慶応大卒の二人は三田文学の集まりなどで親しかったという。奥野信太郎が上の句を、善衛が下の句を書いてつなぐのは、連歌の原形形態のごとくで面白い	善興寺
136	堀田善衛自筆色紙		1	「正確なるもの 美しきもの 天体のごとし」。堀田善衛からいここ・越野信子氏に贈られたもの。野口清氏を通じて伏木中学の堀田善衛記念館である海風会館に提供され、展示されている	高岡市立伏木中学校保管
137	堀田善衛書簡(正和勝之助宛)(複写)	1995年(平成7)以降	4	伏木出身で郷土史家の正和勝之助(1921～2012)から著書『越中伏木湊と海商百家』を贈られた善衛は、鶴屋を含む情熱をこめた調査渉猟に感動する。それは自分が経験したり、伝え聞いたりしたことを改めて思い起こさせ、エッセイ「鶴屋善右衛門」を書いた。二人の間に電話や手紙のやりとりが生まれた	高岡市立伏木中学校保管

138	写真 堀田善衛自筆扁額「風はどこから吹いてくる－伏木中学校の歌」(複写)	1967年(昭和42)	1	1967年の伏木中学校創立20周年を機に校歌の作詞を依頼された善衛が、校歌ではなく中学生へのメッセージ“伏木中学校の歌”としてつくった詩(詞)。作曲は、團伊玖磨	原本:高岡市立伏木中学校
139	写真「伏木中学校の歌 CD歌詞カード」		1	同校が作製した「伏木中学校の歌」のCDに付属している歌詞カード	原本:高岡市立伏木中学校
140	写真 石碑「伏木中学校の歌(堀田くに直筆)」		1	同校中庭にある、善衛の母・堀田くにが書いた「伏木中学校の歌」の石碑の写真	高岡市立伏木中学校
141	詩「渇の風景」(複写)	1947年(昭和22)初出	1	『個性』(1947年5月号)初出。上海から帰国し、東京での仕事探しに出かける前に、故郷に滞在。伏木海岸で書いたと推定される。戦後第一作。上海経験で古い自己が震撼され、人間として文学者としての脱皮の願望が表現されている	『堀田善衛詩集－1942-1966－』(集英社、1999年)／丸山珪一氏
142	短篇「夜来香」	1951年(昭和26)	2	初出誌は『文学界』(1951年2月号)。『搜索』(未来社、1952年)にも収録。「夜来香」は花に寄せる、李香蘭の上海でヒットした恋の歌。小説に行き悩む新人作家の主人公は、花の香がきっかけとなって、内に生命力を感じるようになる。伏木が舞台である	『文学界』(文芸春秋新社、1951年)、『搜索』(未来社、1952年)／丸山珪一氏
143	「鶴のいた庭」	1956年(昭和31)	2	現在私たちが手にする短篇「鶴のいた庭」の初出は『香港にて』(1960)である。同題の作品が先んじて『世界』(1957年1月号)に掲載されているが、これは長篇小説として意図された、その冒頭部分であり、末尾に「未完」とあるのはそのためである。逗子の自宅が火事になり、長篇続行のための資料も焼失し、その断念から短篇が生れた	『香港にて』(新潮社、1960年)、『世界』(岩波書店、1957年)／丸山珪一氏
144	短篇「黄塵」	1960年(昭和35)	1	黄塵は中国大陸から吹き寄せる黄砂のこと。先祖の「鶴屋善右衛門」が寄進した石垣や燈籠を讃岐の金刀比羅宮にさがす様子が描かれる一方、少年時の回想のなかに故郷の港町の風景も書き込まれている。先祖さがしの中で自らの歴史的な位置をさぐる作品	『聲』(1960年夏号)／個人
145	詩「高岡大仏寺の写真に寄す」(複写)		1	じっと座り続ける仏の像に、せかせかしている自分のなかの異なる時間を感じて安らぐ。幼き日の仏間、木魚を叩く祖母の横に座って見上げていた仏が詩人の心のなかで重なっているのであろう	『堀田善衛詩集－1942-1966－』(集英社、1999年)／丸山珪一氏
146	写真 詩「高岡の大仏に寄す」(複写)	1960年(昭和35)	1	初出の「週刊文春」(1960年6月13日号)に掲載されたこの詩を見た大仏寺の関係者が母くにと親しく、くにから善衛に頼み書いてもらった	原本:大仏寺
147	写真「高岡大仏」(複写)	2007年(平成19)以降	1		高岡市
148	エッセイ「先祖幻想」(複写)	1964年(昭和39)	1	先祖代々の霊魂が乗り移っていたものか、大型のモーターボートで日本の海岸をあちこちしながら、原稿生活を送ろうと夢見ていたが、石原慎太郎に危険だからやめなさいと、二べもなく宣告された話	『アサヒグラフ』(朝日新聞社、1964年)／丸山珪一氏
149	「北前船主西村屋の人びと」	1965年(昭和40)	1	初出不詳。『歴史と運命』(1966)に収める。書評だが、当主によって実録が残されることの重要性を説き、「私もまた死ぬまでに、裏日本百年間の物狂いを小説に書いたみたい」と結んでいる	『西村通男著「海商三代－北前船主西村屋の人びと－」(1965年)／丸山珪一氏
150	『週刊朝日』連載ルポ「ふるさとを行く⑪」の「高岡」(複写)	1966年(昭和41)	1	「ダム建設が消した? 蜷気楼」。『週刊朝日』のルポを書くために富山へやって来た善衛は、黒部のファスナー工場、漢方薬の池田屋、伏木の埋立地などを見る。久しぶりに家族や友人たちとも会う	『週刊朝日』(1966年)／丸山珪一氏
151	『若き日の詩人たちの肖像』	1966年(昭和41)	2	河出書房新社『文芸』1966年1月号～1968年5月号に連載。1968年9月新潮社刊。主人公の青年の戦時体制下東京での文学的思索と交友を回想する自伝的長篇小説。1930年代後半の東京を主たる舞台とし二人の兄や従兄、伯母などが主人公の周辺に登場する。没落期の生家の事業も書き込まれ、帰省時の故郷や金沢も描かれる。文末の素晴らしい二行詩は、単行本刊行に際して削除された。なぜであろうか	『文芸』(新潮社、1968年)／丸山珪一氏、単行本／当館
152	堀田善衛サイン	1966年(昭和41)	1	『若き日の詩人たちの肖像』に記される。上森子鉄宛。上森(1901～89)はキネマ旬報社長、日本競馬新聞協会会長	個人
153	連載「若き日の詩人たちの肖像」	1968年(昭和43)5月号	1	連載の最終回	『文芸』(1968年)／丸山珪一氏
154	エッセイ「北の海」(複写)	1970年(昭和45)	1	少年時代の自分を形成した、あの荒涼とした秋から冬にかけての伏木の鈍色の海への思い。父の埋立て事業のこの荒れ狂う海との無残な戦い。そこに今や「化物石油タンク」が立ち並ぶ	『ワイドカラー日本・北陸』(世界文化社、1970年)／丸山珪一氏
155	『新潮日本文学47 第35回配本 堀田善衛集』(複写)	1971年(昭和46)7月	1	堀田善衛特集記事が掲載	丸山珪一氏
156	「堀田勝文と小泉信三」	1972年(昭和47)	1	新潮社のPR誌「波」に連載された「私の中の日本人」の一篇を書くに当って、善衛は父を経済学者・小泉信三(1888～1966)との対比のもとに選んだ。古いリベラリズムの克服が彼のテーマだったが、父への愛着が感じられる	『私の中の日本人』(新潮社、1977年)より／丸山珪一氏

157	プレイボーイインタビュー 「なぜゴヤか？」	1977年(昭和52) 6月号	1	善衛は自分や家族のことについてあまり作品に書かなかったから、対談者やインタビュー者は、仕事の動機や背景を知るためにも、顔を合わせるとまずそこから聞こうとするようだ。冒頭の数ページは北前船や堀田家の「芸術的雰囲気」に当てられている	『プレイボーイ(日本版)』 (1977年)／丸山圭一氏
158	エッセイ「奇妙な一族の記録」	1980年(昭和55)	1	『文芸春秋』1956年6月号に初出。『彼岸繚乱』(筑摩書房、1980年)に収録。「奇妙な一族」とは父の出た野口家のことだが、話はほとんど父のことである。善衛は家族のことをあまり書かなかったが、父についてはその割には書いている。距離感覚がよかったのだろう	『彼岸繚乱』(筑摩書房、1980年)／丸山圭一氏
159	エッセイ「二葉亭四迷氏と堀田善右衛門氏」(複写)	1989年(平成元)	1	二葉亭四迷の住所録に堀田善右衛門の名が出ていると教えられ、その謎を解こうとするのだが、解けない。別のところに堀田家ゆかりの稲垣篤の名も何度か出て来て、想像をたくましくする	『ちくま』(1989年)／個人
160	エッセイ「鶴屋善右衛門」(複写)	1995年(平成7)	1	伏木生まれの歴史家・正和勝之助氏から贈られた『越中伏木湊と海商百家』(桂書房、1995年)に触発され廻船問屋鶴屋への想いをつづる	『ちくま』(1995年)／個人

◆『広場の孤独』による芥川賞受賞とその反響

No.	資料名称	年代	点数	備考	所蔵 (寄贈者)
161	堀田善衛 芥川賞受賞記念家族写真	1952年(昭和27)	1	堀田善衛が昭和26年度下半期(第26回)芥川賞を受賞した際に東京で撮影された家族写真。善衛は朝鮮戦争下で苦悩する知識人の姿を描いた『広場の孤独』『漢奴』等で1952年1月21日芥川賞を受賞した	高岡 野口家
162	『中央公論・文芸特集』	1951年(昭和26) 9月号	1	「広場の孤独」の連載	丸山圭一氏
163	『広場の孤独』(初版)	1951年(昭和26)	1	発行・中央公論社	丸山圭一氏
164	『広場の孤独』	1953年(昭和28)	1	発行・新潮社	個人
165	『広場の孤独 祖国喪失』	1953年(昭和28)	1	発行・筑摩書房	丸山圭一氏
166	「広場の孤独」台本(故小沢栄太郎所有)	1953年(昭和28)	1	俳優・故小沢栄太郎(1909～88)が所有していた台本	丸山圭一氏
167	映画チラシ「広場の孤独」	1953年(昭和28)	1	同年9月15日に公開	丸山圭一氏
168	『広場の孤独』(豪華限定版)	1980年(昭和55)	1	発行・成瀬書房。善衛の署名・印章付	富山県立伏木高等学校
169	グラフ対談「文学賞はもらったが・・・」 (複写)	1952年(昭和27) 2月20日号	1	作家・田宮虎彦と堀田善衛の対談記事	『毎日グラフ』 (毎日新聞社、1952年)／丸山圭一氏
170	『近代文学』	1952年(昭和27) 5月号	1	発行・近代文学社。「広場の孤独と共通の広場」と題して、堀田善衛芥川賞受賞祝賀会について記載されている	丸山圭一氏
171	本誌掲載写真「遠藤周作よりの祝いの葉書」	2011年(平成23) 春季号	1	芥川賞受賞に際し、小説家・遠藤周作(1923～1996)から善衛に宛てた葉書が掲載。本誌には1949年5月から1963年12月までに、両者の間でやり取りされた未発表の書簡・葉書の特集記事が組まれている	『三田文学(No.105)』(2011年)／丸山圭一氏
172	「『広場の孤独』と女性群像」	1953年(昭和28) 8月	1	インタビュー記事の掲載	『家庭の手帖』 (自由国民社、1953年)／丸山圭一氏
173	『映画評論』	1953年(昭和28) 7月号	1	発行・映画出版社	丸山圭一氏
174	『シナリオ文庫16集 広場の孤独』		1	発行・映画タイムス社。俳優座・新東宝提携作品	丸山圭一氏
175	『近代映画』	1953年(昭和28) 10月号	1	「太陽とスタアと監督と」。映画「広場の孤独」の京都ロケ報告	丸山圭一氏

※資料保存のため、一部展示替えをすることがあります。



チラシ・ポスター



展示風景

(5) 館蔵品展「昔の道具とくらし」

〔会期〕平成31年2月2日(土)～3月31日(日)〔50日間〕

〔会場〕新館第1・3企画展示室

〔趣旨・内容〕

本展では、当館が収蔵する衣・食・住をはじめとした古い生活道具類「民具」に焦点をあて、それぞれの民具がもつ歴史や用途に加え、その時代を生きた人々の暮らしぶりについて展示・紹介した。

〔展示資料〕計136件157点

No.	資料名称	年代	点数	寸法 (縦×横,cm)	備考	所蔵 (寄贈者名)
1	菅笠		1	径52.0× 高12.5	主に雨具や日よけに使われた。高岡市福岡地域では、古くから菅が栽培され、その菅で笠が生産されてきた。平成21年(2009)には「越中福岡の菅笠製作技術」として、国の無形民俗文化財に指定された	当館 (神保成伍氏)
2	カンカン帽	大正中～ 昭和初期	1	径20.6× 高9.6	麦藁帽子。麦藁をプレスして、糊やニスなどで塗り固めているため、軽くて丈夫である	当館 (富田保夫氏)
3	写真「着物姿でカンカン帽を被る男性」(複写)	昭和初年頃	1	—	日本では男性の夏のフォーマルな帽子として広まった。叩くとカンカンと音がするからカンカン帽ともいわれる	【昭】
4	モジリ(巻袖)		1	身丈83.0× 裾60.0	女性用の仕事上着。袖口が細いため、仕事やしやすく、重ね着もできる	当館 (吉田元太郎氏)
5	袖無し		1	身丈63.0× 裾39.0	袖がない腰丈ほどの短い上着。農作業時や、少し寒い時に作業衣や着物の上に着た。「ドーゲン」ともよばれる	当館 (藤田よしえ氏)
6	もんぺ		1	丈80.0× 腰回94.0	女性の農作業用の野良着。戦時中からの女性の日常着だった	当館 (国奥定治氏)
7	写真「盥と洗濯板で揉み洗い」(複写)	昭和30年代以前	1	—	盥に水を入れ洗濯物を浸けて、しゃがんで洗濯板を使って、石鹸をこすりつけながら揉み洗いする	【昭】
8	写真「庭に盥を出して水遊び」(複写)	昭和47年(1972)	1	—	盥の中で水遊びをする子ども	【昭】
9	盥		1	径60.0× 高22.5	洗濯用の盥。夏は盥でスイカやビールを冷やすのにも使われた	当館
10	洗濯板		1	幅55.0× 奥行55.0× 厚1.6	洗濯盥に湯や水を入れて、洗濯板を立て掛け、衣類を板の凹凸の溝にこすり合わせて汚れを落とす。女性の大切な嫁入道具の一つでもあった	当館 (谷道俊雄氏)
11	洗張板		1	幅189.6× 奥行40.6× 厚1.7	着物などを洗濯する際には、着物をほどいて布の状態に戻して洗う。洗い終わった布は糊付けをし、濡れているうちに洗い張りの板に張りつけて乾かす	当館 (日尾清作氏)
12	写真「洗張板で布を乾かす」(複写)	昭和51年(1976)	1	—	シフにならないように乾かすことができる	【昭】
13	「着物の丸洗いの図」(複写)		1	—	着物を丸洗いする場合の手順を示したもの	【い】
14	竹皮草履		2	幅12.0× 奥行22.5	一足。竹の皮を編んだ底の部分に鼻緒が付けられた草履。底が半分ほどの長さしかない「足半草履」もある	当館 (富田保夫氏)
15	草鞋		2	幅22.0× 奥行13.0	一足。主に稲藁で編んだ、長時間の歩行に適した履物。足首に藁紐を巻き付けて固定する	当館
16	藁長靴		2	幅10.9× 奥行25.0× 高34.0	一足。雪の中で履く藁製の長靴。底が草鞋になっていて、取り外しできる。爪先部分が割れており、履いてから縄で縛るため、隙間から雪が入らないようになっている	当館
17	ゲートル(巻脚絆)		2	—	足の脛を保護するためのもの。ラシャ(厚く密な毛織物)製の細い带状布を巻き付ける巻脚絆。軍隊でも使用された	当館 (本房繁治氏)
18	男物用下駄		2	幅10.7× 奥行23.0× 高10.0	一足。雨天や雪道の歩行に履いた。差歯は減ったら差し替えた	当館 (西田弘氏)
19	子供用下駄		2	幅8.2× 奥行16.8× 高8.8	一足。2本歯の子供用差歯下駄	当館 (本郷与一郎氏)
20	女物用雪下駄		2	幅9.6× 奥行22.4× 高11.1	一足。歯の部分に鋲が取り付けられ、雪の中でも滑らない工夫がされている	当館 (横山宏平氏)

21	笹笥(ソウケ)		1	幅52.0× 奥行45.0× 高21.0	北陸や西南日本での笥の地域名。野菜を洗ったり、研いだ米の水を切る。食材などを干すのにも使う	当館 (田中為雄氏)
22	写真「囲炉裏端の風景」(複写)		1	—	場所・氷見市内。食事時は囲炉裏のまわりにそれぞれ箱御膳を並べて食事をしたり、来客をもてなす接客の場にもなった	【水】
23	写真「レンガ造りの竈で料理」(複写)	昭和32年(1957)	1	—	竈には羽釜が2つ、真ん中には鉄鍋がのっている。写真奥にはヤカンやブリキ製のバケツが置いている	【台】
24	「囲炉裏の図」(複写)		1	—	自在鉤で吊るされた鉄瓶や囲炉裏端の様子が示された図	【イ】
25	写真「囲炉裏に置かれた竈にかけられた羽釜」(複写)	昭和34年(1959年)頃	1	—	手前には自在鉤に鉄瓶が下げられ、竈の焚口の前には火箸がある。写真奥の薪を燃やしている	【台】
26	鉄鍋		1	径32.4× 高17.4	囲炉裏や竈に掛けて、汁物や煮物などを煮炊きした。大鍋)では大量の里芋やさつま芋などを煮たという	当館
27	鉄製羽釜		1	径43.0× 高33.0	ご飯を炊く釜。竈にかけるための鐙を羽根に例えて羽釜という	当館 (筏井晴夫氏)
28	アルミ製羽釜		1	径41.0× 高33.5		
29	蒸籠		4	—	鍋や釜の上にのせて、もち米・団子・赤飯などを蒸す道具	当館 (金刺亀太郎氏)
30	陶製釜	昭和14～20年 (1939～45)頃	1	径21.8× 高15.0	戦時中の金属代用品。戦時中の「金属供出令」により、家の中にある金属製品を全て差出し、代わりに木や陶器の代用品を使うことを強制された。釜のほか、湯たんばや枕などいろいろな代用品があった	当館 (五嶋孝一氏)
31	しゃもじ立て		1	径6.3× 高59.7	しゃもじ立ては、竹の節を用いて筒を連ねたように作ったもの。台所の脇に掛けておいて、しゃもじ・はんがいがい・箸などを挿しておくのに使われた	当館 (徳田三郎氏)
32	ナショナル 電気炊飯器		1	径26.7× 高26.5	ナショナル(現・パナソニック(株))製の電気炊飯器。タイムスイッチ付きで、一升炊き。日本(世界)初の電気炊飯器は、昭和30年の東芝製	当館 (日尾清作氏)
33	保温ジャー「象印トップジャー」	昭和40年(1965) 発売	1	幅29.0× 高30.5	真空の二重ガラスに覆われた内部に、炊きあがったご飯を入れて保温するもの。電気がなくても保温・保冷できる「魔法瓶」の一つ	当館 (富田保夫氏)
34	写真「改善される台所」(複写)	昭和30年(1955)	1	—	場所・山形県酒田市。タイル張りの竈、新型の手押しポンプなどがある	【台】
35	飯盒	昭和15年(1940)	1	幅20.3× 高14.5	炊飯器を兼ねた弁当箱。当初は軍隊で使われた。中蓋(掛子)はおかずを入れるもの。または中蓋1杯の米に外蓋1杯の水で丁度良い水加減となる	当館
36	写真「箱膳で食事をする家族」(複写)	昭和32年(1957)頃	1	—	各々が箱膳で食事をする風景	【台】
37	箱膳		1	幅31.0× 奥行31.0× 高17.0	一人用のご膳。箱の中に茶碗・箸・皿などを入れておき、食事の時に蓋をあおむけて上に茶碗を並べてご飯を食べる。食事後は中へ食器をしまっておく	当館
38	写真「ちゃぶ台を囲む食卓の図」(複写)		1	—	数人が囲んで食事をする御膳。昭和戦前から普及し始めたが、多くの農家では戦後まで箱膳が使われていたという	【イ】
39	酒樽		1	径34.0× 高20.9	酒を入れておいた道具。上げ底で漆が塗ってあるので、祝い事に使われたものと思われる	当館
40	片口		1	径25.0× 高15.5	油や酒、醤油など液体のものを入れ、他へ移すのに使用。片側に注ぎ口をもつ。木製や陶磁器製のものもある	当館
41	通い徳利(通町・富田醤油店)	明治末～昭和初期	1	幅14.5× 高26.0	酒屋や醤油店が貸し出す徳利。客はこれを店に持っていく、必要なだけの量の酒や醤油を購入した。代金はつけ(後)払いで、お盆と年末にまとめて支払った。貸徳利、貧乏徳利ともよばれる	当館
42	電気コンロ	昭和中期	1	幅27.2× 奥行19.7× 高7.8	戦後、七輪や練炭火鉢とともに使われた。電熱器ともいう。東京芝浦電気株式会社(現・東芝)製	当館 (神保成伍氏)
43	アルマイト製弁当箱	昭和前期	2	—	アルマイトはアルミニウムの表面に酸化被膜を作り、錆びにくく強度を高めた加工。これまでの竹の皮や柳行李に代わる弁当箱として、昭和初期頃より普及し始めた	当館 (邑本順亮氏)
44	めんば	昭和50年(1975)	1	幅29.5× 奥行21.5× 高10.5	エゾ松を材料に作られた曲物の弁当箱。「飯輪」から「めんば」とよばれるようになったという	当館

45	鯉節削り		1	幅27.2× 奥行13.0× 高9.7	鯉節を削る道具。引き出しのついた箱の上に鉋の刃が付いている。削った鯉節は下の引き出しに入る	当館 (筏井晴夫氏)
46	蒟蒻突き		1	幅40.0× 奥行10.0× 高5.9	筒の中に蒟蒻を入れて、突き棒で押し出すことにより、金属製の網目から蒟蒻が細長く切断されて出てくる仕組み	当館
47	写真「井戸から水を汲み上げる」(複写)	昭和32年(1957)頃	1	—	滑車に縄を通して、釣瓶桶で水を汲み上げる	【台】
48	釣瓶桶		2	—	縄や竹竿の先に取り付けて井戸の水を汲みあげる桶。滑車に吊るして使われる。杉板を並べて鉄の籠で押さえてある	当館 (石田喜平氏)
49	自在手燭		1	幅19.8× 奥行10.1× 高13.2	蠟燭を立てて持ち運ぶ移動用の燭台。垂直に立てて鴨居・長押などに引っ掛ける「掛燭」にもなる	当館
50	差込蠟燭立		1	幅7.8× 奥行12.7× 高37.6	板に釘がついており、柱などに突き刺して使う蠟燭立。「火之要心」とある	当館 (神保成伍氏)
51	有明行灯		1	幅26.0× 奥行26.0× 高35.0	部屋の照明道具。持ち運びができる。油の入った皿に、綿糸などで作った灯芯を入れて点火した。夜明けまで常夜灯として使用されたので、「有明行灯」と呼ばれた	当館 (斉藤尚司氏)
52	家提灯	昭和期	1	径44.6× 高75.0	中に蠟燭を入れて明かりをとる道具。日の丸の紋が入っていることから、祭りや行事などに使われたものと思われる	当館 (米森米太郎氏)
53	強盗(ガンドウ)		1	径27.5× 幅42.5	一方向を照らすための手持ち用の灯火具。「強盗提灯」の略。現在の懐中電灯に相当する。中に蠟燭を立てて使用する	当館
54	角灯		1	幅9.2× 奥行9.2× 高20.5	室内用照明器具。持ち歩くこともできる。家の中の移動や近所へ出かける時にも使用。電灯が普及したあとも、停電時や懐中電灯が普及するまで使われた	当館 (泉治夫氏)
55	カーバイドランプ	大正～昭和前期	1	径14.0× 高28.3	カーバイド(炭化カルシウム)に水を加えると発生するアセチレンガスを燃料として使用するランプ。火力が強く、燃料の持ち運びにも便利であった	当館 (徳田三郎氏)
56	練炭コンロ	昭和後期	1	径23.4× 高25.6	練炭を中に入れて使用する。風で消えることなく長時間燃えるため、野外での煮炊きや暖をとる際に用いる	当館
57	練炭		1	径12.0× 高11.0	炭粉、石炭粉などに接着剤を練り混ぜて固めた固形燃料。円筒形で、よく燃えるようにするために、縦に数個の空気穴が開けられている	当館
58	写真「家の前で写る母と子」(複写)	昭和20年(1945)頃	1	—	自転車を持ち、もんぺ姿の母親と子どもが写る。背後には、軒下に木と竹で枠を組み、蕨状の藁で覆った雪囲いがある	【高】
59	火鉢		1	径44.6× 高29.2	灰を入れて炭火をおこし、手足を温めたり、湯を沸かししたりする暖房具。石油ストーブが登場して以降、衰退していった	当館 (菊田明美氏)
60	陶製湯たんぽ		1	幅26.2× 奥行14.2× 高16.5	中にお湯を入れて、手足や体を温めるための道具。やけどしないように布に巻いて、布団の中に入れた	当館 (江渕安太郎氏)
61	ブリキ製湯たんぽ	大正～昭和初期	1	幅32.0× 奥行24.0× 高9.0	身体を温めるために湯を入れて寝床で使う道具。湯が冷めないように、注水口をできるだけ小さく作り、栓をして使う	当館 (織田睦夫氏)
62	コクヨヒーター(足温器)	昭和20年代	1	幅24.4× 奥行18.7× 高13.1	足を温める道具。木枠中に入っている電熱線に電気が通って発熱する仕組み	当館 (神保成伍氏)
63	写真「置炬燵の図」(複写)		1	—	炬燵槽とよばれる木枠の中心に、行火または掘り炬燵を置き、上から炬燵布団をかけて使われた	【イ】
64	炬燵槽		1	幅50.5× 奥行50.5× 高37.5	中に炭火を入れた行火などをおき、布団の中で足を温めた	当館 (金刺亀太郎氏)
65	ねこごたつ(行火)		1	幅・奥行・ 高各25.0	中に炭火を入れて手足を温める道具。これを覆うように槽をのせ、その上に布団をかぶせて暖をとった	当館 (江渕安太郎氏)
66	火のし		1	径11.7× 長37.7×高5.4	中に炭火を入れて、その熱で布などのシワをのばすための道具	当館 (吉野作治氏)
67	ナショナル スーパーアイロン	昭和2年(1927)発売	1	幅17.5× 奥行14.6× 高11.9	松下電器製作所(現・パナソニック株)が発売した電気アイロン。電気アイロンは、明治33年(1900)頃に登場し、各家庭に普及し始めたのは大正6年(1917)頃であるとされる	当館

68	蠅取り器		1	径17.8× 高14.3	中に水などを入れ、容器の下に紙を敷いて飯粒や砂糖を置くと、下部から蠅が入り水に落ちる仕組み	当館
69	陶枕		1	幅21.2× 奥行11.2× 高10.4	陶磁製の枕。中が空洞になっていて小石が入れてあり、動くとカラカラ音がする。この枕をすると血圧が下がるなどといわれ、近年まで健康枕として使われてきた	当館 (米澤暢晃氏)
70	箱枕		2	—	寝る時に使った道具。江戸時代に鬻を崩さないよう首をのせていたが、明治期以降もしばらく使用された	当館 (泉治夫氏)
71	シンガー 足踏みミシン	[製造年]昭和45年 (1970)以降	1	幅117.0 高100.0× 奥行41.0	シンガー(1851年創業)はアメリカのミシンメーカー。足元のペダルを踏むとベルトやハンドルが回り、針が動く。使わないときは、ミシン本体を台の天板の中にしまうことができる	当館(高岡市立 中央公民館)
72	写真「嫁入り道中」(複写)		1	—	場所・埼玉県所沢市。角隠しを被る花嫁の姿	【い】
73	角隠し		2	幅16.5× 長112.0	婚礼の際に、花嫁が結った高島田の鬻を飾る布	当館 (神保成伍氏)
74	写真「昔の嫁入り」(複写)		1	—	笠と杖を持ち、脚絆に足袋、草鞋姿の人により、嫁ぎ先へ持参するたんす・長持などの嫁入道具が運ばれた	高岡市
75	写真「射水神社の結婚式」(複写)	昭和42年(1967)	1	—	写真左奥には、花婿・花嫁と仲人夫妻がみえる。高岡古城公園本丸にある射水神社では、現在でも多くの結婚式、披露宴が行われている	【高】
76	水合わせの竹筒		1	径6.2× 高23.4	婚礼の「水合わせの儀」に使われた。竹筒の中に実家(育った家)の水を入れ、嫁ぎ先の玄関まで持って行き、その水を土製の盃(カワラケ)に入れ、それを娘が飲み干し、玄関先で盃を割る	当館 (金戸嵩氏)
77	重台・重布団・重箱		3	—	婚礼の後、近所や親戚への挨拶回りに行くときに使われる。赤飯や餅、饅頭などを重箱に入れ、その上から豪華な刺繍や家紋の入った重掛けを掛ける	当館 (江瀬安太郎氏)
78	重掛け		1	73.4×70.2		当館 (手崎純子氏)
79	祝い鬘斗		2	—	祝い事に使われた鬘斗	当館 (木津鉄太郎氏)
80	友禅染幔幕に桜文花嫁暖簾		1	185.0× 128.5	婚礼に際して花嫁が持参し、嫁入りの日に広間や部屋の入口に掛けた暖簾。三巾・四巾などのものがある	当館
81	表打蒔絵高下駄(女物)	昭和前期	2	幅22.5× 奥行9.2 ×高11.2	一足。桐の台にカシ・ホオ・ブナ材の歯を差し込んだ差歯の高い下駄で、主として雨天の歩行時に爪革をつけて履く。竹皮や籐表つきの高下駄は、足袋を履いて余所行に用いた	当館 (手崎純子氏)
82	写真「つぶらに入る子ども」(複写)		1	—	場所・氷見市内。昭和20年代頃まで使われたという	【氷】
83	つぶら(嬰兒籠)		1	径69.5× 高36.6	赤子の中に入れて、その周りに古着や毛布などを入れ、固定することができる。子どもが少し大きくなり動けるようになると、帯を掛けて抜け出せないようにもした	当館
84	写真「百日の祝い」(複写)	昭和39年(1964)	1	—	「一つ身」(乳児用の着物)を着た赤ちゃんの「百日の祝い」の様子。子どもの生後100日行われる儀式で、一汁三菜の「祝い膳」が用意される。「お食い初め」ともいわれる	【高】
85	写真「天神様の前で」(複写)	昭和42年(1967)	1	—	高岡では、昔から長男が生まれると母親の実家から天神画像が贈られ、毎年12月25日～1月25日まで飾られる。子どもの無病息災・学業上達を祈る	【高】
86	ホーロー看板「ヤンマーオフセット式石油発動機販売所」	昭和中期	1	36.4×54.4	ホーロー看板は主に屋外用の表示として、珐瑯仕上げで制作された鉄製看板。ヤンマーオフセット式石油発動機は、大正14年(1925)に製造・販売が開始され、昭和12年(1937)に製造が中止された	当館 (中山武史氏)
87	鋤簾(ジョレン)		1	幅27.5× 奥行37.8	土砂などを掻き寄せる道具。田起こしや穴掘り、アサリやシジミなどの貝類を採集するための掻き出しなど、様々な使い方をした	当館(中田地域 生涯学習推進協 議会)
88	株切り	昭和10～20年代 (1935～55)	2	—	春先の田起こしに先立ち、前年の稲株を切り割る鎌のこと。当初は長い柄の付いた「株かけ鎌」が使われたが、後に両足に履く「株切り」に変化した	当館 (中山武史氏)
89	背板		1	幅47.0× 奥行77.0	荷物を担ぐために背負う運搬道具。稲や薪など、量の多い物を運ぶのに便利	当館 (堺喜十郎氏)
90	荷棒(背板用)		1	長71.5	疲れたときなど、荷物を背負ったまま荷棒を背板の下において支えて休息することができる	

91	写真「背板で麦束を運ぶ」(複写)	昭和59年(1984)	1	—	場所・埼玉県横瀬町	【い】
92	写真「背板で荷物を運ぶ」(複写)		1	—	場所・氷見市内。「ショイコ」ともよばれる	【氷】
93	写真絵葉書「背板で馬肥を運ぶ女性たち」(複写)	昭和8～19年 (1933～44)頃発行	1	—	馬肥とは、家畜の糞尿や敷き藁などを腐らせて作る肥料のこと。庄川(富山県西部)の近辺の農村にて	当館
94	藤箕		1	幅58.0× 奥行50.5× 高12.0	穀物を選別したり、運搬したりするための農具。板製や竹製などがある	当館
95	写真「箕による籾の選別」(複写)		1	—	両手で縁を持ってあおり、風によって籾を選別する。稲扱き、籾摺り、精米などの秋の収穫作業全般に広く使われた。また、堆肥や肥料を田んぼに撒くなど、様々な用途に使用された	【写】
96	写真「馬鍬による代かき作業」(複写)		1	—	馬に続き、男性が馬鍬を持って作業している様子	【氷】
97	馬鍬		1	幅90.3× 奥行8.0× 高70.0	馬や牛に曳かせて代かき(田植えのため、田に水を入れて土を砕いて掻きならす作業)をする道具	当館 (中山武央氏)
98	「牛に馬鍬を曳かせる図」(複写)		1	—	一人が馬に繋がれた馬鍬を支え、もう一人が馬の綱を曳く図	【い】
99	写真「排水溝掘機(ミゾカキ)で排水の溝切り作業」(複写)		1	—	場所・高岡市下麻生	【中】
100	排水溝掘機(ミゾカキ)		1	幅20.8× 高78.5	水田を干すために、排水溝を掘る道具。また畑の溝掘りにも利用した	当館 (中山武央氏)
101	写真「双用犁での牛耕」(複写)		1	—	双用犁は犁先とヘラが同時に左右に回転し、土を耕すことのできる道具。明治末頃から普及し始めた	【写】
102	双用犁	明治末～昭和前期	1	幅165.0× 奥行55.0× 高122.0	牛や馬などに括り付けて土を耕す道具。鉄製のヘラが左右に回転することにより、土を耕す作業が楽になった。双用犁は明治33年(1900)に考案された。土を片側にしか耕せない「単用犁」を改良したもの	当館
103	写真「柄振りによる田ならし作業」(複写)	昭和46年(1971)	1	—	場所・埼玉県所沢市	【い】
104	柄振り		1	幅104.0× 奥行10.0× 高167.0	田植え前の整地作業で最後の代かきをした後、さらに土を柔らかくしたり、平らに均すのに使われる道具	当館 (中井七郎氏)
105	田下駄		2	幅15.0× 奥行15.0× 高5.0	一足。深田や泥田に入って作業をする際に、体が沈むのを防ぐために足に履くもの。水下駄ともいう	当館 (中山武央氏)
106	写真「回転式中耕除草機での中耕と草取り作業」(複写)		1	—	場所・埼玉県小川町。「ラチウチキ」とも呼ばれる	【い】
107	回転式中耕除草機		1	幅46.5× 奥行23.0× 高146.0	二条取り。田植えの後に稲の間を転がして、中耕(稲の根に酸素を補給すること)と草取り作業を同時に行う農具。大正年間から昭和45年(1970)頃まで使われていた	当館 (中井七郎氏)
108	写真「田植え作業風景」(複写)		2	—	女性が列をなして田植えを行う作業風景	【中】
109	写真「鎌による稲刈り」(複写)		1	—	皆で協力しながら、稲を一束一束刈り取る作業風景	【写】
110	田股引		1	丈74.0× 腰回94.0	水田作業で着る丈の短い股引	当館 (吉田元太郎氏)
111	写真「千歯扱きによる脱穀作業」(複写)	昭和30年代頃	1	—	場所・氷見市内	【氷】
112	千歯扱	江戸期～昭和10年 (1935)頃	1	幅51.3× 奥行26.8	稲や麦の穂を脱穀する際に使われる道具。昭和10年頃まで使用され、後の回転式足踏脱穀機へと移行した	当館(中田地域 生涯学習推進協 議会)
113	手動稲刈機	昭和36～37年 (1961～62)頃	1	全長155.5 ×幅114.0 ×奥行25.0	手押しの稲刈り機。のこぎり目の付いたY字型の部分で稲株を挟んで安定させ、その上にハンドルから繋がった鎌と支えが両方から交差して切る	当館 (柴田慎也氏)
114	唐棹		1	長175.4× 幅21.4	上部の打ち棒を回転させてレンゲを叩き、中から種を取るための道具。稲・麦・粟・稗・豆類の脱穀などにも使われた	当館 (中山武央氏)
115	写真「唐棹作業の図」(複写)		1	—	「ボータ叩き」ともよばれる	【中】
116	回転式足踏脱穀機		1	幅72.0× 奥行74.0× 高63.0	踏み板を足で踏んで胴を回転させ、胴に打ってある針金が稲の穂から籾粒を弾いて落とす農具。昭和30年代には動力脱穀機の普及によって使われなくなった	当館
117	写真「回転式脱穀機による脱穀」(複写)	昭和30年代	1	—		【高】

118	踏車		1	幅158.0× 奥行37.0× 高93.5	羽の部分に人が乗って踏むことにより、水位の低い堀から高い田へ水を上げることができる道具	当館 (中井七郎氏)
119	写真「踏車で田に水を入れる」 (複写)	大正期	1	—	場所・高岡古城公園池の端掘	高岡市
120	写真「千石通しで玄米の選別」 (複写)		1	—	土臼で粳摺りをした後の米と粳を選り分ける道具。「千石通し」や「万石」ともよばれる	【写】
121	写真「田植棒(コロガシ)で筋目 付け作業」(複写)		1	—	コロガシで田植え作業の効率がぐんと上がった	【中】
122	田植え棒(コロガシ)		1	幅35.0× 奥行35.0× 高233.5	整地して水を張った田んぼで、棒を転がして四角の筋目をつけ、その交点に苗を植えていく。棒の部分が、鉄や塩ビ管でできたものもある	当館 (中井七郎氏)
123	唐箕		1	幅110.0× 奥行56.4× 高107.5	大豆用の唐箕。羽根板を回して生じる風により、下の口から大豆が出て、横の口から塵やくずなどが出る。製造元は高岡市百姓町(千石町)の宇崎農機製作所	当館 (山元醸造 株・山本衛氏)
124	写真「唐箕による選別作業の 図」(複写)		1	—	手前にある両方の口から、穀物が選り分けられて出てくる様子がわかる	【中】
125	写真「唐箕による粳の選別」 (複写)		1	—	ハンドルの付いた羽根板を回して生じた風を利用して、粳殻を選別する大型農具。脱穀した粳の選別や粳摺り後の玄米と粳殻、屑米のほか、大豆や麦などの選別にも使われた	【写】
126	写真「馬を用いた田起こし作 業」(複写)		1	—	馬に続いて男性が犁を持って作業している	【い】
127	写真「苗取り作業」(複写)		1	—	苗を取り束ねて、田植えの準備をする	【中】
128	写真「田舟を使った稲刈り作 業」(複写)	昭和42年(1967)	1	—	場所・埼玉県所沢市。田舟は主に湿田の稲刈り時に、刈り取った稲を湿田から畦や農道まで運ぶ道具。肥料や土を運ぶのにも使用した	【い】
129	写真「稲干し作業」(複写)		1	—	刈り取られた田んぼの上で、規則正しく稲が干される作業風景	【中】
130	写真「土臼での粳摺り」(複写)	昭和期	1	—	粳摺り用の土臼は、土に櫟や榎の木の歯を埋め込んだ上臼と下臼からなり、上臼の回転部分に取り付けられたヤングリ(遣り木)を、押したり引いたりして回して米と粳殻を分ける大型農具。高岡市内	高岡市
131	写真「いもの苗床づくり」(複写)		1	—	場所・高岡市島新	【中】
132	写真「南砺の干し柿作業風景」 (複写)		1	—	冬季の副業として行った農家もあったという	【中】
133	写真「横田村共同倉庫開庫」 (複写)	明治44年(1911)	1	—	高岡市と合併する以前の横田村の農業倉庫。村内算出米の品質向上を目指して、産米組合と農業倉庫が設立された	【高】
134	写真「国分浜の天草干し」 (複写)	昭和10年(1935)頃	1	—	天草は国分浜沖の男島付近の海中から採る。戦前は男性が潜って採取し、女性が砂浜に広げ打ち水をし、日光にさらした	高岡市
135	写真「羽広の苺狩り」(複写)	大正初期	1	—	かつてあった広大な苺農園「羽広田園」で苺狩りをする人々。男性は背広にカンカン帽を被り、女性らは着物姿で楽しげな様子が伝わってくる	高岡市
136	写真「水堀に生い茂る蓮と駐春 橋」(複写)	大正期	1	—	高岡古城公園の水堀では、蓮が多く自生し、蓮根のほか蓴菜や菱の実も収穫できた。駐春橋は二の丸から園外に架かる橋	高岡市

※所蔵先の写真の出典は、【氷】『氷見市史』(氷見市役所、1963年)、【中】『中田町誌』(中田町誌編纂委員会、1968年)、【写】『写真でみる農具・民具』(農林統計協会、1988年)、【台】『台所用具の近代史』(有斐閣、1997年)、【イ】『イラストで見るモノのうつりかわり 日本の生活道具百科』(河出書房新社、1998年)、【昭】『昭和のくらし博物館』(河出書房新社、2000年)、【い】『いまに伝える農家のモノ・人の生活館』(柏書房、2004年)、【高】『保存版ふるさと高岡』(郷土出版社、2009年)を示します。



チラシ・ポスター



展示風景

2 教育・普及活動

(1) 郷土学習講座（全3講）

郷土の歴史・文化など幅広い分野について紹介し、理解を深めていただく連続講座を開催した。

〔第1講〕「砺波郡の石仏」

日 時：平成30年7月28日（土） 午後2時～3時30分

会 場：新館3階講堂（以下同）

講 師：尾田武雄氏（日本石仏協会理事）

聴講者：34人

要 旨： 石仏とは、元々は信仰の対象物である石に仏などが彫られたものをいい、その種類も摩崖仏^{まがいぶつ}、丸彫り石仏、単独石仏（一石一仏）、一石多尊仏まで様々ある。造立の理由も、そのほとんどが死者への供養であるといわれる。



尾田氏講演

今日、砺波地方の石仏数は約5,000体を数え（県全体では約15,000体）、砺波郡を含む県西部には地蔵の造立が多いという特徴がある。石材は地元で採掘される庄川町の緑色凝灰岩（金屋石^{いし}）が用いられ、幕末から明治期にかけて若衆・青年たちが中心となって石仏が建てられた経緯がある。砺波地方は、獅子舞や盤持^{ばんもち}、草相撲、チョンガリ（盆踊り）などの郷土芸能が盛んな地域であり、それらは明治期に起こったものが多く、地域の青年たちが主体となって行い、今日まで伝承されてきたのである。加えて、路傍の石仏の多くが御堂に入って管理され、また石動山修験者による珍しい石仏（不動明王・恵比寿・水天等）の造立、名号塔^{みょうごうとう}が多いことも、砺波郡の石仏の特徴として挙げられた。

また、砺波郡には聖徳太子の石仏も多いという特徴が挙げられる。造立時期は明治20年代から昭和初期において、井波瑞泉寺から半径20km圏内を中心とする分布範囲で240体もの聖徳太子南無仏の石仏が造立されているのである。その理由として、瑞泉寺が明治23～25年（1890～92）頃にかけて太子像・宝物の巡回展を各地で行い、大正7年（1918）の太子堂再建のための資金を集めることができたという歴史的背景があるという。そうした動きが砺波郡内での聖徳太子南無仏の造立へと繋がっていったのではないかと言及された。

〔第2講〕「堀田一善さんに聞く」（企画展「堀田一族と伏木」特別講演会・朗読会）

日 時：平成30年11月25日（土） 午後1時20分～3時30分

講 師：堀田一善氏（堀田善衛甥^{よしえ}・慶應義塾大学名誉教授）

聞き手：野村剛氏（堀田善衛の会会員）

朗 読：朗読サークル「言の葉」（堀田善衛著『鶴のいた庭』を朗読）

聴講者：130人

要 旨： 一善氏は堀田善衛との交流を中心に語られた。一善氏は学生時代、毎週末、逗子の善衛宅を訪れ、麻雀などをしながら様々な事を教わったという。善衛は複数の新聞を取っており、一善氏がそれらの新聞を読んでいた時に、「新聞を複数読んで何か違いはあるかい」という質問を受け、最初は新聞社が違うのだから違いがあって当たり前だと思い、どうしてそのような質

問をしたのか不思議に感じていたそうである。それから数年後、あの質問には「新聞社が違えば、あるいは執筆している人間が違えば、同じ出来事や世界を切り取ったとしてもそこには切り取り方の違いだとか、描写の違いだとか、受け止め方の違いがあるだろう、だから一つのものを読んで、そこに書かれている事がすべて正しいんだという風には考えるなよ」というメッセージが込められていたのではないかと感じるようになったそうである。他にも目上の



堀田氏講演

人が話された事を「僕は違うとを感じるけども、まあいいか」と空気を読んで、何も言わずにその場をやり過ごしてしまう行為は、知識人としては疚しき姿勢であるとし、疚しき精神をいかにして払拭するかが大切であるという事も善衛から学んだと話された。そして、善衛の多様なものの見方から思想や生き方に多くの影響を受けた事も話された。講演終了後には、堀田善衛の会会員の野村剛氏が聞き手として、インタビュー形式の対談会が開かれた。そこで、堀田一族や堀田家ゆかりの方々についてのエピソードなども話された。

〔第3講〕「氷見獅子について」

日時：平成31年3月9日(土) 午後2時～3時30分

講師：小境卓治氏（前氷見市立博物館長）

聴講者：34人

要旨：現在富山県内で行われている獅子舞の総数は、休止中のものを除き約800～900組弱ほどあるとされ、神輿を先導する役割を果たす「舞わない獅子（行道獅子）」と、祭礼時の神賑わいとしての「舞う獅子（祭礼獅子）」の2つに大別される。氷見獅子は祭礼



小境氏講演

獅子のなかの「百足獅子」に相当し、氷見市内では約90～100組弱ほどの獅子舞が伝承されている。その分布範囲は氷見市内をはじめ、高岡、小矢部、石川県七尾、同鹿島郡、同羽咋郡、一部は五箇山や福光、県東部や北海道等にも及び、人々の移動（嫁婚の行き来・行商・開拓民等）により獅子舞が伝えられた。また氷見獅子の特徴に①カヤ（胴幕）の中に竹輪を入れず、5人余りが入る「百足獅子」、②獅子に対峙するモノとして朱塗り鼻高面を被った天狗が出る、③囃子方として鉦打ちの長胴太鼓・縦笛・チャンククリン（摺鉦）の3つで構成されることなどがある。演目は囃子方のうち太鼓を担当する人により決められ、「ヒトアシ」「フタアシ」「バンガエシ（バイガエシ）」「キョウブリ」「七五三」「ヨソブリ」「獅子殺し」など数々の演目が多くの地区で伝承され、今日まで続けられている。

近世史料からみた「獅子舞」関連事項についても言及された。文政10～安政6年（1827～59）に氷見町役人の田中屋権右衛門が書いた日記集『応響雜記』（全62巻／氷見市指定文化財）等の史料の記述から、江戸後期には氷見町中だけでなく、あちこちの氷見の小さな在所に獅子舞があったことも読み取れるとされた。

(2) 展示説明会

① 特別展 展示説明会 (全2回)

〔第1回〕

日 時：平成30年6月2日(土)

参加者：21人

〔第2回〕

日 時：平成30年7月7日(土)

参加者：21人



特別展「古写真にみる高岡」展示説明会

② 企画展 展示説明会 (全3回)

〔第1回〕

日 時：平成30年9月8日(土)

参加者：18人

〔第2回〕

日 時：平成30年10月13日(土)

参加者：19人

〔第3回〕

日 時：平成30年11月10日(土)

参加者：22人



企画展「堀田一族と伏木」展示説明会

③ 館蔵品展 展示説明会 (全4回)

〔第1回〕

日 時：平成30年4月14日(土)

参加者：9人

〔第2回〕

日 時：平成30年5月5日(土)

参加者：4人

〔第3回〕

日 時：平成31年2月2日(土)

参加者：9人

〔第4回〕

日 時：平成31年3月23日(土)

参加者：5人

(3) 古文書講座「初めての古文書教室」(全6講)

当館では、高岡に関する古文書を多数収集・保管している。高岡の歴史や古文書に関する市民への理解を深めるため、実施した。全6講の連続講座。受講者累計248人。

〔第1講〕

日 時：平成30年9月13日(木) 午後2時～3時30分(以下同)

会 場：新館3階講堂(以下同)

講 師：仁ヶ竹主査学芸員(以下同)

受講者：45人

〔第2講〕

日 時：平成30年9月27日(木)

受講者：47人

〔第3講〕

日 時：平成30年10月11日(木)

受講者：38人

〔第4講〕

日 時：平成30年10月25日(木)

受講者：38人

〔第5講〕

日 時：平成30年11月8日(木)

受講者：43人

〔第6講〕

日 時：平成30年11月22日(木)

受講者：37人



古文書講座

(4) ワークショップ等

① 屋上開放「古城公園展望台」(桜の満開時期に合わせて開催) ※4/6～8は臨時開放

・ 日 時：平成30年4月6日(金)～8日(日)、

12日(木)～15日(日)

・ 時 間：いずれも午前10時～午後3時30分

・ 会 場：新館屋上

・ 来場者数：502人(7日間38.5時間の累計)

〔各種イベントの開催〕

・ 高岡観光ボランティアガイド「やまたちばな」による

屋上解説



屋上開放

4月12日(木)～14日(土) ※時間中随時

・高岡市民会館ホールサポーターの会「パープル」「さくらカフェ」

4月14日(土)午前11時～午後2時 コーヒー(お菓子付)販売

② 呈茶の会「松聲庵－博物館で抹茶を楽しみませんか」(春)

・日 時：平成30年4月7日(土) 午前10時～午後3時

・会 場：当館茶室「松聲庵」及び掛待合(以下同)

・協 力：西 宗範氏(茶道裏千家教授) 含め社中の方19名

・参加者：178人



呈茶の会(春)

③ 呈茶の会「松聲庵－博物館で抹茶を楽しみませんか」(秋)

・日 時：平成30年11月17日(土) 午前10時～午後3時

・協 力：小嵐晴美氏(古儀茶道藪内流教授)ほか社中8名
近藤宗美氏(茶道裏千家正教授)・西宗範氏(茶道裏千家教授)[誘導・受付等]

・参加者：180人



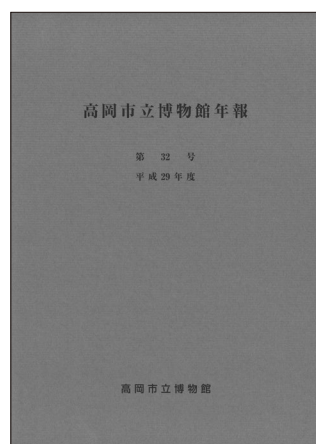
呈茶の会(秋)

(5) 刊行物の発行

・特別展「古写真にみる高岡」パンフレット(A4判、16頁、1,000部)

・機関誌『博物館だより』第25号(A4判、4頁、3,000部)

・年 報『高岡市立博物館年報』第32号(平成29年度)(A4判、46頁、200部)



『高岡市立博物館年報』
第32号



『博物館だより』第25号

(6) 団体見学、展示解説対応

団体見学 計78件（計2,403人）、うち展示解説14回

〔団体一覧〕

月日	団体名	人数	展示解説
4月 6日	CT 東京 北陸7つの城めぐり	20人	
	阪急 北陸名城の旅	35人	
7日	阪急 北陸3県いいとこどり	35人	
	クラブツーリズム	42人	
	クラブツーリズム東京	40人	
8日	阪急 北陸3県いいとこどり	45人	
	クラブツーリズム	42人	
10日	あわら里山同好会	30人	
	阪急交通社	82人	
11日	クラブツーリズム	47人	
	阪急交通社	20人	
12日	クラブツーリズム	37人	
	クラブツーリズム	22人	
13日	クラブツーリズム	44人	
14日	クラブツーリズム	39人	
15日	クラブツーリズム	68人	
18日	クラブツーリズム	27人	
22日	城ガール隊	10人	
5月10日	高岡市立福岡中学校1年生	97人	3回
16日	クラブツーリズム	21人	
20日	二上地区健康づくり推進懇話会	27人	
30日	高知新聞観光	21人	
6月 1日	氷見市立久目小学校3、4年生	13人	1回
7日	高岡市立戸出西部小学校	60人	
9日	クラブツーリズム北海道	14人	
12日	S Dトラベル福島	10人	
13日	富山市立水橋中部小学校5、6年生	58人	
20日	古城クラブ	10人	
22日	高岡市立木津小学校3年生	58人	
	高岡市立二塚小学校3年生	28人	
	富山市立蛸川小学校5年生	122人	
23日	神戸山陽バス	15人	
	神戸山陽バス	25人	
27日	高岡市観光協会ボランティアガイド育成講座	20人	
30日	やまたちばな	24人	
7月 6日	クラブツーリズム九州	9人	
10日	富山市立城山中学校1年生	56人	
18日	高岡市立定塚小学校3年生	60人	
	いみずの里デイサービス	18人	
26日	クラブツーリズム関西	32人	

月日	団体名	人数	展示解説
29日	宇都宮大学 松金ゼミ	9人	
8月 8日	バス de ウォーク	15人	
21日	高岡市美術館 実習生	9人	1回
30日	大阪市立大学 近現代史ゼミ	9人	
9月 3日	はるかぜツアー	24人	
21日	クラブツーリズム	33人	
	大仏茶屋	2人	1回
26日	池之谷組	6人	1回
21日	しらとり支援学校高等部2年生	13人	
	富山市立堀川小学校	10人	
29日	高岡市能町校下歩こう会	20人	
30日	金沢市読書会連絡協議会	21人	1回
10月10日	だいが清水館	8人	
11日	石川県金沢市立小將町中学校	16人	
24日	クラブツーリズム関西	37人	
26日	富山県 県民カレッジ教養講座	70人	
11月 1日	クラブツーリズム	40人	
2日	砺波市立庄東小学校2年生	42人	1回
7日	クラブツーリズム関西	40人	
11日	高志の国文学館友の会	29人	1回
	クラブツーリズム東京	38人	
13日	高岡市立平米小学校	41人	
16日	高岡市立こまどり支援学校	6人	1回
17日	高岡古城公園を愛する会	15人	
18日	石川県金沢市扇台校下赤十字奉仕団	16人	
	クラブツーリズム	42人	
20日	クラブツーリズム	25人	
	クラブツーリズム	22人	
23日	クラブツーリズム	18人	
24日	大門史談倶楽部	6人	1回
25日	クラブツーリズム	15人	
2月23日	大仏茶屋	3人	1回
3月 2日	クラブツーリズム	35人	
9日	阪急交通社	36人	
19日	高岡市観光ガイドボランティア研修会	53人	1回
24日	朝日町歩く会	5人	
27日	ガンバ村キッズ	51人	
28日	あいの風ボランティアガイド育成講座	40人	
	計 78 件	2,403人	14 回

(7) 他団体への協力

① 講師の派遣 計15件

〔講師派遣一覧〕

月日	依頼者 会合名	演題・内容	講 師
4月11日	高岡地区生涯学習団体協議会 平成30年度 共学講座合同開講式及び 生涯学習団体協議会総会における 記念講演	「農民魂をもつ大学者五十嵐篤 好」	仁ヶ竹主査学芸員
5月7日～20日 8月13日～10月8日 11月5日～18日 平成31年2月4日 ～3月31日放送	高岡ケーブルネットワーク(株) (番組出演)	『歴史都市 高岡ふしぎ帖』 ・シーズン7「末広町今昔編(第 2話)」 ・シーズン8「真・高岡城編」 ・シーズン9「勝興寺のふしぎ 編(第1話)」 ・シーズン10「高岡の音編」	仁ヶ竹主査学芸員
6月15日	中田地区教育振興会 平成 30 年度「第 1 回ほたる塾」	「気骨の民権政治家 島田孝之」	仁ヶ竹主査学芸員
6月25日～ 7月1日放送	高岡ケーブルネットワーク(株) (番組出演)	『もっと！ホット！高岡』 ・特別展「古写真にみる高岡」 展示の見どころ紹介	宇川学芸員
8月4日	射水神社崇敬奉賛会 総会 基調講演	「古写真にみる高岡」 －高岡市立博物館特別展によせて－	仁ヶ竹主査学芸員
8月5日	宮脇町一丁目自治会 地藏尊祭 講演	「高岡城跡の真価」	仁ヶ竹主査学芸員
8月30日	北日本放送(株) (ラジオ) ラジオインタビュー (電話出演)	『でるラジ』 ・企画展「堀田一族と伏木」 展示の見どころ紹介	仁ヶ竹主査学芸員
10月5日	(株)ラジオたかおか (番組出演)	『PICK UP！たかおか』 ・企画展「堀田一族と伏木」 記念講座	仁ヶ竹主査学芸員
11月15日	高岡ロータリークラブ 例会 卓話	「堀田善衛の先祖・鶴屋と一族 について」	仁ヶ竹主査学芸員
11月16日	高岡地区けんしん会 合同講演会	「歴史都市・日本遺産高岡の魅力」	仁ヶ竹主査学芸員
平成31年 1月18日、 2月1日、15日、 3月1日	高岡市福岡歴史民俗資料館 古文書講座	古文書講座の講師	仁ヶ竹主査学芸員
平成31年 2月18日～24日 放送	高岡ケーブルネットワーク(株) (番組出演)	『もっと！ホット！高岡』 ・館蔵品展「昔の道具とくらし」 展示の見どころ紹介	宇川学芸員
平成31年 2月22日	高岡商工会議所女性会 講演会	「写真で振り返る高岡 －明治・大正・昭和－」	仁ヶ竹主査学芸員
平成31年 2月26日	伏木万葉大学運営委員会 平成 30 年度伏木地域生涯学習 「伏木万葉大学」閉講式記念講演	「堀田一族と伏木」	仁ヶ竹主査学芸員
平成31年 3月19日	たかおか観光ガイド連絡協議会 平成 31 年ガイド研修会	・座学「高岡城について」 ・現地研修「高岡城跡の見どころ」	仁ヶ竹主査学芸員

② 委員の派遣 計4件（うち会合13件）

〔高岡市観光交流課〕「平成の御車山」制作実行委員会委員（「平成の御車山」完成披露式典への出席／廣瀬館長）（4月30日）

〔富山県公文書館〕平成30年度富山県公文書館古文書調査員（平成18年度より継続／仁ヶ竹主査学芸員）（① 7月19日 ② 平成31年2月28日）

〔伝統工芸高岡銅器振興協同組合〕生型鑄造法の国伝統的工芸品申請のための産地専門委員（平成30年度より継続／仁ヶ竹主査学芸員）（① 4月26日 ② 5月10日 ③ 6月14日 ④ 6月16日 ⑤ 6月19日 ⑥ 8月1日 ⑦ 8月16日）

〔高岡商工会議所〕平成30年度先端技術と伝統技術の融合による文化財修復拠点化事業委員（仁ヶ竹主査学芸員）（① 6月16日 ② 6月19日 ③ 7月24日 ④ 12月4日・5日 ⑤ 平成31年1月22日 ⑥ 平成31年3月29日）

③ 寄稿 計2件

・北日本新聞連載「高岡の経済・産業」全4回（「タイムスリップ明治のとやま」コーナー、12月8・15・22・29日、仁ヶ竹主査学芸員）

・「手紙が語る歴史秘話vol.18／犬養毅から島田孝之へ 自宅へ招待する手紙」（エー・アール・ティー株式会社『月刊 江戸楽』No.117（2019年1月号）、仁ヶ竹主査学芸員）

④ 博物館実習生の受け入れ

・期 間：平成30年7月31日（火）～8月4日（土）〔5日間〕

・実習生：1名（新潟大学）

・内 容：資料取扱い、資料調査・整理、資料撮影、会場監視等

⑤ 資料貸出 計7件

No.	資料名	点数	申請者	使用目的
1	北前船関係資料	12件23点	伏木観光推進センター	高岡市伏木北前船資料館で展示（会期：H30.4/1～H31.3/31）【継続】
2	帳場格子、大福帳等	3点	土蔵造りのある山町筋まちづくり協議会	高岡市土蔵造りのまち資料館で展示（会期：H30.4/1～H31.3/31）【継続】
3	「少年丸世界一周双六」等おもちゃ類	6点	射水市新湊博物館	「思い出のおもちゃ」展（会期：H30.6/29～9/9）
4	高峰譲吉関係資料（当館蔵・高峰譲吉博士顕彰会蔵）	13件13点	高峰譲吉博士顕彰会	高峰譲吉博士移動資料展（H30.10/6 高岡市立横田小学校、10/14 高岡市立高陵中学校）
5	宇多刀2口（ほか刀掛25基、刀掛用白布15枚）	2口	高岡市福岡歴史民俗資料館	「越中ふくおかの名刀～宇多派の真髓に迫る～」展（会期：H30.10/13～12/2）
6	堤土人形等各地の天神人形	5点	土蔵造りのある山町筋まちづくり協議会	「第18回山町筋の天神様祭」で展示（会期：H31.1/19～1/20）
7	花鳥文扁壺形花瓶下絵等	18点	東京藝術大学 COI 拠点文化外交・アートビジネスグループ	「甦るべき明治～維新を支えた下絵の世界」展（会期：31.4/4～4/12）

⑥ 写真提供 計43件

No.	資料名	点数	申請者	使用目的
1	前田利長書状(慶長年間) 5月30日付	1点	株式会社能作	工場見学用の映像
2	伏木測候所(1909年、現在地に移転新築された際の写真)	1点	読売新聞高岡支局	読売新聞紙面「ふるさと写真館」
3	二代竹本高雪軒記念碑(高岡市大手町)、浄瑠璃語り竹本其翁軒改名案内刷物	3点	個人	富山浄瑠璃の歴史研究のため
4	鮎買い幽霊図(道入寺蔵)	1点	株式会社平凡社	別冊太陽『幽霊画と冥界～あやかしの世界～』(H30.7.26発行)
5	「越中国高岡／関野神社祭礼繁昌略図附録」	1件2点	個人	高岡御車山祭に関する調査研究のため
6	高岡市鳥瞰図(部分)	1件2点	石黒建設株式会社	会社記念誌(H30.5/25発行)
7	林忠正肖像(明治後期頃、個人蔵)	1点	株式会社樫出版社	『Discover Japan』Vol.81(H30.6/6発行)
8	富山県石動町俱利伽羅案内パノラマ地図	1件2点	小矢部市民図書館	印刷したものを蔵書として図書館利用に供するため
9	前田利長画像(金屋町共有)	1点	株式会社吉川弘文館	見瀬和雄著『人物叢書 前田利長』(H30.10/24発行)
10	高岡城跡空撮	1点	平戸市文化観光商工部観光課	平戸城再築城300周年記念「100名城企画展」
11	戸出野御開印状	1点	千保川を語る会	『千保川通信』第20号(H30.9/1発行)
12	前田利家桶狭間凱旋図	1点	長野県立歴史館	長野県立歴史館編『信州学』巻2(H30.10/31発行)
13	絵葉書「高岡古城公園」(昭和30年代)等高岡古城公園関係資料	13点	高岡ケーブルネットワーク株式会社	『歴史都市高岡ふしぎ帖』シーズン8「真・高岡城編」(H30.8/13～10/7放送)
14	遼陽陥落を祝う小学生(明治37年9月5日)	1点	株式会社北日本新聞社	北日本新聞連載「タイムスリップ明治のとやま」日清・日露戦争②(H30.9/29)
15	高岡公園現況図	1点	北日本新聞サービスセンター高岡本社	北日本新聞「まいたうん」10月号「たかおか歴史探訪」No.112
16	越中国鉄物細工之図	1点	株式会社TRUNK	日本橋とやま館での銅器・漆器等の老舗PR展示イベント用パネル(H30.9/25～10/8)
17	阿野実政筆『聚楽行幸記』(個人蔵)	1件50点	個人	織豊期研究のため
18	山口義夫宛堀田善衛葉書(個人蔵)	1件2点	北國新聞社出版局	『北國アクタス』11月号(H30.10/20発行)
19	「越中国高岡／関野神社祭礼繁昌略図附録」ほか市内の母衣武者展示写真	2件3点	NHK富山放送局	NHK総合「ニュース富山人(H30.10/18放送)」
20	阿野実政筆『聚楽行幸記』(個人蔵)	1件50点	個人	『聚楽行幸記』に関する学術論文執筆のため
21	前田利長画像(長光寺本複製)、前田利常画像(那谷寺本)	2点	近世高岡の文化遺産を愛する会	高岡の歴史文化を伝える連絡帳(H30年度末発行予定)
22	「越中国高岡／関野神社祭礼繁昌略図附録」、皇太子殿下北陸行啓で高岡古城公園に御車山勢揃い(明治42年10月2日)	3件4点	富山県民生涯学習カレッジ	富山県教育委員会制作の郷土学習教材DVD「とやまの曳山“世界の宝”を守り続ける」(H30.12月末発行)
23	高峰譲吉肖像写真	1点	北日本新聞サービスセンター高岡本社	「まいたうん」12月号「たかおか歴史探訪」No.114
24	帆船と蒸気船(大正18年)、伏木開港場(明治20年)	2点	株式会社北日本新聞社高岡支社	北日本新聞紙面(H31.1/1)
25	千保川の舟運(明治末期)、木町の舟着き場(大正期)、小矢部川風景(昭和初期)	3点	個人	日本海事史学会論文作成のため
26	小矢部川の橋上を走る中越鉄道(明治33年)	1点	KNB北日本放送	高岡市政広報・伏木の魅力を紹介する番組(H31.1/27放送)
27	機械化された鋳物工場(大正3年)ほか高岡の産業、伏木関係の写真	6点	株式会社北日本新聞社	北日本新聞連載「タイムスリップ明治のとやま」高岡の経済・産業①～④(H30.12/8～29、毎土曜日)

28	大橋三右衛門下図「第百六十号花瓶一对」(大蔵省製品画図掛割印/明治11～14年)	1件7点	高岡商工会議所	「先端技術と伝統技術の融合による文化財修復拠点化事業」成果展(会期: H31.1/26～2/4)・広告媒体・パンフレット・映像
29	津幡屋与四兵衛(二番町自治会蔵・市中央図書館寄託)	1件2点	高岡市産業振興部観光交流課	高岡御車山会館企画展「安永の曳山騒動」(会期: H31.1月中～5月下旬)
30	武波勝平撮影写真のうち、長谷川義起作 銅像「國技」(昭和14～18年)	1点	個人	長谷川義起にかかわる調査研究のため
31	金屋町拝領地絵図(高森家文書・当館寄託)ほか高岡銅器関係資料	3点	高岡ケーブルネットワーク株式会社	「歴史都市高岡ふしぎ帖」シーズン10「高岡の音編」(H31.2/4～3/31放送)
32	三箇国分間略絵図	1点	テレビ朝日	「帰れマンデー」(H31.1/28放送)
33	嬰兒籠	1点	株式会社ミネルヴァ書房	『子ども家庭を支える保育のために(仮)』(H31.4月発行予定)
34	帆船と蒸気船	1点	富山県教育委員会	高校生の郷土史・日本史補助教材(富山県教育委員会刊)に掲載(H31.3/31発行)
35	絵葉書「横浜弁天通り」等	6点	高岡ケーブルネットワーク株式会社	「歴史都市高岡ふしぎ帖」シーズン10「高岡の音編」(H31.3/18～3/31放送)
36	前田利長画像(長光寺本複製)、高岡市鳥瞰図(昭和7年)	2点	高岡市観光交流課	「平成の御車山」制作においての参考資料として『「平成の御車山」制作事業報告書』に掲載(H31.3月末発行予定)
37	映画「輝く孝道」フィルム(35ミリ・16ミリ)	5点	一般社団法人記録映画保存センター	文化庁文化芸術振興費補助事業として行っているフィルムの保存・実態調査
38	花鳥文扁壺形花瓶下絵等	22点	東京藝術大学COI拠点文化外交・アートビジネスグループ	甦るべき明治～維新を支えた下絵の世界～展覧会(会期: H31.4/4～4/12)
39	機械化された鋳物工場(大正3年)、前田利長書状(慶長年間/5月30日付)	2点	株式会社能作	会社ホームページリニューアルのため
40	高岡米穀取引所、大一高岡青果市場	2点	高岡まちっこプロジェクト	山町ヴァレーで流す観光客向けの映像作成のため
41	藤井能三(最晩年)、明治32年の開港場に指定されて間もない伏木港	2点	有限会社青青編集	『富山県の誕生』浦田正吉著(R1.5月9日発行)
42	高岡御車山関係古写真	8点	大仏兄弟株式会社	KNB文化創造都市(放送日H31.4)
43	前田利長画像(長光寺本)	1点	テレビ朝日	テレビ朝日特別番組「お城総選挙」(H31.3/23放送)

⑦ 資料撮影・掲載 計23件

No.	資料名	点数	申請者	使用目的
1	「少年丸世界一周双六」ほかおもちゃ類	9点	射水市新湊博物館	「思い出のおもちゃ」展(会期：H30.6/29～9/9)のための調査研究
2	末広町地引絵図ほか高岡関係資料	23件35点	高岡ケーブルネットワーク株式会社	『歴史都市高岡ふしぎ帖』シーズン7「末広町今昔編」(H30.4/23～6/20放送)
3	彼谷芳水作「みみずく文鏤絵銅張り文庫」、彼谷芳水作「鳳凰文飾盆」	2点	個人	漆器研究のため
4	銅器下図	一括	高岡市産業企画課	文化財拠点化事業での見本品制作の参考とするため
5	クワ、スキ、スキ先	13点	個人	農機具関連の調査研究
6	高岡銅器関連の展示資料	20点	公益社団法人高岡市観光協会	テレビ大阪「おしゃべりな銅像！⑧ストーリー」(H30.9/29放送)
7	高岡銅器下図	15点	東京藝術大学社会連携センター	先端技術と伝統工芸の融合による文化財修復のため
8	前田利長在城当時の高岡城と城下町の鳥瞰推定図(原案：古岡英明、作画：市山雅利)	1点	高岡ケーブルネットワーク株式会社	『歴史都市高岡ふしぎ帖』シーズン8「真・高岡城編」(H30.8/13～10/7放送)
9	高岡城下町模型	1点	富山県民生涯学習カレッジ	富山県教育委員会制作の郷土学習教材DVD「とやまの曳山 “世界の宝”を守り続ける」(H30.12月末発行)
10	常設展パネル「一向一揆と勝興寺」	1点	高岡ケーブルネットワーク株式会社	『歴史都市高岡ふしぎ帖』シーズン9「勝興寺のふしぎ編」(H30.11/5～12/30放送)
11	高岡彫刻塗鯛盆(二匹鯛)	1点	北日本新聞高岡支社	個人による鯛盆彫刻家・村上九郎作の研究についての取材のため
12	笹原文次関係資料、展示写真等	79件117点	個人	高岡捺染関係の調査研究のため
13	角羽家関係資料	一括	個人	先祖が残した資料を閲覧したいため
14	パリ万国博覧会パンフレット(明治33年)	1点	個人	学術研究のため
15	銅器下図	30点	高岡市産業企画課	平成31年4月に予定されている大手町プレイス(東京都千代田区)での銅器下図の展示について下図の選定、検討を行うため
16	寛政8年鹿島郡佐味村龍光寺梵鐘鑄造に関する高岡鑄物師と中居鑄物師の総論に関する古文書(高森家文書/当館寄託)	1点	高岡ケーブルネットワーク株式会社	『歴史都市高岡ふしぎ帖』シーズン10「高岡の音編」(H31.2/18～3/3放送)
17	明治33年高岡大火の罹災図(『高岡ものがたり』より転載)	1点	北日本新聞サービスセンター高岡本社	「まいたうん TAKAOKA」(2月号)「たかおか歴史探訪」に掲載
18	堀川敬周の土地売却証文	1点	北日本新聞サービスセンター高岡本社	「まいたうん TAKAOKA」(4～6月)「たかおか歴史探訪」いずれかの月掲載
19	捺染資料	5点	北日本新聞サービスセンター高岡本社	『高岡歴史の旅』(R元.5月発行予定)に掲載
20	銅器下図	30点	高岡産業企画課	平成31年4月に予定されている大手町プレイス(東京都千代田区)での銅器下図の展示について協賛企業であるNTT都市開発が下図の見学、検討を行うため
21	高岡城跡落札区分図(写)	一括	専修大学教授	高岡古城公園の成立に関する研究
22	第九代角羽勘左衛門肖像、横浜弁天通の角羽店写真、角羽商店輸出カタログ「高岡銅工ニ答フル書」表紙および内容の一部	4点	高岡ケーブルネットワーク株式会社	「歴史都市高岡ふしぎ帖」シーズン10「高岡の音編」第4話(H31.3/18～3/31放送)
23	「最新富山県地図」(昭和28年北日本新聞社北陸夕刊新聞社発行)	1点	株式会社日本海コンサルタント	富山空港北土地地区画整理事業の完工誌記念誌の資料(R元.6月発行予定)

⑧ その他の協力

- ・（公財）日本城郭協会「日本100名城スタンプラリー」（平成19年度～）
- ・高岡市教育委員会学校教育課「高岡再発見プログラム7」（スタンプラリー）
期 間：平成30年4月28日（土）～12月16日（日）
合 計：2,228人
- ・高岡商工会議所 平成30年度「藤子・F・不二雄先生ゆかりの地めぐりスタンプラリー」スタンプ設置（7月24日～8月31日）
- ・高岡市教育委員会学校教育課「ものづくり・デザイン科」にかかる学校への団体解説（1件／97人）
- ・高岡テクノドームへの博物館サテライトギャラリーの実施（10月1日～）
- ・高岡ケーブルネットワーク番組『歴史都市 高岡ふしぎ帖』にかかる写真等資料提供・出演
〔シーズン7／第2話〕5月7日（月）～20日（日）放送「末広町今昔編」
〔シーズン8／全4話〕8月13日（月）～10月8日（月・祝）放送「真・高岡城編」
〔シーズン9／第1話〕11月5日（月）～11月18日（日）放送「勝興寺のふしぎ編」
〔シーズン10／第2話～4話〕2月18日（月）～3月31日（日）放送「高岡の音編」
- ・高峰譲吉博士顕彰会「高峰譲吉博士移動資料展」（10月6日：高岡市立横田小学校／10月14日：高岡市立高陵中学校）にかかる高峰譲吉関係資料の貸与・展示監修
- ・土蔵造りのある山町筋まちづくり協議会「第18回山町筋の天神様祭」（平成31年1月19～20日）にかかる資料貸与・展示監修
- ・高岡市観光協会「古地図でめぐる 加賀前田家ゆかりの町・高岡の今昔」監修



「ものづくり・デザイン科」授業のための
展示解説（高岡市立福岡中学校）



博物館サテライトギャラリーの開設
（於・高岡テクノドーム）

（8）レファレンス

高岡の歴史・文化などに関わる照会・回答 90件

(9) インターネットによる広報・普及

- ・ホームページ 年間総アクセス数 207,383件
- ・資料情報の「文化遺産オンライン」（文化庁運営）公開件数 計730件
- ・発行済の館報「博物館だより」（25件）、展示解説「博物館ノート」（10件）の公開
- ・当館公式ツイッター（フォロワー797人、ツイート8,318回、いいね2,129件）、フェイスブック（投稿2,056件、いいね！4,348件）による広報
- ・平成29年2月4日より収蔵展示資料の撮影、ネットへの公開を個人利用に限り許可

3 収集・保存活動

(1) 購入資料（計52件141点。受入順。）

No.	資料名称	数量	分類
1	高岡関係絵葉書（高岡市内・伏木・高岡公園）	23	歴史
2	金預手形（江戸期、高岡 鍋屋仁左衛門）	1	民俗
3	富山県射水郡横田耕地整理一覧表	1	歴史
4	「射水神社修徳会会則」	1	歴史
5	〔嘉永七年〕六月六日付坪井信良書状（浄界宛）	1	歴史
6	判鑑（江戸期／高岡木町鷺塚屋大橋善右衛門、同木舟町井波屋左七郎等5名）	5	民俗
7	絵葉書「越中氷見郡義経雨晴ノ景」	1	歴史
8	高岡名勝絵葉書「古城公園の橋」	1	歴史
9	絵葉書「高岡公園御野立所」	1	歴史
10	絵葉書「高岡市上原内科医院之全景」	1	歴史
11	絵葉書「高岡市鴨島町 大一 株式会社高岡青果市場」（梨作柄・景況照会状）	2	歴史
12	絵葉書「高岡銀行」（棚田書房発行）	1	歴史
13	絵葉書「優勝旗を獲得したる西方猛将」	1	歴史
14	越中名勝絵葉書「越中方二塚村恒性皇子ノ墓」	1	歴史
15	新湊名所絵葉書「伏木港仲伏木沿岸」	1	歴史
16	越中名勝絵葉書「有磯乃海」	8	歴史
17	絵葉書「越中義経雨ばらし」	1	歴史
18	地形図「高岡」・「伏木」（共に国土地理院発行、25,000分の1、平成3年）	2	歴史
19	絵葉書「伏木公会堂」	1	歴史
20	絵葉書「伏木海水浴場（其一）」	1	歴史
21	絵葉書「伏木海岸全景 其二」	1	歴史
22	絵葉書「高岡市立高等小学校」	1	歴史
23	絵葉書「高岡桜馬場」	1	歴史
24	絵葉書「工事中の射水川口」	1	歴史
25	絵葉書「義経雨晴全景」	1	歴史
26	絵葉書「伏木方面より眺めたる義経雨晴」	1	歴史
27	絵葉書「（高岡名勝）桜馬場ノ桜花」	1	歴史
28	絵葉書「（高岡名勝）射水神社」	1	歴史
29	絵葉書「新造貨客船 射水丸」（日本海汽船株式会社発行）	5	歴史
30	絵葉書「（越中）義経雨晴しの景」	1	歴史
31	年未詳六月十七日付前田利長書状（奥村長兵衛宛）	1	歴史
32	頼 鴨涯筆《高岡寓中遊古城》	1	美術

33	瑞龍寺17世・天外大亮筆《七絶》	1	美術
34	年未詳四月十日付小川千麿書簡（室崎間佐七宛）	1	歴史
35	淵上旭江画『北陸奇勝』（1800年刊『日本勝地 山水奇観』全12巻のうち）	1	美術
36	加賀藩藩札（銭一貫文）（1868年5月～6月6日）	1	民俗
37	『高岡市勢要覧』（1934年、高岡市役所発行）	1	歴史
38	『高岡市統計書』（1918年、高岡市役所発行）	1	歴史
39	富山県各種地図	8	歴史
40	筏井竹の門旧蔵写真	17	歴史
41	「高岡 帝国館週報」（1942年1月22日/帝国館発行）	1	歴史
42	絵葉書「創校二十周年記念 富山県立高岡高等女学校」（1928年5月6日）	3	歴史
43	高岡関係絵葉書	5	歴史
44	絵葉書「ふしき（伏木港、名利勝興寺・国宝気多神社）」（1933～44年頃）	2	歴史
45	伏木関係絵葉書	20	歴史
46	絵葉書「富山県東砺波郡北磐若村忠霊塔」（1918～32年頃/財団法人 大日本忠霊顕彰会発行）	1	歴史
47	絵葉書「富山県農工銀行頭取室」（1907～17年頃）	1	歴史
48	葉書「寛文社 締綿・胴鯡、正米等諸物価通知状」（高岡坂下町 大倉太平→大坂今橋一丁目 秋馬新三郎）（年未詳10月2日付）	1	歴史
49	堀川敬周画・殿岡神通賛《秋景山水図》（1857～58年頃）	1	美術
50	堀川敬周地面売渡証文（1854年）	1	歴史
51	筏井竹の門筆《小督の塚》（1919年頃）	1	美術
52	筏井竹の門書簡（附、竹の門宛書簡3通）（1918・1919年頃）	2	歴史

（2）寄贈資料（計34件502点。受入順。）

No.	資料名称	数量	分類	寄贈者
1	射水郡伏木・八坂家文書	（一括）	歴史	今井昭次氏
2	重台・重箱	3	民俗	新保弘子氏
3	電気計算機	1	民俗	個人
4	蒔絵下駄	2	民俗	
5	高岡産業博覧会 記念風呂敷	1	歴史	中野洋子氏
6	国重半山（正文）筆「七絶」	1	美術	個人
7	射水郡伏木・堀田家文書	（一括）	歴史	堀田一善氏
8	島田孝之宛書簡（犬養毅、田口卯吉）	2	歴史	東 修氏
9	山岡鉄舟筆《漢詩屏風》（国泰寺千双屏風）	2	美術	
10	600形A2自動式卓上電話機	1	民俗	中村治郎氏
11	『軍隊手帳』	1	歴史	磯淵明代氏
12	陸軍教本『歩兵射撃教範』、『歩兵操典』、『野外要務令』	3	歴史	
13	櫛	7	民俗	
14	かんざし	14	民俗	
15	懐紙入れ	3	民俗	
16	「教育実体鏡」装置	1	民俗	
17	笹原文次肖像写真	1	歴史	
18	笹原家家族写真	12	歴史	
19	昭和26年度高陵中学校第4回卒業アルバム	1	歴史	
20	4号A電話機	1	民俗	皆月浩紀氏
21	高岡市立高岡東部中学校校内新聞印刷原版	31	歴史	桶谷哲也氏
22	「材木商・谷内喜太郎 中帳」	2	歴史	金森和夫氏
23	鉄製火消し壺等	（一括）	民俗	
24	高岡仏壇	1	民俗	
25	国泰寺57世・佐竹龍水書 扁額	1	美術	

26	デルビル磁石式壁掛電話機	1	民俗	個人
27	肥料商看板「宮本寛商店/日産化学特約店」(高岡市博労町)	1	民俗	宮本仁氏
28	七本杉 火鉢	2	民俗	個人
29	空気応用自動消火器	1	民俗	酢谷傳右衛門氏
30	高岡市東下関第十二班 隣保班長腕章	1	民俗	晒谷和子氏
31	高岡市東下関第十二班 班旗	1	民俗	
32	射水郡下関村・飯田家文書	(一括)	歴史	飯田弘一氏
33	慶長10年10月24日付前田利長知行所目録(野村小右衛門他3名宛)	1	歴史	鈴木康支氏
34	筏井竹の門書簡(発田喜太郎宛)2通	2	歴史	島田慶博氏

(3) 保存活動

展示室・収蔵庫等の温湿度管理、裏打・軸装、桐箱作成、中性紙封筒・箱での保存、収蔵庫清掃、害虫侵入対策、二酸化炭素ガスによる資料燻蒸等

4 調査・研究活動

- (1) 収蔵資料及び未調査資料の調査整理（調査・整理・登録・撮影・データベース化等）
- (2) 収蔵資料の収集・分類・整理方針にかかる調査研究
- (3) 今後の企画展（特別展・館蔵品展等）、常設展にかかる調査研究
- (4) 各種研究会・研修会、講座等への参加 計12件
 - 〔富山県博物館協会〕平成30年度総会（4月25日）
 - 〔富山県歴史資料保存利用機関連絡協議会〕平成30年度総会講演会（5月23日）
 - 〔北信越博物館協議会〕第60回総会・研究協議会（5月24～25日）
 - 〔全国歴史民俗系博物館協議会〕平成30年度（第7回）年次集会（7月5日～6日）
 - 〔(公財)高岡市民文化振興事業団〕救命講習会（7月20日）
 - 〔市職員研修所〕接遇・クレーム対応研修（9月26日）
 - 〔西村幸夫町並み塾実行委員会〕第60回町並み塾in戸出・町並み見学会（10月27日）
 - 〔富山県歴史資料保存利用機関連絡協議会〕歴史資料実務担当者研修会（11月22日）
 - 〔北前船日本遺産推進協議会〕学芸員研究セミナー（12月12～13日）
 - 〔東京文化財研究所〕第13回無形民俗文化財研究協議会（12月14日）
 - 〔日本博物館協会〕平成30年度研究協議会（H31.2月21日～22日）
 - 〔富山県博物館協会〕平成30年度富山県博物館協会研修会（H31.3月20日）
- (5) 収蔵資料情報のデジタル化による資料管理（デジタル・アーカイブの推進）
- (6) 国登録有形民俗文化財「高岡鋳物の製作道具及び製品」の国指定重要民俗文化財指定に向けた当館収蔵鋳物資料の調査
- (7) その他の調査・研究

5 高岡市立博物館に親しむ会との連携

高岡市立博物館に親しむ会は、博物館の活動を支援するほか、高岡の歴史と文化に親しみ、相互に親睦を図る活動を行うことを目的に平成25年3月6日に設立されたものである。郷土高岡への理解を深め、市民に親しまれる新しい博物館づくりを進めている。

○会員数 344件（一般332件、賛助12件）

・総会

日 時：平成30年4月19日（木）午後1時30分～

会 場：新館3階講堂

内 容：平成29年度事業報告、収支決算報告ならびに平成30年度事業計画（案）、
収支予算（案）、役員の改選など

○記念講演会

演 題：「越中における宗良親王の足跡」

講 師：高野昭憲氏〔元高岡市万葉歴史館副館長、元高岡市福岡歴史民俗資料館学芸員〕

※高野先生は令和元年7月にご逝去されました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。



総会



講演会

・広報部会（計2回）

日 時：平成30年9月12日（水）午前10時～、平成31年3月8日（金）午後1時～

・ワークショップ部会

日 時：平成31年2月6日（水）午前10時～

・研修部会

日 時：平成31年2月19日（火）午前10時～

・役員会

日 時：平成31年3月8日（金）午後2時30分～

〔事業〕

・郷土史を訪ねて①「歩く博物館 ～1万歩ウォークでふるさと再発見～」（全3回。参加者累計82人）

〔第22回〕米 治一の彫刻を幾つか、歩いて鑑賞する（バス・徒歩）

日 時：平成30年5月11日(金) 午前10時～午後1時

講 師：樽谷雅好氏（同会研修部会長。高岡市児童文化協会副会長。以下同）

参加者：26人

〔第23回〕富山市の寺院に、高岡を垣間見る（電車・徒歩）

日 時：平成30年7月13日(金) 午前9時30分～午後1時

参加者：26人

〔第24回〕牧野で南北朝の歴史と文学を歩く（バス・徒歩・電車）

日 時：平成30年10月12日(金) 午前8時30分～午後0時30分

参加者：30人

・郷土史を訪ねて②「走る博物館 ～還暦過ぎの修学旅行～」(全2回。参加者累計47人)

〔第3回〕野田山「前田家墓所（利長と満姫）」に臨む（バス）

日 時：平成30年6月8日(金) 午前9時～午後3時30分

参加者：24人

〔第4回〕「加賀騒動」を、石川県－加賀・能登－で知る（バス）

日 時：平成30年9月14日(金) 午前8時30分～午後4時30分

参加者：23人

・郷土史を訪ねて③「小矢部川を呑む－福光(西砺波郡)から高岡を眺める－【成政】」

日 時：平成30年10月26日(金) 午前8時30分～午後4時

参加者：20人



第 24 回 歩く博物館「牧野で南北朝の歴史と文学を歩く」(万葉線・庄川口駅前にて)



「小矢部川を呑む」(福光・光徳寺前にて)

・「呈茶席」(全8回。全て土曜日)

日 時：平成30年4月21日、4月28日、5月12日、5月19日、
9月15日、9月22日、9月29日、10月13日

各日午前11時～午後3時

会 場：茶室「松聲庵」

協 力：近藤宗美氏（同会ワークショップ部会長。茶道裏千家淡交会正教授）ほか

参加者累計：235人



呈茶席

- ・「高岡古文書ボランティア」＜平成27年4月設立＞（全12回。原則第3土曜日 ※11月のみ第2土曜日開催）
日 時：（本年度通算35回～46回）平成30年4月21日、5月19日、6月16日、7月21日、8月18日、
9月15日、10月20日、11月10日、12月15日、平成31年1月19日、2月16日、3月16日
各日午後2時～午後3時30分

会 場：新館第2企画展示室

参加者累計：216人



古文書ボランティア

- ・広報誌「鍛冶丸」発行
第10号（A4版、総頁数6、600部）
第11号（A4版、総頁数6、600部）

〔ボランティア活動協力〕

- ・親しむ会事業（歩く博物館3回、走る博物館2回、呈茶席8回、小矢部川を呑む1回）
受付等ボランティア のべ28人
- ・博物館事業（屋上開放8日間、呈茶の会2回、郷土学習講座3回）
受付・駐車場整理等ボランティア のべ20人

〔役員名簿〕

役職	氏名	所属	備考
会 長	太 田 久 夫	前富山県郷土史会会長	
副会長	多 田 慎 一	裏千家淡交会高岡支部副支部長	
	神 保 成 伍	元高岡市立博物館館長	企画運営委員長
	晒 谷 和 子	元高岡市立博物館館長	
理 事	荒 俣 勝 行	美術コレクター	
	水 野 俊 雄	高岡観光ボランティアガイド「やまたちばな」	
	岡 田 有 弘	岡田美術店	
	清 水 静 子	観光ガイドボランティアグループ「あいの風」	
	立野井 亮	高岡商工会議所青年部理事	
	樽 谷 雅 好	公益財団法人 高岡市民文化振興事業団評議員	研修部会長
	水 上 悦 子	版画家	
	近 藤 昭 美	茶道裏千家淡交会正教授	ワークショップ部会長
	般 若 慎一郎	金屋町まちづくり協議会会長	広報部会長
	西 範 子	茶道裏千家淡交会教授	
	小 嵐 晴 美	古儀茶道藪内流教授	
監 事	中 尾 光 博	高岡市立博物館に親しむ会元事務局長	
	宇 波 真一郎	高岡古城ライオンズクラブ	

（敬称略・順不同。任期：平成29～30年度）

Ⅱ 管理運営の状況

1 職員名簿

職 名	氏 名	任 用
館 長	廣 瀬 由美子	公益財団法人高岡市民文化振興事業団嘱託職員
主査学芸員	仁ヶ竹 亮 介	公益財団法人高岡市民文化振興事業団職員
学 芸 員	宇 川 恵 里	公益財団法人高岡市民文化振興事業団職員
事 務 員	生 源 貴 子	公益財団法人高岡市民文化振興事業団契約職員
学 芸 員 補	増 田 豊	公益財団法人高岡市民文化振興事業団契約職員
学 芸 員 補	伊 東 梨 愛	公益財団法人高岡市民文化振興事業団契約職員
学 芸 員 補	坂 田 吏永子	公益財団法人高岡市民文化振興事業団契約職員

※受付員：野村明美、島寿男、山田早苗、武部千代子、北野晶子、橘規矩雄・本保澄雄（両名9月末で退職）

2 歳出予算（平成30年度事業別）

	事業名	前年度	本年度	差 異
管理費	施設管理費	15,317	13,589	△ 1,728
	人件費（事業団職員分のみ）	18,675	19,152	477
	小 計	33,992	32,741	△ 1,251
事業費	調査研究費	509	1,430	921
	講演講習会費	325	248	△ 77
	資料整備保存費	5,785	5,515	△ 270
	特別展	599	600	1
	常設展（企画展等含む）	585	877	292
	小 計	7,803	8,670	867
合 計		41,795	41,411	384

3 高岡市立博物館協議会

職 名	氏 名	任 用
学識経験者	神 保 成 伍	元高岡市立博物館館長
	日 和 祐 樹	元高岡市福岡歴史民俗資料館学芸員
	中 葉 博 文	富山県民生涯学習カレッジ砺波地区センター副所長
	大 菅 洋 介	高岡商工会議所青年部（平成30年度賑わい創出委員会委員長）
学 校 教 育	寺 田 恵	高岡市小学校長会代表（高岡市立川原小学校長）
	杉 山 直 孝	高岡市中学校長会代表（高岡市立国吉中学校長）
	中 村 達麻呂	高岡地区高等学校長会代表（高岡南高等学校長）
社 会 教 育	川 津 良 成	伝統工芸高岡銅器振興協同組合副理事長
	武蔵川 義 則	伝統工芸高岡漆器協同組合副理事長
	沢 田 健 寿	高岡観光ボランティアガイド「やまたちばな」参与
	小 泉 弘 子	地域女性ネット高岡会長
	中 山 真 紀	高岡市 PTA 連絡協議会副会長

〔敬称略・順不同。任期2年(平成30年2月1日～令和2年1月31日)〕

4 高岡市立博物館条例

平成17年11月1日
条 例 第206号

(設置)

第1条 博物館法(昭和26年法律第285号。以下「法」という。)に基づき、高岡市立博物館(以下「博物館」という。)を設置する。

(名称及び位置)

第2条 博物館の名称及び位置は、次のとおりとする。

名称 高岡市立博物館
位置 高岡市古城1番5号

(事業)

第3条 博物館は、歴史、民俗、産業などに関する資料を収集し、保管し、及び展示して、教育的配慮のもとに一般公衆の利用に供し、その教養、調査、研究等に資するために必要な事業を行い、併せてこれらの資料に関する調査研究を行うものとする。

(博物館協議会)

第4条 法第20条第1項の規定に基づき、高岡市立博物館協議会を置く。

2 高岡市立博物館協議会は、委員12人以内をもって組織する。

3 委員は、次に掲げる者のうちから教育委員会が任命する。

- (1) 学校教育及び社会教育の関係者
- (2) 家庭教育の向上に資する活動を行う者
- (3) 学識経験を有する者

4 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

5 委員は、再任されることができる。

(指定管理者による管理)

第4条の2 博物館の管理は、地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条の2第3項に規定する指定管理者(以下「指定管理者」という。)にこれを行わせる。

(指定管理者が行う業務)

第4条の3 指定管理者は、次に掲げる業務を行うものとする。

- (1) 事業の実施に関する業務
- (2) 利用の許可に関する業務
- (3) 利用に係る料金の收受及び決定に関する業務
- (4) 施設及び設備の維持管理に関する業務
- (5) 前各号に掲げるもののほか、高岡市教育委員会(以下「教育委員会」という。)が必要と認める業務

(開館時間)

第4条の4 博物館の開館時間は、午前9時から午後5時までとし、展示室へ入室できる時間は、午後4時30分とする。ただし、指定管理者は、必要と認めるときは、教育委員会の承認を得て、これを変更することができる。

(休館日)

第4条の5 博物館の休館日は、次のとおりとする。ただし、指定管理者は、必要と認めるときは、教育委員会の承認を得て、これを変更し、又は臨時に休館することができる。

- (1) 月曜日(その日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「休日」という。)に当たるときは、その日後においてその日に最も近い休日以外の日)
- (2) 12月29日から翌年の1月3日までの日

(観覧料)

第5条 博物館の展示資料を観覧しようとする者が、博物館の利用に係る料金(以下「利用料金」という。)として納める観覧料は、無料とする。

2 前項の規定にかかわらず、特別展示等を行う場合の観覧料は、指定管理者があらかじめ教育委員会の承認を得て別に定める。

3 前項の観覧料は、指定管理者に観覧の際、前納しなければならない。

(施設の利用)

第6条 博物館の施設のうち次に掲げるものを利用しようとする者は、あらかじめ指定管理者の許可を受けなければならない

附 則(平成17年12月22日条例第272号)

(施行期日)

1 この条例は、平成18年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 この条例の施行の日の前日までに、改正前の高岡市立博物館条例第6条の規定によりなされた許可は、改正後の高岡市立博物館条例第6条の規定によりなされた許可とみなす。

附 則(平成19年3月22日条例第17号)

この条例は、平成19年4月1日から施行する。

附 則(平成24年3月22日条例第10号)抄

(施行期日)

1 この条例は、公布の日から施行する。ただし、第1条及び第5条から第12条までの規定は、平成24年4月1日から施行する。
(高岡市立博物館条例の一部改正に伴う経過措置)

5 この条例の施行の際現に第2次一括法による改正前の博物館法(昭和26年法律第285号。以下「旧博物館法」という。)第21条の規定により高岡市教育委員会が任命した高岡市立博物館協議会の委員(以下この項において「旧委員」という。)である者は、施行日に第8条の規定による改正後的高岡市立博物館条例(以下この項において「新条例」という。)第4条第3項の規定により高岡市立博物館協議会の委員として任命されたものとみなす。この場合において、その任命されたものとみなされる委員の任期は、新条例第4条第4項の規定にかかわらず、施行日における旧委員としての任期の残任期間と同一の期間とする。い。許可を受けた事項を変更しようとするときも、同様とする。

(1) 企画展示室(展覧会等開催のため第1企画展示室、第2企画展示室及び第3企画展示室を占用して利用する場合に限る。)

(2) 茶室

(利用の制限)

第7条 指定管理者は、前条の規定により利用の許可を受けた者(以下「利用者」という。)が次の各号のいずれかに該当するときは、利用の許可を取り消し、又は利用を停止することができる。

- (1) この条例又はこの条例に基づく規則の規定に違反したとき。
- (2) その利用が博物館の目的に適しないと認めたとき。
- (3) 前2号に掲げるもののほか、博物館の管理上特に必要があると認めるとき。

2 前項の規定による処分をした場合において利用者に損害が生ずることがあっても、指定管理者は、その責めを負わない。

(利用権の譲渡等の禁止)

第8条 利用者は、利用の権利を他に譲渡し、又は転貸してはならない。

(原状回復の義務)

第9条 利用者は、博物館の施設の利用を終了したときは、直ちに原状に回復しなければならない。第7条第1項の規定により、利用の許可を取り消されたときも、同様とする。

(入館の制限)

第10条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、入館を制限し、又は退館を命ずることができる。

- (1) 他人に迷惑をかけるおそれがあると認められる者
- (2) 展示品又は施設、設備等を損傷するおそれがあると認められる者
- (3) 博物館の管理上必要な指示に従わない者

(施設利用料)

第11条 利用者は、利用料金として別表に掲げる額の範囲内で指定管理者があらかじめ教育委員会の承認を得て定める額の施設利用料を納めなければならない。

2 施設利用料は、利用許可の際、納入しなければならない。

(施設利用料の減免)

第12条 指定管理者は、教育委員会規則の定めるところにより、施設利用料を減額し、又は免除することができる。

(施設利用料の不還付)

第13条 既納の施設利用料は、還付しない。ただし、指定管理者は、特別の事由があると認めるときは、その全部又は一部を還付す

ることができる。
(利用料金の収入)
第14条 利用料金は、指定管理者の収入とする。
(損害賠償)
第15条 利用者は、建物その他付属設備、器具等を損傷し、又は滅失したときは、これを原状に回復し、又はその損害を賠償しなければならない。ただし、市長は、特別の事由があると認めるときは、その全部又は一部を免除することができる。
(委任)
第16条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則
(施行期日)
1 この条例は、平成17年11月1日から施行する。
(経過措置)
2 この条例の施行の日(以下「施行日」という。)の前日までに、合併前の高岡市立博物館条例(昭和45年高岡市条例第23号)の規定によりなされた処分、手続その他の行為は、この条例の相当規定

5 高岡市立博物館条例施行規則

(趣旨)
第1条 この規則は、高岡市立博物館条例(平成17年高岡市条例第206号。以下「条例」という。)の施行に関し必要な事項を定めるものとする。
(協議会の組織)
第2条 条例第4条に規定する高岡市立博物館協議会(以下「協議会」という。)に会長及び副会長を置き、委員のうちから互選により定める。
2 会長及び副会長の任期は、委員の任期による。
3 会長は、会務を総理し、会議の議長となる。
4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。
(会議の招集)
第3条 会議は、必要に応じ会長が招集する。
(議事)
第4条 協議会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
(利用許可の申請)
第5条 条例第6条の規定により、高岡市立博物館(以下「博物館」という。)の施設の利用許可を受けようとする者は、利用許可申請書を指定管理者に提出しなければならない。
2 前項の申請書は、利用期日(利用しようとする日が引き続き2日以上であるときは、その初日)の6箇月前から2週間前までの間に提出しなければならない。ただし、指定管理者が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。
(利用の許可)
第6条 指定管理者は、博物館の施設の利用を許可したときは、利用許可書を交付するものとする。

附 則
(施行期日)
1 この規則は、平成17年11月1日から施行する。
(経過措置)
2 この規則の施行の日の前日までに、合併前の高岡市立博物館に関する規則(昭和45年高岡市教育委員会規則第6号)の規定によりなされた手続その他の行為は、この規則の相当規定によりなされた手続その他の行為とみなす。

附 則(平成17年12月22日教委規則第61号)
(施行期日)

によりなされた処分、手続その他の行為とみなす。

附 則(平成26年3月20日条例第52号)
この条例は、平成26年4月1日から施行する。

別表(第11条関係)

名 称	施 設 利 用 料	
企画展示室	1日につき	9,720円
茶 室	1日につき	4,320円

備考

- 1 冷房又は暖房利用料は、施設利用料の2割に相当する額とする。
- 2 利用に際し、入場料又はこれに類するものを徴収する場合は、施設利用料の5割に相当する金額(入場料又はこれに類するものが1,000円以下の場合にあっては、3割に相当する金額)を加算する。
- 3 施設利用料の算定に当たって、10円未満の端数を生じたときは、当該端数は切り捨てるものとする。

平成17年11月1日
教育委員会規則第39号

- 1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。
(経過措置)
- 2 この規則の施行の日の前日までに、改正前の高岡市立博物館条例施行規則の規定によりなされた手続その他の行為は、改正後の高岡市立博物館条例施行規則の規定によりなされた手続その他の行為とみなす。
(利用許可の取りやめ及び変更)
第7条 利用の許可を受けた者は、利用の取りやめ又は変更について許可を受けようとするときは、利用取りやめ(変更)申請書を指定管理者に提出しなければならない。
(施設利用料の減免)
第8条 条例第12条の規定により、施設利用料の減免を受けようとする者は、施設利用料減免申請書を指定管理者に提出しなければならない。
2 施設利用料の減免の範囲及び割合は、別表のとおりとする。ただし、指定管理者が特に必要があると認めて高岡市教育委員会の承認を得たときは、この限りでない。
3 施設利用料の減免額の算定に当たって、10円未満の端数を生じたときは、これを10円として計算する。
(施設利用料の還付)
第9条 条例第13条ただし書の規定により施設利用料を還付する場合は、次の各号に掲げる区分に応じ当該各号に定めるところによる。
(1) 条例第7条第1項第3号の規定により、指定管理者が利用許可を取り消したとき全額を還付する。
(2) 災害その他不可抗力により利用することができなくなったとき 全額を還付する。
(3) 前2号に掲げるもののほか、指定管理者が還付を必要と認めるとき8割相当額を還付する。
(補則)
第10条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、教育長が別に定める。

別表(第8条関係)

企画展示室、講堂及び茶室の施設利用料(冷暖房利用料は除く。)を減免する場合

利用区分	減免率
市又は教育委員会の主催する場合	100%
市又は教育委員会の共催する場合	50%

6 入館者数（「小人」は中学生以下。単位：人）

①常設展「高岡ものがたり－楽しく知ろう！ひらめき・ミュージアム－」

会期：4月1日（日）～平成31年3月31日（日）（開催日数306日間）

男性		女性		合計
一般	小人	一般	小人	
14,439	2,774	11,671	2,596	31,480

②館蔵品展「昔の道具とくらし」

会期：4月1日（日）～5月6日（日）（開催日数32日間）

男性		女性		合計
一般	小人	一般	小人	
2,959	731	2,645	670	7,005

③特別展「古写真にみる高岡」

会期：6月2日（土）～8月19日（日）（開催日数68日間）

男性		女性		合計
一般	小人	一般	小人	
3,450	944	2,452	899	7,745

④企画展「堀田一族と伏木 ～堀田善衛 生誕100年・日本遺産「北前船寄港地」追加認定記念～」

会期：9月8日（土）～11月25日（日）（開催日数68日間）

男性		女性		合計
一般	小人	一般	小人	
3,684	387	3,572	391	8,034

⑤館蔵品展「昔の道具とくらし」

会期：平成31年2月2日（土）～3月31日（日）（開催日数46日間）

男性		女性		合計
一般	小人	一般	小人	
1,705	197	1,303	179	3,384

総計（開催延日数520日間）

男性		女性		合計
一般	小人	一般	小人	
26,237	5,033	21,643	4,735	57,648

過去5年間の入館者数

H25	H26	H27	H28	H29
31,400	41,832	34,644	40,923	49,638

7 当館関連記事一覧

〔平成30年〕

- 4月 5日 北日本新聞「催し前に散らないで／主催者「困った」前倒しも／県内 早過ぎる満開」
- 4月 7日 富山新聞「桜の開花で屋上の開放1週間早く／高岡市立博物館景色楽しんで」
- 4月 7日 北日本新聞「屋上から桜楽しんで」
- 4月 7日 北日本新聞「維新から150年 タイムスリップ 明治のとやま① プロローグ／近代化の準備始まる」
- 4月 8日 富山新聞「お点前優美に初披露／ロシア出身加門さん／高岡市立博物館 呈茶の会」
- 4月15日 北日本新聞「博物館屋上でコーヒー提供／市民会館サポーターカフェ」
- 4月19日 富山新聞「ロシア美人のお茶」
- 4月22日 富山新聞「博物館に茶席／高岡」
- 4月22日 北日本新聞「ボランティアが古文書整理」
- 4月29日 北日本新聞「古地図手に町並み散策／地元ボランティアが案内」
- 5月12日 富山新聞「米治一(彫刻家)の作品訪ね／高岡・歩く博物館」
- 5月12日 北日本新聞「郷土の偉人歩いて学ぶ」
- 5月23日 北日本新聞「高岡文化5施設／市民満足度2割以下／老朽化や立地条件影響」
- 5月23日 富山新聞「高岡市のニーズ調査／出掛けたことある文化施設58%が無回答」
- 5月25日 朝日新聞「特別展「古写真にみる高岡」」
- 6月 1日 北日本新聞「戦中戦後の高岡 今に／新たに収集170枚紹介／市博物館あすから写真展」
- 6月 3日 北陸中日新聞「40～50年代の高岡 写真展で振り返る／市立博物館」
- 6月 3日 読売新聞「明治期の姿 完全再現／ふるさと写真館／高岡市伏木気象資料館」
- 6月 6日 富山新聞「高岡市立博物館の特別展「古写真にみる高岡」」
- 6月 7日 読売新聞「高岡古城公園 戦前の写真／現存しない鳳凰塔も「貴重な資料」」
- 6月13日 富山新聞「古地図手に高岡学ぶ／県民カレッジ高岡地区センター 市中心部巡る」
- 6月17日 北日本新聞「地元の先駆者学ぶ」
- 6月17日 富山新聞「島田孝之の功績 市民が理解深める 高岡・中田「ほたる塾」」
- 6月28日 北日本新聞「高岡との縁感じて／市立博物館で初公開／渋沢栄一から県内銀行支配人への書簡」
- 6月28日 富山新聞「渋沢栄一の手紙入手／高岡市立博物館30日から展示／高岡共立銀行の支配人宛て」
- 6月29日 読売新聞「渋沢栄一 高岡への手紙／銀行関係者宛て／あすから公開」
- 6月30日 富山新聞「懐かしい玩具ずらり／新湊博物館」(当館出品資料の展示)
- 7月 1日 富山新聞「渋沢栄一の手紙公開／高岡市立博物館」
- 7月20日 富山新聞「博物館の外観をデザインしたトートバック販売」
- 7月24日 富山新聞「高岡商工会議所／藤子F氏ゆかりの地巡って／きょうからスタンプラリー」
- 7月24日 北日本新聞「藤子・Fさんゆかりの地巡り／スタンプ集め作品の魅力体感／きょうからラリー／高岡商議所」
- 7月25日 北日本新聞「博物館デザインのバッグ」
- 7月25日 北陸中日新聞「すてきな外観 トートに 高岡市博物館／「親しむ会」製作」
- 7月28日 北日本新聞「堀田善衛さん随筆掲載／中国で幻の日本語誌発見／全集未収録作品／終戦間際 冷静に戦後見据え」(企画展「堀田一族と伏木」に関連)
- 7月28日 富山新聞「高岡出身堀田善衛さん随筆掲載／中国に幻の日本語雑誌／45年8月創刊、1号で幕」(企画展「堀田一族と伏木」に関連)
- 8月 5日 北日本新聞「来月16日に秋季大祭」
- 8月15日 北日本新聞「伝統工芸高岡銅器振興協同組合／求む！大正期の花器・置物／「生型鑄造法」国指定目指す」
- 8月17日 富山新聞「高岡銅器／「生型鑄造法」国指定に申請／経産省の伝統的工芸品／後継者育成につなげ」
- 8月18日 北日本新聞「江戸時代の碁盤や昭和のおもちゃ／新湊博物館企画展」
- 8月22日 北日本新聞「堀田家と棟方交流／伏木の廻船問屋／高岡市立博物館はがき発見／石崎光瑤作品鑑賞で感謝」
- 8月22日 富山新聞「志功 善衛の父に礼状／高岡市立博物館が確認／光瑤作品の鑑賞に対し」
- 8月23日 読売新聞「志功の書簡 高岡で新発見／堀田善衛の父宛て礼状／企画展で公開来月8日から」
- 9月 9日 北日本新聞「堀田善衛のはがき初公開／高岡市立博物館／生誕100年で企画展」
- 9月14日 北陸中日新聞「善衛の一族と寄港地伏木／堀田家文書、自筆のはがきも／高岡生誕100年、日本遺産記念企画展」
- 9月14日 朝日新聞「企画展「堀田一族と伏木～堀田善衛生誕100年・日本遺産『北前船寄港地』追加設定記念～」
- 9月14日 富山新聞「古文書読み解く技を学ぶ教室」
- 9月15日 富山新聞「加賀騒動ゆかり寺や墓など巡る／羽咋、金沢市／高岡市立博物館」
- 9月16日 富山新聞「高岡市立博物館呈茶席」
- 9月17日 北日本新聞「博物館で抹茶味わう」
- 9月18日 北日本新聞「ボランティアが古文書を整理／市立博物館に親しむ会」
- 9月22日 北日本新聞「北前船や伏木の史料160点／市立博物館 堀田善衛生誕100年展」
- 9月29日 富山新聞「テクノドームに常設ギャラリー／高岡市立博物館」
- 10月 1日 富山新聞「高岡で市民が古文書調査」
- 10月 4日 北日本新聞「高岡市立博物館／幕末の動乱つぶさに／松陰らの事件記す／坪井信良の書簡収蔵／6日公開」

10月 5日 北陸中日新聞「坪井信良の書簡 新発見／高岡出身の蘭方医／あすから市博物館で公開」
 10月 5日 富山新聞「高岡出身の蘭方医／坪井信良の書簡初公開／あすから市立博物館」
 10月 7日 富山新聞「万葉茶会に秋の風情／高岡まつり2日目／全20巻朗唱の会続く」
 10月 7日 富山新聞「郷土の偉人を知る」
 10月 7日 北日本新聞「高峰博士の歩み／移動資料展で紹介／高岡・横田小」
 10月13日 富山新聞「宇多派の名刀伝える／福岡歴史民俗資料館／きょうから特別展」
 10月13日 富山新聞「高岡で「歩く博物館」中曽根神社など巡る」
 10月14日 富山新聞「秋の風情と一服堪能」
 10月20日 北日本新聞「福岡の刀工集団紹介」
 10月21日 読売新聞「堀田善衛生誕100年企画展／初公開の書簡、書斎を再現／高岡、富山」
 10月22日 北日本新聞「勝興寺(伏木)の宝 活用探る／96点ネットで公開／本堂でシンボ周知へ「見て楽しいが鍵」」
 10月27日 北陸中日新聞「地元名刀／真髓に迫る／福岡ゆかり、宇多派の品展示」
 11月 8日 北陸中日新聞「生型鑄造法 国指定に／高岡銅器 伝統的工芸品に追加」
 11月 8日 日本経済新聞「国の伝統工芸に1技法追加指定 高岡銅器」
 11月 8日 富山新聞「生型鑄造法を追加指定／高岡銅器／国伝統的工芸品」
 11月 8日 北日本新聞「高岡銅器の「生型鑄造法」／国伝統工芸品に追加」
 11月12日 読売新聞夕刊「無常嘆かず 希望の種探す」
 11月17日 富山新聞「高岡の魅力に理解／県信組「けんしん会」」
 11月25日 北日本新聞「堀田善衛さんの印象・思い出語る／おいの一善さん」
 11月25日 富山新聞「「多様性を受け入れ、盤石に根付く」堀田善衛の思想紹介／高岡で講座 おい一善さん語る」
 12月 8日 北日本新聞「維新から150年 タイムスリップ 明治のとやま^⑤／高岡の経済・産業①／悲願の米商会所設立」
 12月13日 朝日新聞「唐櫃制作に後継者の力／射水の宮大工・舟木さんが参加／高野山空海に食事運ぶ儀式で使用」
 12月15日 北日本新聞「維新から150年 タイムスリップ 明治のとやま^⑥／高岡の経済・産業②／伏木築港 藤井能三が尽力」
 12月22日 北日本新聞「維新から150年 タイムスリップ 明治のとやま^⑦／高岡の経済・産業③／次々と工場進出」
 12月29日 北日本新聞「維新から150年 タイムスリップ 明治のとやま^⑧／高岡の経済・産業④／高岡銅器の量産目指す」
 12月29日 北日本新聞「売れっ子絵師生活は苦し…／高岡市立博物館」

〔平成31年〕

1月 1日 北日本新聞「平成から新時代へ／伏木港120周年／江戸～明治北前船交易で繁栄／藤井能三が近代港への礎」
 1月 4日 北日本新聞「高岡市立博物館／高岡の歴史を楽しく学ぼう！」
 1月 4日 富山新聞「古文書整理作業に苦心／本郷 信隆(79歳)」
 1月10日 読売新聞「堀川敬周 土地売却の証文／高岡初の町絵師／「暮らしより示す史料」」
 1月12日 朝日新聞「売れっ子絵師 堀川敬周 楽な生活描けず!?／高岡市立博物館、証文発見／先生は家貧にして宅地所を売却せられ…」
 1月14日 富山新聞「高岡初の町絵師・堀川敬周／最晩年は貧困生活／土地売却の証文を発見」
 1月14日 富山新聞「お宝コーナーに陶芸資料9点並ぶ／高岡市立博物館」
 1月17日 中日新聞「高岡が生んだ陶芸知って／市博物館企画展」
 1月18日 北日本新聞「天神様の鑑賞準備着々／山町筋あすから祭／市外の作品も登場」
 1月19日 富山新聞「古文書の読み方学ぶ／高岡・Uホールで講座」
 1月20日 富山新聞「高岡で市民が古文書調査」
 1月20日 北日本新聞「「天神様」鑑賞楽しむ／きょうまで掛け軸・人形30ヵ所／高岡山町筋」
 1月23日 北陸中日新聞「絵師・敬周 晩年は苦勞の色／「家貧ニシテ」宅地売却／高岡市博物館、証文発見」
 1月27日 北日本新聞「明治期の花器再現／文化財修復展示会」
 1月27日 富山新聞「明治期図案から高岡銅器の花瓶／成果展始まる」
 2月 1日 富山新聞「昔の道具と暮らし 時代の変遷感じて／あすから高岡市立博物館」
 2月 3日 富山新聞「高岡市立博物館の「昔の道具と暮らし」」
 2月 7日 北陸中日新聞「高岡市博物館 昔の暮らし 見て学んで／衣食住民具 懐古や発見」
 2月22日 富山新聞「利長の書状市文化財に／高岡審議会答申」
 2月22日 北日本新聞「利長書状 市文化財指定へ／年貢 詳細に指示」
 2月22日 北陸中日新聞「「前田利長書状」高岡市文化財に／審議会答申、27日指定」
 2月22日 朝日新聞「館蔵品展「昔の道具と暮らし」」
 2月23日 富山新聞「高岡の歴史学ぶ／会議所女性会セミナー」
 2月24日 北日本新聞「写真で市の歴史振り返る」
 2月25日 毎日新聞「利長の書状 文化財に／高岡市 審議会が指定答申」
 3月 3日 北日本新聞「市ゆかりの陶芸並ぶ／「焼き物を楽しむ」展」
 3月 5日 北日本新聞「9、10日 山町筋のひなまつり／町並みと人形楽しんで」
 3月29日 北日本新聞「明治の高岡銅器 細密な下絵搬出／来月4日から東京で展示」
 3月31日 富山新聞「屋上を展望台に／古城公園眺める／高岡市立博物館」
 3月31日 北日本新聞「古城公園展望台で桜眺めて／高岡」

Ⅲ 施設の状況

1 沿革

- 昭和44年（1969） 市制施行80周年・開町360年記念事業として高岡市美術館（昭和26年築）に隣接して建設することを決定。
- 8月 建設設計を完了。
- 10月 建設工事を着工。
- 45年（1970） 3月 建設工事を完了。高岡市立博物館条例を公布。
- 6月 高岡市立博物館に関する規則を公布。
- 開館。
- 8月 高岡市立博物館協議会委員委嘱（12人）。
- 46年（1971） 2月 博物館法（昭和26年法律第285号）第10条の規定に基づく公立博物館として文部省及び富山県教育委員会に登録。
- 10月 淡交会高岡支部より茶室を寄贈される。
- 平成6年（1994） 4月 美術館の移転分離により、旧美術館棟を博物館棟（現本館）として財産登録。
- 高岡市立博物館条例を一部改正。
- 8月 高岡市立博物館整備検討委員会設置（以後平成10年1月まで6回会議）。
- 8年（1996） 4月 財団法人高岡市民文化振興事業団へ管理運営委託。
- 10年（1998） 2月 高岡市立博物館整備検討委員会により「高岡市立博物館整備検討委員会報告書」が高岡市に提出される。
- 10月 本館で常設展「郷土の暮らしと文化」開催。
- 12年（2000） 新館1階収蔵庫改修工事の実施。
- 14年（2002） 7月 ホームページを公開。
- 18年（2006） 4月 財団法人高岡市民文化振興事業団が指定管理者となる。
- 19年（2007） 7月 常設展を「高岡ものがたり」にリニューアル。
- 11月 高岡市立博物館整備構想検討委員会設置（以後平成21年度まで継続）。
- 20年（2008） 11月 常設展リニューアル以後の入館者3万人を達成。
- 22年（2010） 2月 高岡市立博物館整備構想検討委員会より「高岡市立博物館整備構想報告書」が高岡市に提出される。
- 10月 デジタルアーカイブ推進事業を開始（～平成25年3月）。
- 23年（2011） 本館収蔵庫改修工事の実施。
- 10月 『二上射水神社文書目録』を編集。
- 24年（2012） 4月 指定管理者の財団法人高岡市民文化振興事業団が公益財団法人に移行。
- 10月 「収蔵資料検索システム－あなたの家が博物館－」の運用開始。
- 25年（2013） 3月 高岡市立博物館に親しむ会設立。
- 4月 佐渡家資料調査事業を開始。
- 常設展示室に「お宝コーナー」開設。
- 6月 常設展「高岡ものがたり」音声ガイド5台導入。
- 27年（2015） 3月 『佐渡家資料目録』を編集・発行。佐渡家資料調査事業を終了。
- 4月 高岡古文書ボランティア部会（親しむ会）設立。
- 28年（2016） 5月 本館入口付近の壁面等落下のため、本館正面玄関を閉鎖。
- 12月 本館正面玄関修繕工事の実施。
- 29年（2017） 6月 国登録有形文化財「高岡鋳物の製作用具及び製品」の国指定重要指定に向けた当館収蔵鋳物資料の調査開始。
- 9月 本館屋根瓦葺き替え工事の実施。
- 10月 本館天井張り替え工事の実施。
- 30年（2018） 10月 博物館サテライトギャラリーの開設（於・高岡テクノドーム）。

2 施設概要

所在地	富山県高岡市古城1番5号
敷地面積	1,298.6㎡
建築面積	1,214.91㎡
建築延面積	1,905.21㎡
開館	昭和45年6月1日
構造	鉄筋コンクリート造一部木造平屋建て(本館・事務棟) 鉄筋コンクリート造3階建て(新館)

〔本館〕

エントランスホールB	81.00㎡
第1常設展示室	243.00㎡
第2常設展示室	145.80㎡
休憩室	35.64㎡

〔新館1階〕

収蔵庫A	48.50㎡
第1企画展示室	97.20㎡

〔新館2階〕

第2企画展示室	145.80㎡
第3企画展示室	51.84㎡

〔新館3階〕

講堂	145.80㎡
収蔵庫C	64.80㎡
展示用具倉庫	17.70㎡

〔事務棟〕

収蔵庫B	48.50㎡
館長室	49.50㎡
事務室	27.50㎡

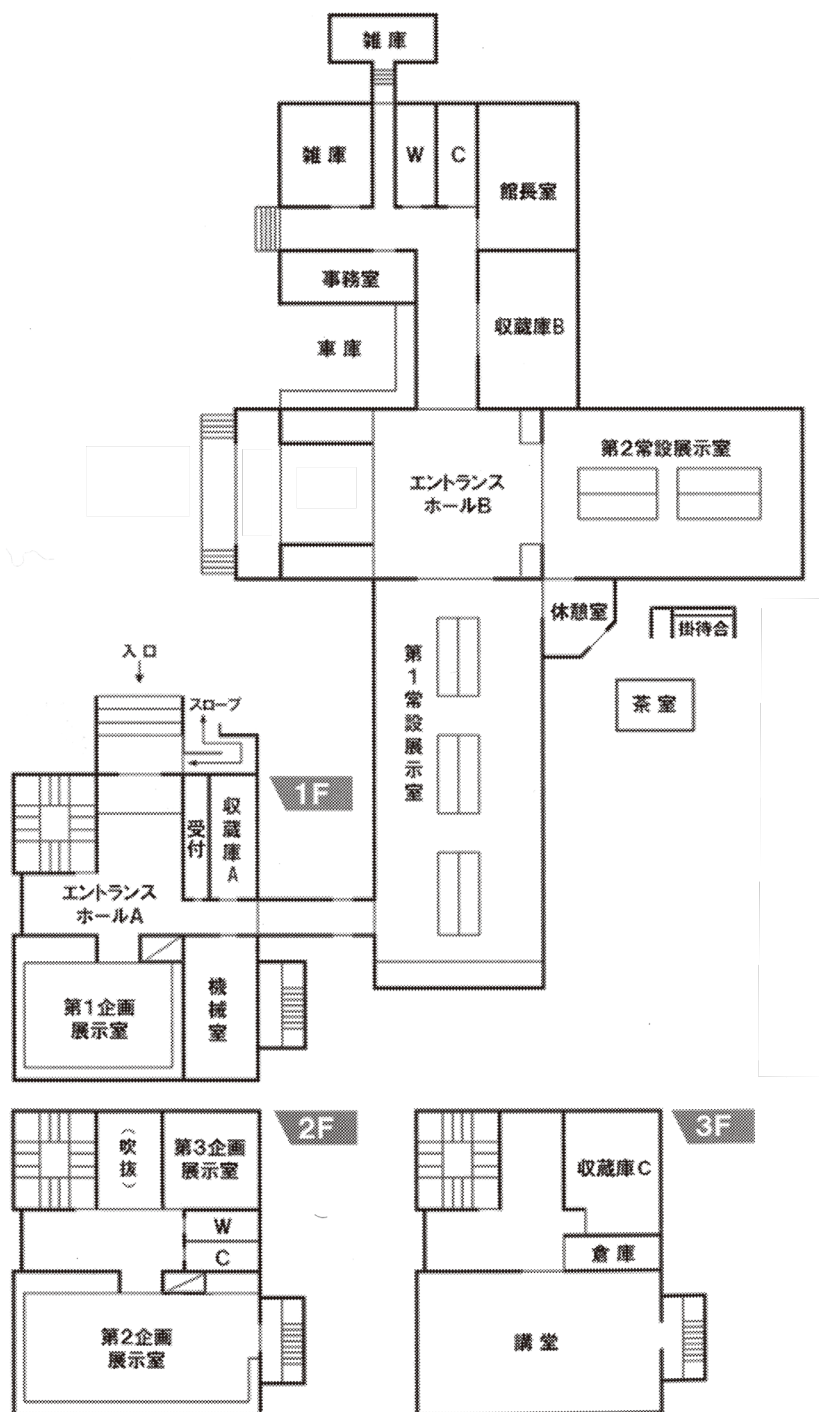
〔茶室〕

九畳本勝手下座床・水屋付き	29.48㎡
腰掛待合 三畳半	11.08㎡



博物館前景

〔館内略図〕



茶室「松聲庵」

3 利用案内

- ①開館時間 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
②休館日 月曜日（ただし月曜日が祝・休日の場合は開館し、翌平日が休館）
年末年始（12月29日～1月3日）

③入館料 無料

④施設利用料（税抜）

〔企画展示室〕一日につき	第1企画展示室	3,000円
	第2企画展示室	4,500円
	第3企画展示室	1,500円

〔茶室〕一日につき 4,000円

⑤交通

〔JR新高岡駅より〕・南口バス乗り場（1番または2番）で加越能バス「高岡駅」方面に乗車、「高岡駅南口」バス停下車

・JR城端線で高岡駅へ

〔高岡駅より〕・加越能バス「市民病院・職安前」行き、「大手町」バス停下車、徒歩5分
・徒歩約15分（高岡駅前より北東約1km）

〔自動車〕・能越自動車道 高岡ICから約20分
高岡北ICから約25分
・北陸自動車道 高岡砺波スマートICから約15分
小杉ICから約30分
砺波ICから約30分

〔周辺略図〕



高岡市立博物館年報 第33号

平成30年度

発 行 日 令和2年2月12日

編集・発行 高岡市立博物館
〒933-0044 富山県高岡市古城1-5
TEL : 0766-20-1572
FAX : 0766-20-1570
URL : <https://e-tmm.info/>

印 刷 キクラ印刷株式会社